

平成 30 年度 業務実績報告書

(第 2 期中期計画・第 5 事業年度)

令和元年 6 月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

目 次

I 機構の概要 (平成30年4月1日現在)

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	(1) 機構全体	5
	(2) 総合病院	15
	(3) こころの医療センター	16
	(4) こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	(1) 医療の提供	18
	(2) 医療に関する技術者(医師・看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	24
	(3) 医療に関する調査及び研究	24
	(4) 医療に関する地域への支援	28
	(5) 災害等における医療救護	29
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	29
	(1) 簡素で効率的な組織づくり	29
	(2) 効率的な業務運営の実現	29
	(3) 事務部門の専門性の向上	30
	(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成	30
5	項目別実績	31
	(参考) 用語解説	77

【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



静岡県立総合病院

 地方独立行政法人 静岡県立病院機構

Shizuoka Prefectural Hospital Organization

ともにつくる 信頼と安心の医療

この地方独立行政法人は、静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

I 機構の概要 (平成30年4月1日現在)

1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目27番1号

3 法人の設立年月日

平成21年4月1日

4 設立団体

静岡県

5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

6 業務

(1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

(2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

7 資本金の額

6,822,733,469円

8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成

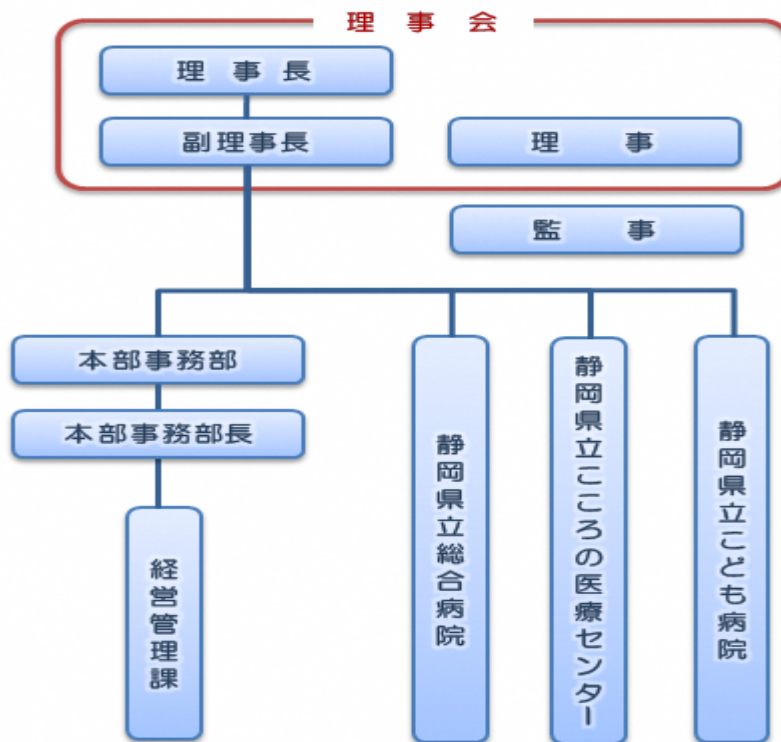
9 役 員

(平成31年3月末現在)

役 員 名	区 分	氏 名
理 事 長	常 勤	田 中 一 成
副 理 事 長	常 勤	山 口 重 則
理 事	常 勤	村 上 直 人
理 事	常 勤	坂 本 喜 三 郎
理 事	非 常 勤	柏 崎 順 子
理 事	非 常 勤	椎 名 正 樹
理 事	非 常 勤	中 村 彰 宏
理 事	非 常 勤	星 野 希 代 絵
監 事	非 常 勤	鈴 木 素 子
監 事	非 常 勤	谷 川 樹 史

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

10 組 織 図



○ 全職員数 (平成30年4月1日現在、現員)

医 師 ※	4 2 2 名
看 護 師	1, 3 7 0 名
医 療 技 術	3 1 9 名
事 務 ほ か	1 2 6 名
計	2, 2 3 7 名

※職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師4名、自治医大初期研修医5名、へき地指定公立病院派遣医2名、有期職員医師149名を含む。

※職員の増減状況は、14ページ参照

11 法人が運営する病院の概要

(1) 病院の名称・所在地等

(平成30年4月1日現在)

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科
	31科	4科	29科
許可病床数 (30年度)	一般 662床 結核 50床	精神 280床 (稼働172床)	一般 243床 (稼働235床) 精神 36床
年間延患者数 (30年度実績)	入院 233,305人 外来 436,699人	入院 57,217人 外来 42,454人	入院 75,395人 外来 110,185人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

(2) 施設状況

(平成 30 年 4 月 1 日現在)

区分	病棟		許可 病床数	内 容
総 合	本館	3 B	36	小児科、頭頸部・耳鼻いんこう科、救命救急科、形成外科、病院管理ベッド
		3 D	40	産婦人科、小児科（新生児）、消化器外科、病院管理ベッド
		4 A	44	総合内科、皮膚科、整形外科
		4 B	46	腎臓内科、泌尿器科
		4 D	41	血液内科、眼科、歯科口腔外科、病院管理ベッド
		5 A	46	消化器外科、泌尿器科、病院管理ベッド
		5 B	46	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科
		6 A	41	整形外科、消化器内科、病院管理ベッド
		6 B	50	結核
		6 C	48	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科
		6 D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、消化器内科、放射線科
	北館	3 E	42	整形外科、脳神経内科、救急科
		4 E	34	消化器外科、乳腺外科、形成外科、循環器内科、病院管理ベッド
		5 E	19	緩和医療科
	循環器病 センター	1 G	12	救命救急科
		3 G	12	集中治療室（ICU）、冠疾患集中治療室（CCU）
		4 G	47	循環器内科、心臓血管外科
		5 G	49	脳神経内科、脳神経外科、病院管理ベッド
	先端医学棟	4 M	20	高度治療室（HCU）
	計		712	（稼働 712 床）
こ こ ろ	北 1		42	医療観察法 12 床、慢性重症 30 床
	北 2		45	救急
	北 3		54	（休棟）
	南 1		42	回復期
	南 2		43	救急
	南 3		54	（休棟）
		計		280
こ ど も	北 2		36	新生児集中治療室（NICU）、回復治療室（GCU）
	北 3		30	内科系乳幼児
	北 4		28	感染観察
	北 5		28	内科系幼児学童
	西 2		24	産科、母体胎児集中治療室（MFIU）
	西 3		25	循環器科
	CCU		12	循環器集中治療室（CCU）
	PIU		12	小児集中治療室（PIU）
	西 6		48	外科系
	東 2		36	こころの診療科
		計		279

II 当該事業年度における業務実績報告

1 対象期間

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの1年間
(中期計画の期間 平成26年4月1日から平成31年3月31日までの5年間)

2 業務実績全般

(1) 機構全体

ア 総括

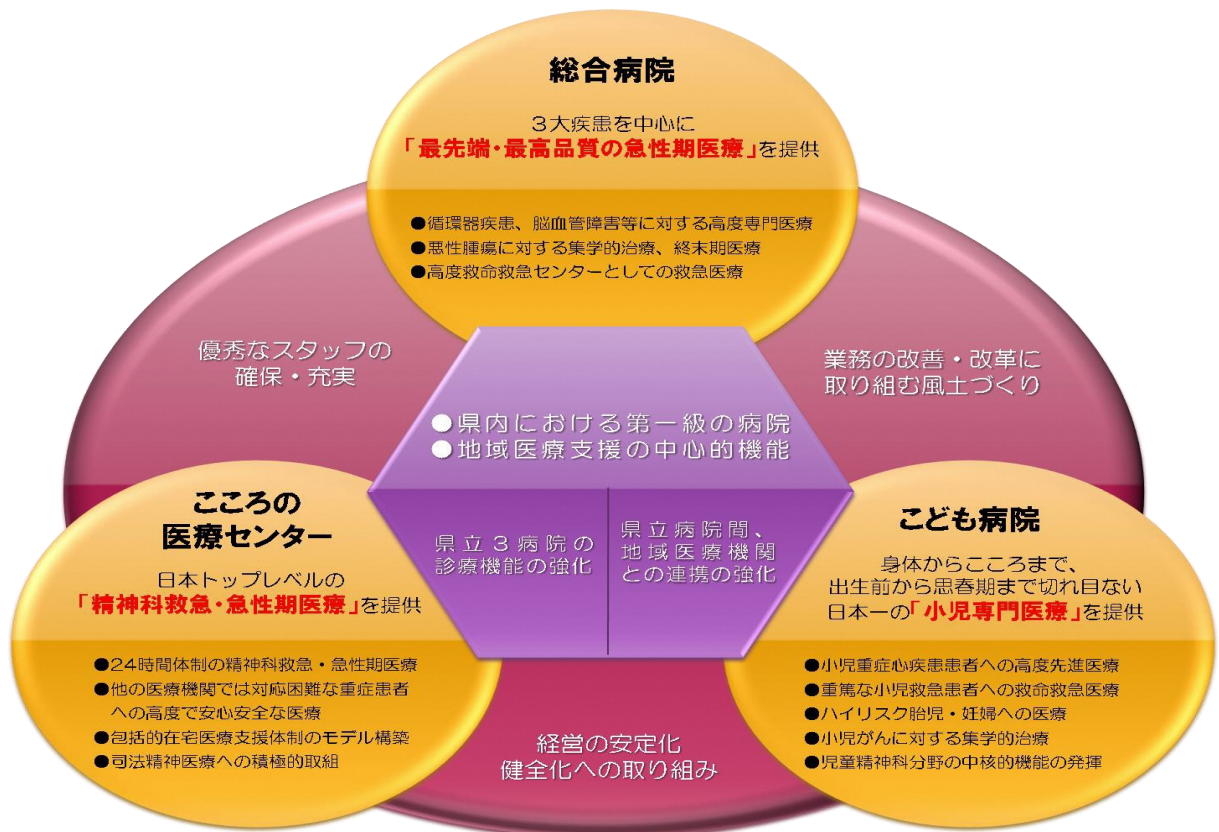
静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

法人化10年目となる30年度の経営状況(3病院計)は、入院では、延患者数はこころの医療センターが年度計画(以下「計画」)を上回り、単価はこども病院で計画を上回った。また、外来については延患者数、単価共に3病院で計画を上回った。

収支は、経常利益が999百万円(経常収支比率102.2%)、当期純利益が738百万円で、法人化後10年連続で経常収支比率100%を達成した。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組み、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進し、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



イ 業務実績

(ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る延患者数(▲3,083人)となり、患者1人1日当たり入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）も計画を下回った(▲3,496円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を上回る延患者数(+2,027人)だったが、入院単価は計画を下回った(▲248円)。
- ・ こども病院は、延患者数は計画を下回った(▲5,645人)が、入院単価は計画を上回った(+748円)。

(イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、延患者数(+2,651人)、患者1人1日当たり外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）(+284円)とも計画を上回った。
- ・ こころの医療センター病院は、延患者数(+2,038人)、外来単価(+267円)とも計画を上回った。
- ・ こども病院は、延患者数(+2,540人)、外来単価(+556円)とも計画を上回った。

○ 平成30年度 業務量及び単価等（税込）

区 分		総 合	こころ	こども
入 院	入院延患者数(人)	233,305 (236,388)	57,217 (55,190)	75,395 (81,040)
	病床稼働率(%)	一般93.9 (一般95.2)	91.1 (87.9)	76.2 (81.9)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	78,814 (82,310)	25,101 (25,349)	96,444 (95,696)
外 来	外来延患者数(人)	436,699 (434,048)	42,454 (40,416)	110,185 (107,645)
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	20,583 (20,299)	6,371 (6,104)	14,038 (13,482)

※（ ）書きは、計画数値を示す。

※患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

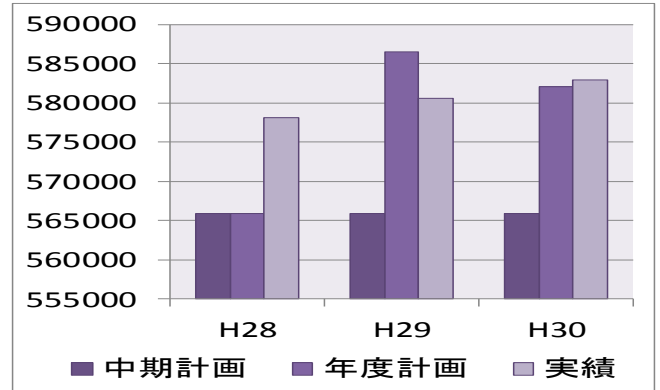
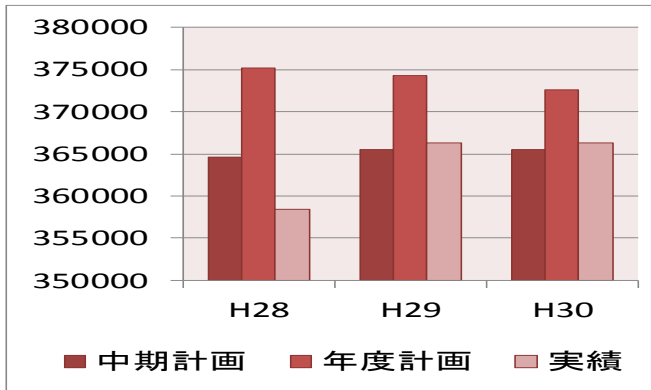
※病床稼働率は、総合662床、こころ172床、こども271床で算定。

<参考資料>

○患者数の推移 (28年度実績～30年度実績)

入院延患者数 (3病院計) (単位:人)

外来延患者数 (3病院計) (単位:人)



・30年度は入院延患者数及び外来患者数が中期計画を上回ったが、年度計画を下回った。

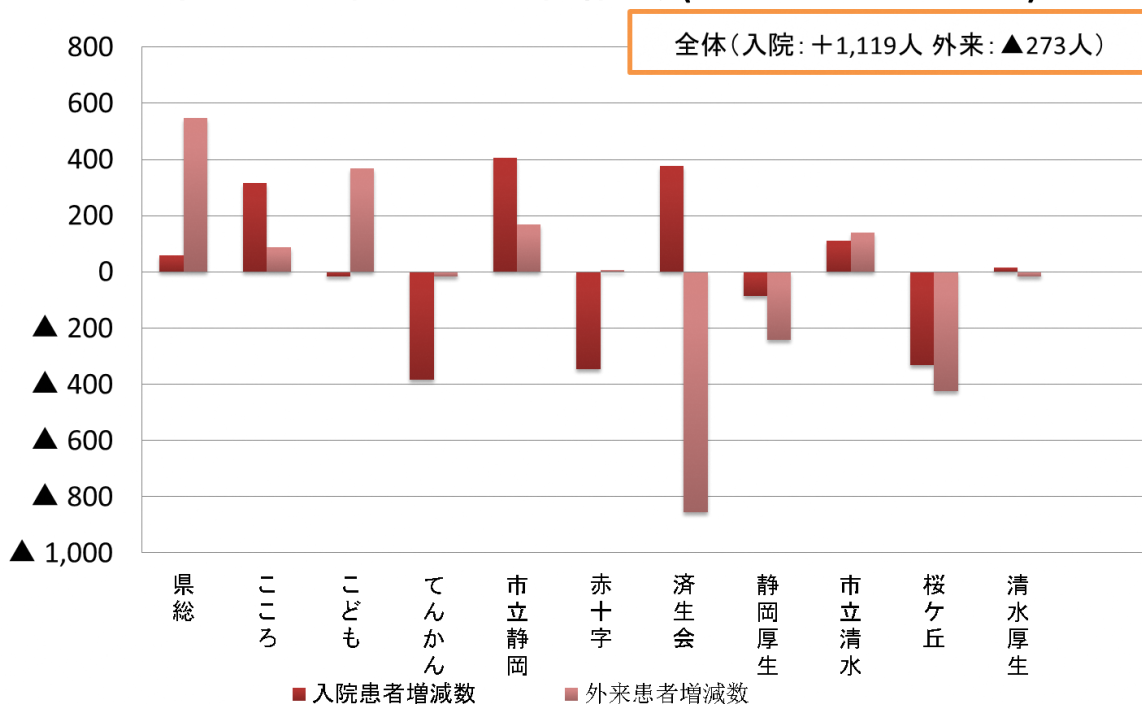
○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数: H30.4～H31.3—H29.4～H30.3比較)

(単位:人)

区分	県総	こころ	こども	てんかん	市立静岡	赤十字	済生会	静岡厚生	市立清水	桜ヶ丘	清水厚生	合計	
入院	H30	19,442	4,768	6,283	9,407	13,982	12,539	14,179	5,673	10,975	2,404	3,765	103,417
	H29	19,382	4,453	6,299	9,790	13,577	12,886	13,801	5,760	10,864	2,737	3,749	103,298
	差	60	315	▲16	▲383	405	▲347	378	▲87	111	▲333	16	119
外来	H30	36,392	3,534	9,182	2,951	23,319	16,144	19,545	7,451	14,874	5,818	6,916	146,126
	H29	35,843	3,447	8,814	2,968	23,151	16,137	20,402	7,692	14,735	6,242	6,932	146,363
	差	549	87	368	▲17	168	7	▲857	▲241	139	▲424	▲16	▲237

・市内公的病院の入院延患者が横ばい、外来延患者は減少傾向にある中で、入院延患者は総合病院とこころの医療センターが増加しており、外来延患者は総合病院、こころの医療センター、こども病院の全てが増加した。

市内公的病院月平均患者増減数(H30.4～3—H29.4～3) 単位:人



(ウ) 平成30年度収支実績(税込)

① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収益	営業 収益	医業収益	40,881,191	38,579,826	▲2,301,365	37,017,369	1,562,457
		運営費負担金収益	6,825,089	6,827,371	2,282	6,817,496	9,875
		その他営業収益	369,689	513,280	143,591	390,434	122,846
		小計	48,075,969	45,920,477	▲2,155,492	44,225,299	1,695,178
	営業外 収益	運営費負担金収益	174,911	172,629	▲2,282	182,504	▲9,875
		その他営業外収益	283,860	291,917	8,057	287,421	4,496
		小計	458,771	464,546	5,775	469,925	▲5,379
	臨時利益	臨時利益	0	0	0	276,252	▲276,252
	計		48,534,740	46,385,023	▲2,149,717	44,971,476	1,413,547
	費用	営業 費用	医業費用	46,958,949	44,383,393	▲2,575,556	42,861,993
一般管理費			391,909	349,722	▲42,187	341,609	8,113
小計			47,350,858	44,733,114	▲2,617,744	43,203,602	1,529,512
営業外 費用		財務費用	313,060	303,575	▲9,485	317,824	▲4,824
		その他営業外費用	357,507	349,534	▲7,973	330,319	19,215
		小計	670,567	653,109	▲17,458	648,143	4,966
臨時損失		臨時損失	411,332	261,144	▲150,188	185,716	75,428
計		48,432,757	45,647,368	▲2,785,389	44,037,461	1,609,907	
経常利益		513,315	998,800	485,485	843,479	155,321	
当期純利益		101,983	737,656	635,673	934,015	▲196,359	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 経常利益は998,800千円で、計画を485,485千円上回り、経常収支比率100%以上(102.2%)を達成した。
- ・ 当期純利益は737,656千円で、計画を635,673千円上回った。
- ・ 医業収益は、外来は延患者数、単価ともに3病院で計画を上回ったが、入院は総合病院、こども病院で延患者数が計画を下回り、単価も総合病院、こころの医療センターで計画を下回ったため、計画を2,301,365千円下回った。
- ・ 医業費用は、給与費(計画比▲544,521千円)、材料費(計画比▲761,759千円)、経費(計画費▲925,383千円)が計画を下回ったため、計画よりも2,575,556千円抑えられた。

② 資本的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長期借入金	5,826,000	4,270,900	▲1,555,100	9,395,000	▲5,124,100
		長期貸付金回収額	0	44,400	44,400	30,700	13,700
		補助金・寄附金等	1,054	45,117	44,063	100,604	▲55,487
		計	5,827,054	4,360,417	▲1,466,637	9,526,304	▲5,165,887
支出	資本 支出	建設改良費	7,993,367	4,407,251	▲3,586,116	9,533,936	▲5,126,685
		償還金	3,128,902	3,131,189	2,287	3,094,337	36,852
		長期貸付金	256,150	165,600	▲90,550	173,900	▲8,300
		計	11,378,419	7,704,040	▲3,674,379	12,802,173	▲5,098,133
総収支		▲5,551,365	▲3,343,623	2,207,742	▲3,275,869	▲67,754	

(エ) 病院別収支実績

① 収益的収支 (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医業収益	27,957,945	1,717,277	8,904,604	38,579,826
	運営費負担金収益	2,398,784	1,111,734	3,316,853	6,827,371
	その他営業収益	311,997	60,789	140,495	513,281
	小計	30,668,726	2,889,800	12,361,952	45,920,478
営業 外益	運営費負担金収益	88,745	20,670	63,214	172,629
	その他営業外収益	245,953	7,956	38,008	291,917
	小計	334,698	28,626	101,222	464,546
臨時利益	臨時利益	0	0	0	0
	収益計 (予算額※<計画>) (増減額)	31,003,423 (32,545,204) (▲1,541,781)	2,918,426 (2,849,778) (68,648)	12,463,174 (13,139,758) (▲676,584)	46,385,023 (48,534,740) (▲2,149,717)
営業 費用	医業費用	30,095,417	2,522,871	11,765,104	44,383,393
	一般管理費	234,313	20,983	94,425	349,722
	小計	30,329,731	2,543,854	11,859,529	44,733,115
営業 外用	財務費用	159,588	31,489	112,498	303,575
	その他営業外費用	263,463	10,285	75,786	349,534
	小計	423,051	41,774	188,284	653,109
臨時損失	臨時損失	229,616	3,714	27,814	261,144
	費用計 (予算額※<計画>) (増減額)	30,982,398 (32,819,698) (▲1,837,300)	2,589,343 (2,682,740) (▲93,397)	12,075,626 (12,930,319) (▲854,693)	45,647,368 (48,432,757) (▲2,785,389)
	経常利益 (予算額※<計画>) (増減額)	250,641 (8,350) (242,291)	332,797 (192,777) (140,020)	415,361 (312,189) (103,172)	998,800 (513,316) (485,484)
	当期純損益 (予算額※<計画>) (増減額)	21,025 (▲274,494) (295,519)	329,083 (167,038) (162,045)	387,547 (209,439) (178,108)	737,656 (101,983) (635,673)

- 総合病院の経常利益は250,641千円で、計画を242,291千円上回った。先端医学棟の稼働に伴い手術件数が増加したことに加え、一般病棟、重症系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率が向上したことにより医業収益が増加したことが主な要因である。
- こころの医療センターの経常利益は332,797千円で、計画を140,020千円上回った。これは、入院患者数及び外来延患者数の増加により医業収益が計画を59,740千円上回ったことに加え、経費の減等により費用が計画を93,397千円下回ったことが主な要因である。
- こども病院の経常利益は415,361千円で、計画を103,172千円上回った。これは、経費の節減努力等により費用が計画を854,693千円下回ったことが主な要因である。

② 資本的収支（税込）

（単位：千円）

款	項	総合	こころ	こども	法人計
資本 収入	長期借入金	3,538,900	90,000	642,000	4,270,900
	長期貸付金回収額	33,300	2,664	8,436	44,400
	その他収入	44,109	0	1,008	45,117
	計	3,616,309	92,664	651,444	4,360,417
資本 支出	建設改良費	3,658,860	93,190	655,200	4,407,250
	償還金	1,776,207	458,842	896,140	3,131,189
	長期貸付金	124,200	9,936	31,464	165,600
	計	5,559,268	561,968	1,582,804	7,704,040
総	収 支	▲1,942,959	▲469,304	▲931,360	▲3,343,623

- 30年度の建設改良費は4,407,250千円で、その内訳は、3病院の器械備品等資産購入が1,700,396千円（A）、建設改良工事が2,706,854千円（B）となった。（A）の主なものとしては、総合病院の高エネルギー放射線発生装置、心臓血管撮影装置（B）の主なものとしては、総合病院において北立体駐車場、北安東2丁目医師宿舎、こども病院で院内保育所（移転新築）等を整備した。
また、長期貸付金165,600千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行ったほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行った。

（オ）決算指標＜3病院計＞（税込）

区分	項目	計画	実績	増減
収 支 構 造	経常収支比率（%）	101.1	102.2	1.1
	医業収支比率（%）	86.7	86.9	0.2
収 入 構 造	病床稼働率（%）	88.4	86.8	▲1.6
	入院患者1人1日当たり単価（円）	76,785	74,048	▲2,737
	外来患者1人1日当たり単価（円）	18,053	18,335	282
費 用 構 造	職員給与比率（%）	56.0	56.3	0.3
	材料費比率（%）	30.4	32.2	1.8

※患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。病床稼働率は、3病院の稼働病床数で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が第2期中期計画の数値目標である100%を上回る102.2%で、計画を1.1ポイント上回った。また、医業収支比率は計画を0.2ポイント上回った。
- 収入構造では、入院患者1人1日当たり単価は計画を2,737円下回り、外来患者1人1日当たり単価は、計画を282円上回った。収益確保の取り組みとしては、総合病院では、先端医学棟の稼働に伴う手術件数の増加や入退院センターによる効率的なベッドコントロールを実施し、こども病院では新生児病棟間（NICU・GCU）における積極的な退院支援と効率的なベッドコントロールを実施した。
- 費用構造では、職員給与比率、材料費比率はそれぞれ計画比0.3ポイント増、1.8ポイント増となった。

【収支構造】

- ・ 経常収支比率 $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率 $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

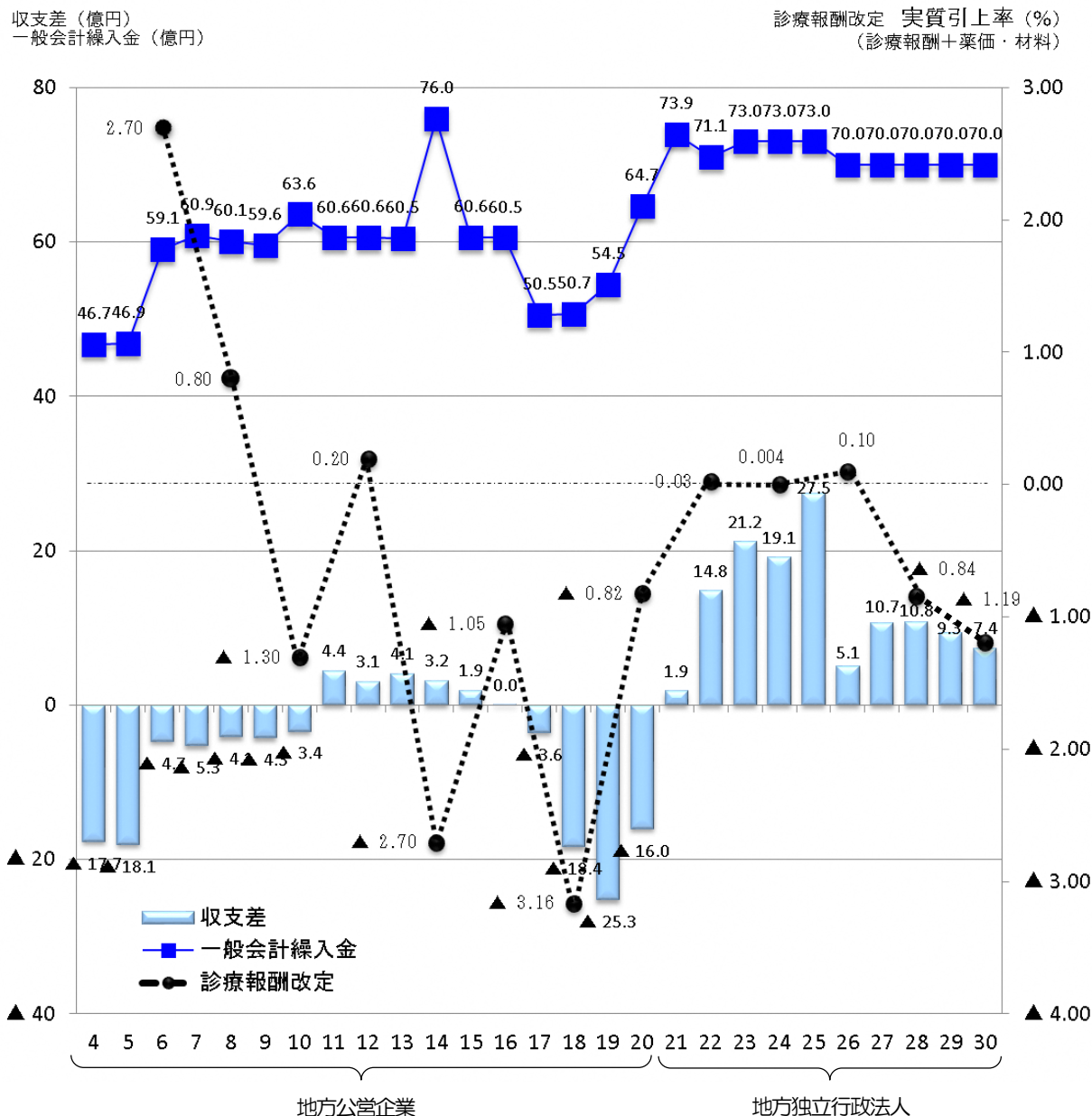
【収入構造】

- ・ 病床稼働率 $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価 $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価 $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率) $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率) $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(ウ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成14年度の一般会計繰入金75.98億円には、がんセンター開院準備経費分15.44億円を含む。
- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成22年度の診療報酬改定率は政府発表の+0.19%の後、薬価部分に追加された後発品のある先発品の価格引下げ分▲0.16%を加味して実質的な改定率を+0.03%とした。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げの一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げの一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げの一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げの一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。

(キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31
医師	165	179	14	14	90	90	-	-	269	283
歯科医師	3	4	-	-	1	1	-	-	4	5
看護師	806	807	118	120	444	436	2	3	1,370	1,366
看護師	802	803	117	120	444	436	2	3	1,365	1,362
准看護師	4	4	1	-	-	-	-	-	5	4
医療技術	214	226	25	25	80	82	-	-	319	333
研究員	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2
事務	54	53	13	11	27	27	32	32	126	123
計	1,242	1,271	170	170	642	636	34	35	2,088	2,112

※アソシエイトを含む。

② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31	H30	H31
医師	90	91	3	3	55	58	1	1	149	153
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
看護師	68	64	11	9	13	14	-	-	92	87
看護師	67	64	10	9	12	13	-	-	89	86
准看護師	1	-	1	-	1	1	-	-	3	1
医療技術	35	29	4	3	19	15	-	-	58	47
研究員	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8
事務	151	156	14	11	54	56	6	7	225	230
補助職員	94	90	11	9	24	25	1	1	130	125
計	438	438	43	35	165	168	8	9	654	650

※補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等

※短期間特別研修医は含まない。

(ク) 平成31年度職員の採用状況 (平成30採用試験実施状況) (平成31年3月末現在)

- ・看護師の採用については、定期募集を年間4回、経験者募集を年9回計画し、募集を行っている。
きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の確保につながった。
- ・人材確保のため、県内の養成校への訪問や修学資金の拡充の継続(貸与時期2期制等)、支度金制度の実施、病院見学会の旅費の拡充(市外 最大5万円)、静鉄電車・バス等へのポスター掲載、JR静岡駅への電照公告掲載等、きめ細やかな対策を迅速に実施し、必要な看護師を採用している。(H26 108人、H27 149人、H28 136人、H29 113人、H30 113人)
- ・また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと伴に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために説明会出展の周知メールの送信、当日は、看板等の設置やノベルティの配布を行った。
- ・今年度は昨年度と比較して試験受験者が増加しているため、今後も引き続き看護師確保のための対策を実施していく。
- ・医療技術については31人(薬剤師(一般)6人、薬剤師(経験者)3人、診療放射線技師(一般)2人、診療放射線技師(経験者)3人、臨床検査技師(一般)2人、臨床検査技師(経験者)4人、臨床工学技士(経験者)

1人、理学療法士（一般）1人、作業療法士（経験者）1人、精神保健福祉士（経験者）2人、遺伝カウンセラー（経験者）1人、研究員2人、薬剤アソシエイト1人、歯科衛生アソシエイト1人、保育アソシエイト1人）を確保した。

- ・事務については、3人（医事経験1人、アソシエイト2人）を確保した（このうち、医事経験1人、アソシエイト1人は令和元年5月1日付け採用）。

（単位：人）

区 分	H30 試験実施 【H31 採用】	H29 試験実施 【H30 採用】	差引
看 護 師	113	113	0
事 務	3	6	▲3
医 療 技 術	31	18	13
計	147	137	10

※前倒し採用は試験実施年度に集計。

平成 30～31 年度 職員数の推移

（単位：人）

区 分	H30. 4. 1 現員数 a	30 年度中 採用者数 b	30 年度中退職者数		H31. 3. 31 現員数 e=a+b-c+d	H31. 4. 1 採用者数 f	H31. 4. 1 現員数 g=e-d+f	
			C	うち H31. 3. 31 退職者数 d				
医 師	正 規	273	11	29	19	274	33	288
	有 期	149	16	79	61	147	67	153
	計	422	27	108	80	421	100	441
看 護 師	1, 370	7	117	54	1, 314	106	1, 366	
医 療 技 術	319	6	15	7	317	25	335	
事 務		126	0	4	4	125	2	123
	うちプロパー	69	0	4	4	69	2	67
計	2, 237	40	244	145	2, 177	233	2, 265	

※ アソシエイトを含む(H30 看護6人、医療技術7人、事務6人 H31 看護6人、医療技術8人、事務6人)

※ 正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む

※ 有期医師の契約は1年更新、短期間特別研修医は除く

(2) 総合病院

<理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

<基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

<総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

平成 30 年度も引き続き、循環器病センター機能を活かした 24 時間 365 日体制での高度な専門的医療の提供、がん疾患患者に高度な集学的治療の提供、高度救命救急センターとして重症な患者への救急医療提供を主要事業の三本柱として取り組んだ。

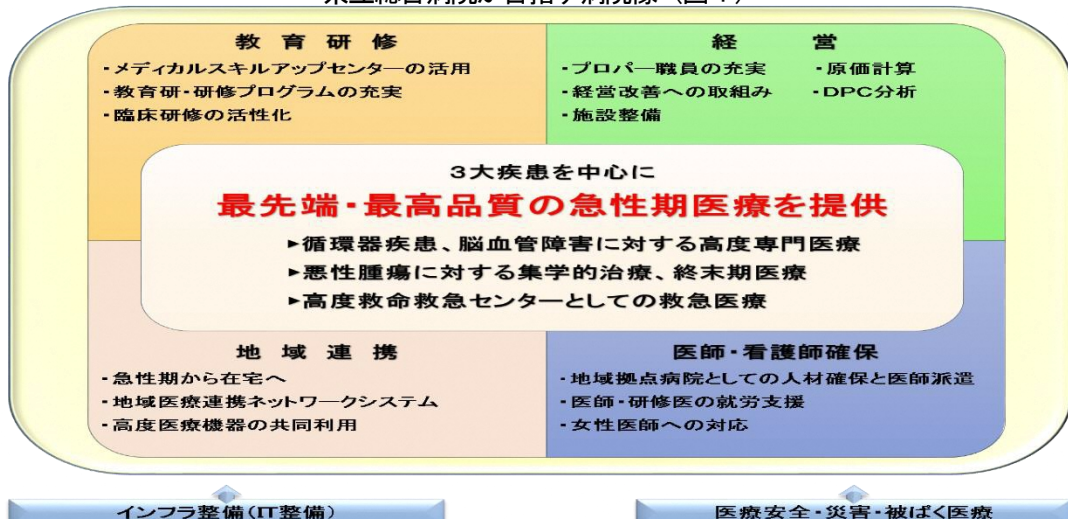
また、地域の中核的病院として、急性期を担当する機能に特化し、機能分担を進めるため、地域の医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進した。さらに高度な医療機器を地域全体で利用できるように、共同利用の取組みを進めた。

平成 29 年 9 月には、最新鋭の医療機器を導入した手術室（22 室）及び放射線治療室（4 室）、教育研修施設、研究施設を備える先端医学棟を稼働し、「治療」、「教育」、「研究」の 3 つの役割と機能を強化した。

医療内容の高度化、手術件数の増加、高額薬剤の使用（がん治療薬：オプジーボ、アバスタチン等）に加え、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上、入院料加算算定延べ件数の増加、施設基準の積極的な取得及び維持、各科の稼働状況にあわせた病床再編などに取り組むことにより、入院診療単価、入院延患者数、入院収益ともに昨年度を上回った。また、外来診療単価、外来延患者数、外来収益についても昨年度を上回った。

今後、県立総合病院が目指す病院像（図 1）のとおり、病院が所有する各種機能を強化・連携し、県立病院としての機能向上を一層図ることとしている。

県立総合病院が目指す病院像（図 1）



(3) こころの医療センター

<理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

<基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

<総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（将来構想（図2）参照）に取り組んでいる。

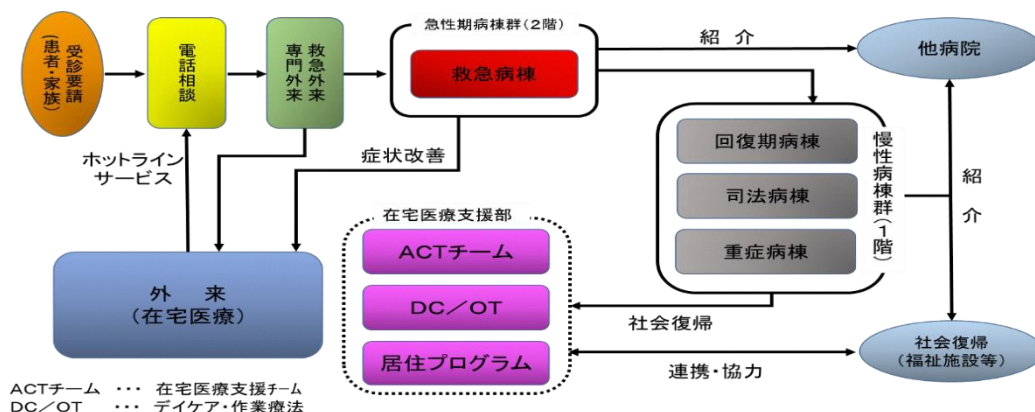
平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度には南1病棟の一部個室化、平成30年度も引き続き個室化を進め、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めている。

一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、クロザピンや修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

こころの医療センター診療体制整備の将来構想（図2）



(4) こども病院

<理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

<基本方針>

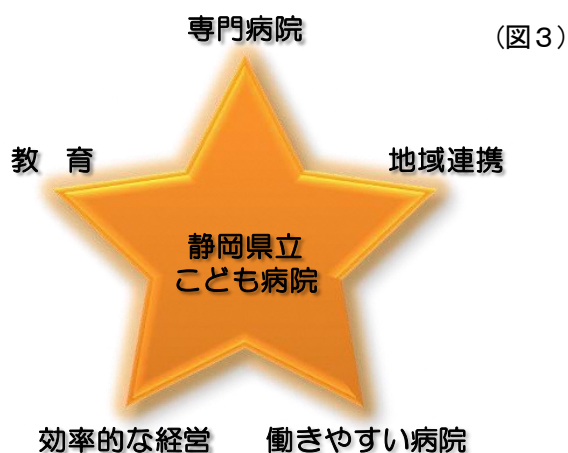
「患者中心の医療サービスの継続」

〔 地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ
質の高い効果的な医療を提供 〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院 | 安全を重視した質の高い医療 |
| 2 教 育 | 教育内容の充実が最大目標の一つ |
| 3 地 域 連 携 | 相互支援に基づいた地域医療連携 |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院 | スタッフの満足度が高い労働環境 |

*平成24年4月改定



<総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

平成30年9月には、当院の産科医療への貢献が評価され、産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた。

国際交流においては、平成28年度、平成29年度と看護師の研修受入を行っていた中国の深セン市児童病院からの希望で、平成30年5月に院長を始めとした当院訪問団が訪問し交流のための覚書を締結するなど、積極的な交流を行った。

平成31年2月には、これまでの当院の小児がん医療への取組みにより、厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして新たに指定された。拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応などさらなる機能強化を図っていくことが必要となった。

平成31年3月には、老朽化していた院内保育所の移転改築が完了し、職員が安心して業務に取り組める環境を整備した。

3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(1) 医療の提供

ア 総合病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数、入院単価はともに、年度計画（以下「計画」）を下回った。外来延患者数、外来単価はともに計画を上回った。
- ・ 入院単価は年度計画を下回ったが、昨年度と比較して増加した。増加要因としては、心臓血管外科や循環器内科を中心に診療内容が高度化したことや、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の入院料加算算定延べ件数が増加、入退院センターを中心に病床再編を実施、各種施設基準の新規取得等が挙げられる。また、外来単価の増加要因については、外来化学療法の数が増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ、アバスタチン等）の使用等、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

平成 30 年度 業務量及び単価等年間実績

区分		年度計画	実績	増減	達成率(%)	
入院	一般病床	入院延患者数 (人)	230,030	226,899	▲3,131	98.6
		病床稼働率 (%)	95.2	93.9	▲1.3	98.6
		平均在院日数 (日)		11.8		
	結核病床	入院延患者数 (人)	6,358	6,406	48	100.7
		病床稼働率 (%)	34.8	35.1	0.3	100.8
		平均在院日数 (日)		73.1		
患者 1 人 1 日 当たり 単 価 (円)		82,310	78,814	▲3,496	95.8	
外来	外来延患者数 (人)	434,048	436,699	2,651	100.6	
	患者 1 人 1 日 当たり 単 価 (円)	20,299	20,583	284	101.4	

※患者 1 人 1 日 当たり 単 価 は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は、一般病床 662 床で算定、結核病床は 50 床で算定

- ・ 紹介率、逆紹介率ともに計画を大きく上回り、病診・病病連携が一層進んでいる。

平成 30 年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	実績	増 減
紹 介 率	80.0	92.7	+12.7
逆 紹 介 率	90.0	171.3	+81.3

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、P77 の用語解説を参照。

- 医療の提供については、急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療、がん医療、救急医療の3本を重点に据えるとともに、地域医療の支援及び医療技術者の研修に重点的に取り組んでいる。平成30年3月の厚生労働省告示により、全国1,730のDPC病院（急性期病院）の中で引き続き全国155病院のDPC特定病院群の一つを維持し、大学病院本院群と同等の高密度診療及び医師研修を行っている病院として選ばれた（県内では当院を含めて6病院）。
- 急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患医療については、ハイブリッド手術を整備し、平成26年10月より運用を開始した。最新の治療器材と鮮明な画像診断を併用し、ステントグラフト治療やTAVI（経カテーテル大動脈弁治療）など、循環器分野における先進的な治療を行った。更に平成30年10月に、県内初となる経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）の実施施設として、日本循環器学会から認定を受け、治療を開始した。
- 平成29年6月に重症度の高い患者に対して、集中治療病棟で濃厚治療を行い施設基準のランクアップを図った。加えて平成30年9月には、重症度の高い患者の増加に伴い、集中治療病棟を12床から14床へ増床を行った。ランクアップや増床等により入院診療収益が増加した。

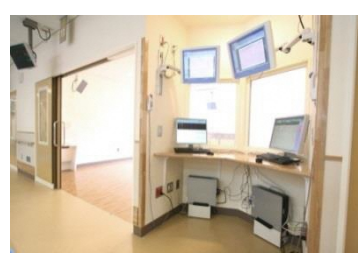
循環器病センター



救命救急センター（1F）



ハイブリッド手術室（2F）



CCU（3F）

- がん医療については、がん相談支援センターに専従で認定看護師を配置し、相談体制を強化している。放射線治療の充実を目指してリニアックを3台（H29 CT同室型リニアック、H30 リニアック、H30 本館より移設）稼動し、より高精度な治療を提供している。このほか、地域の医療者にも開かれたキャンサーボード及びがん研修会を定期的に開催し、PETセンターの共同利用を進めるなど、地域がん診療連携拠点病院としての機能強化に努めている。

平成30年9月に国立がん研究センターから公表された「がん診療連携拠点病院院内がん登録2016年全国集計報告書」において、当院の登録件数2,911件は全国434施設で49番目に多い登録件数であった。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入し、平成26年2月から運用を開始した。泌尿器領域の前立腺がん手術、膀胱全摘除手術（全額自費診療）、腎部分切除手術、婦人科領域の子宮頸がん手術、大腸がん（主に直腸がん）の手術を行った。また、平成28年12月には、全国5番目（大学病院以外では全国初）となる、産婦人科領域のダ・ヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術の施行が先進医療で承認された。平成30年4月の診療報酬改訂に伴い、胃がん、直腸がんに対するロボット手術が保険適用となり、当院でも保険診療を開始した。

- 平成27年度より先端医学棟の建設に着手し、平成29年度の7月に竣工を迎え、9月より運用を開始した。先端医学棟では、手術や放射線治療を更に発展させ、高度・先端医療を提供する県内の中核病院として機能の強化、患者サービスの向上を図るため、手術室を県内最多となる22室に拡充し、最新鋭の医療機器を配置してロボット手術やハイブリッド手術などを含む手術件数を伸ばしている。また、最新鋭の放射線治療機器に対応できる大型の放射線治療室4室を整備し、これまで以上に体への負担が少なく、かつ高精度な放射線治療を実施している。
- 研究部門では、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置した。また、同センター内に、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達メカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）を整備した。

- ・ 平成30年度より、県が平成30年3月に策定した社会健康医学研究推進基本計画に基づき、リサーチサポートセンターを拠点に、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする「社会健康医学研究」を県から受託し、着手した。また、同センターは、県民の健康寿命延伸のため、研究の推進、人材の育成、成果の還元拠点となる「社会健康医学大学院大学」構想における研究実施部門としての役割を担うべく、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んだ。
- ・ 先端医学棟に移設した手術室とHCU病棟の跡地を利用し、平成29年11月より本館リニューアル工事の一部である新産婦人科病棟の改修工事を行った。平成30年11月末に工事が完了し、12月1日から運用を開始した。病棟機能は、LDR 4床、未熟児室3床、新生児室等を備えた一般病床40床となる。



<産婦人科病棟 入口>



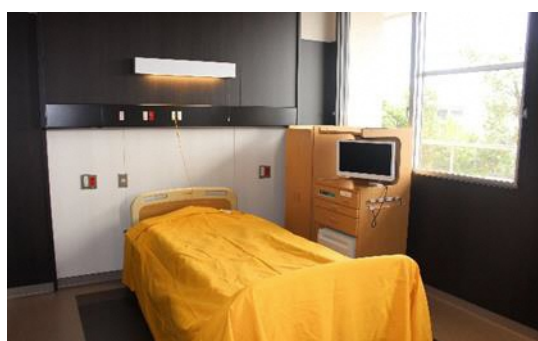
<産婦人科病棟 スタッフステーション>



<産婦人科病棟 LDR>



<産婦人科病棟 分娩室>



<産婦人科病棟 特別室>



<産婦人科病棟 個室>



<産婦人科病棟 4人部屋>



<産婦人科病棟 新生児室>



< 北 立 体 駐 車 場 >

- ・ 近年増加する外来患者に対応するため、平成 29 年 3 月に大型立体駐車場の工事発注を行った。平成 29 年 5 月に周辺工事を開始し、平成 30 年 9 月初旬に工事が完了し、9 月 7 日から供用を開始した。駐車台数は工事前の 501 台から 745 台となり、病院周辺の渋滞は現在のところ発生していない。
- ・ 救急医療については、平成 27 年 3 月に高度救命救急センターの指定を受けた。広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等の特殊疾病患者に対する救命医療を行うために必要な診療機能を備えた。また、平成 26 年 6 月にドクターカーを導入、運用開始し、静岡市と運用に関する協定を結び、救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行する、又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率向上に努めた。平成 27 年度末には、富士市及び富士宮市とも運用に関する協定を結んだ。加えて平成 28 年に静岡市消防局の管轄区域が 3 市 2 町（静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町）に拡大し、近隣地域にも活動の範囲を広げた。
- ・ 平成 30 年 3 月に、患者の寄付金を活用して 2 台目となる救急車を導入した。主に病院間の患者搬送や災害時の医療支援に使用することとしている。なお、この救急車は英国日産の NV400 で、日本での導入は初めてである。

イ こころの医療センター

○ 業務実績を示す各種指標

- 延患者数については、入院、外来とも計画を上回った。単価については、入院は計画を下回ったが、外来は計画を上回った。

平成 30 年度 業務量及び単価

区 分		年度計画	実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	55,190	57,217	2,027	103.7
	入院患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	25,349	25,101	▲248	99.0
	平 均 在 院 日 数 (日)		111.2		
	病 床 稼 働 率 (%)	87.9	91.1	3.2	103.6
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	40,416	42,454	2,038	105.0
	外来患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	6,104	6,371	267	104.4

※患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 は、税 込 金 額 (調 定 額 ベー ス で 算 定)。平 均 在 院 日 数 は、医 療 観 察 法 病 床 を 除 い て 算 定。病 床 稼 働 率 は、172 床 で 算 定。

- 紹介率、逆紹介率ともに計画値を下回った。今後も転院の促進等に努めていく。

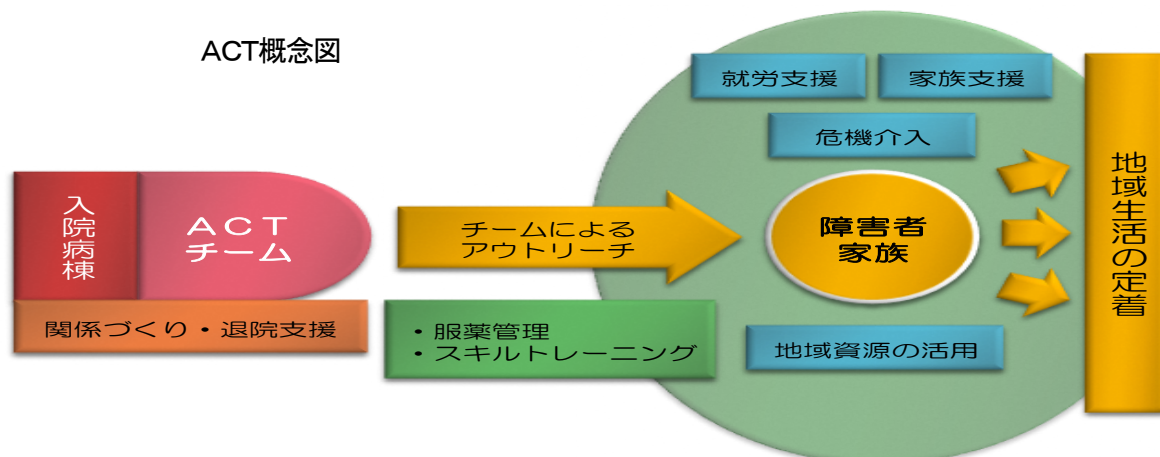
平成 30 年度 紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区 分	年度計画	実績	増 減
紹 介 率	56.0	51.0	▲5.0
逆 紹 介 率	36.0	37.0	+1.0

- 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを継続して進めた。
- 先端薬物療法（クロザピン）や高度な治療法である修正型電気けいれん療法（m-ECT）の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んだ。
- 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- 包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い 24 時間 365 日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。

ACT概念図



- 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。

ウ こども病院

○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数は計画を下回ったが、単価は計画を上回った。
- ・ 外来については、延患者数、単価とも計画を上回った。

平成 30 年度 業務量及び単価等

区 分		年度計画	実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	81,040	75,395	▲5,645	93.0
	入院患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	95,696	96,444	748	100.8
	平 均 在 院 日 数 (日)		10.4		
	病 床 稼 働 率 (%)	81.9	76.2	▲5.7	93.0
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	107,645	110,185	2,540	102.4
	外来患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 (円)	13,482	14,038	556	104.1

※患者 1 人 1 日 当 たり 単 価 は、税 込 金 額 (調 定 額 ベー ス で 算 定)。平 均 在 院 日 数 は、N I C U、G C U、M F I C U、P I C U、精 神 科、短 期 3 を 除 い て 算 定。病 床 稼 働 率 は 271 床 で 算 定。

- ・ 病診連携や病病連携の強化により、紹介率・逆紹介率ともに計画を上回った。

平成 30 年度 紹介率・逆紹介率

(単位：%)

区 分	年度計画	実績	増減
紹 介 率	92.0	92.6	0.6
逆 紹 介 率	32.0	43.7	11.7

- ・ 全国初の小児循環器集中治療専門医を配置したCCU、カテーテル治療（アンプラッツァー）や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めている。
- ・ 循環器病棟に準重症患者を受け入れる病室を活用し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制を整備している。
- ・ 自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国 2 番目となる小児用補助人工心臓を導入しており、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備している。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供している。平成 30 年 9 月には、当院の産科医療への貢献が評価され、産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受けた。
- ・ 静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上に対応し、血液腫瘍の治療法である造血幹細胞移植を継続的に実施したほか、固形腫瘍については関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催して高度な集学的治療に取り組んでいる。平成 31 年 2 月には、これまでの当院の小児がん医療への取組みにより、厚生労働省から全国 15 施設の小児がん拠点病院の 1 つとして新たに指定された。拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応などさらなる機能強化を図る必要がある。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（P I C U）と小児救急センター（E R）を中心に、24 時間 365 日を通して、初期救急を含めた小児救急患者を受け入れている。
- ・ 厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため学校・地域との連携強化に努めるなど、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮している。

救急の体制



ドクターヘリ



ドクターカー



小児救急センター

(2) 医療に関する技術者（医師、看護師等医療従事者）の研修を通じた育成と質の向上

ア 総合病院

- 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣、看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究、メディカルスキルアップセンターを利用した研修の実施など、県立病院に相応しい医療技術の育成に努めている。特に医師の臨床研修については、平成 27 年度に卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修評価を受審し、当院の臨床研修体制が評価され、引き続き認定証の発行を受けた。また、平成 30 年度は、医師臨床研修マッチングを経て、募集定員 24 名中 22 名を確保した。

イ こころの医療センター

医療技術者の研修については、認定看護師研修の派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、7名の精神科認定看護師と1名の感染管理認定看護師が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

ウ こども病院

- 専門家を招聘してセミナーや研修会を定期的で開催するとともに、海外研修や認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めている。
- 平成 22 年度からシドニー・ウエストメッド小児病院へ当院研修医を派遣するなど、国際交流を通じて最先端の医療技術の習得を図っている。
- かねてから交流のある中国の浙江大学医学院附属児童病院から、平成 29 年 10 月には研修医の受け入れを行い、同年 11 月には院長を始めとした訪問団が児童病院を訪問し、当院との友好協定を締結した。平成 30 年度には医師 2 名を研修に派遣し、先方からは研修医 3 名を受入れるなど、積極的な交流を行っている。
- 平成 28 年度、平成 29 年度と看護師の研修受入を行っていた中国の深セン市児童病院からの希望で、平成 30 年 5 月に院長を始めとした当院訪問団が訪問し交流のための覚書を締結した。平成 30 年度も継続して看護師の研修受入を行った。
- 地域の医療機関等の看護師や看護学生等への継続的な実習研修や、医療関係者を対象とした講演会等を定期的で開催し、職員だけでなく院外の医療従事者にも教育研修機能を開放している。

(3) 医療に関する調査及び研究

- 総合病院では、臨床医学研究センターを平成 25 年 12 月 24 日に立ち上げた。また、平成 26 年 8 月 9 日に設立記念研究発表会を開催し、地域の医療関係者に臨床医学研究センター設立を PR した。また、平成 27 年 6 月に客員研究員制度を創設し、平成 27 年度から平成 30 年度までに 10 名の客員研究員を新たに選任した。
- 先端医学棟 5 階に、医師が診療業務をしながら臨床研究にも取り組むことができる「リサーチサポートセンター」を設置した。また、同センター内に、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達メカニズムなどについて研究する「きこえとことばのセンター」（静岡県乳幼児聴覚支援センター）を整備した。
- 平成 30 年度より、県が平成 30 年 3 月に策定した社会健康医学研究推進基本計画に基づき、リサーチサポ

ートセンターを拠点に、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする「社会健康医学研究」を県から受託し、着手した。また、同センターは、県民の健康寿命延伸のため、研究の推進、人材の育成、成果の還元の拠点となる「社会健康医学大学院大学」構想における研究実施部門としての役割を担うべく、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んだ。

- 平成31年3月29日付で、文部科学省より科学研究費補助金の対象研究機関として指定された。今回の指定は、当院における研究体制やこれまでの研究実績が評価されたものであり、県内の医療機関では5施設目、一般的な総合病院では県内初の指定となった。これにより、平成31年度より文部科学省に対する科学研究費の応募や他施設からの科学研究費の移管が可能となった。

【医学奨励研究の内訳】平成30年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	周術期ランジオロール投与による食道癌手術における心房細動予防効果の検討	麻酔科・集中治療科	11
	禁煙後の心血管マーカーの変化と予後規定因子に関する研究	臨床研究センター 客員研究員	1
	院外心停止症例における自動除細動器(AED)の心電図記録による生存率・神経学的予後の検討	救命救急センター	11
	アルドステロン産生腺腫における体細胞遺伝子変異の検討	高血圧研究部	4
	原発性大結節性副腎過形成(PMAH)における ARMC5 遺伝子の意義	遺伝診療科	2
	当院における褐色細胞腫/パラガングリオーマの遺伝学的解析	遺伝診療科・糖尿病内分泌代謝科	3
	慢性B型大動脈解離症例に対するステントグラフト後の偽腔血流シミュレーション	心臓血管外科	2
	単独冠動脈バイパス術後の”Failure to Rescue”に施設症例数が与える影響の検討	心臓血管外科	2
	プレジジョンメディスン導入に伴う加齢黄斑変性患者の意識調査	眼科	3
	血糖自己測定の実践状況に影響する要因～穿刺器具ワンタッチアクロ®の操作・機能性の検証と心理社会的要因からの検討～	看護部	1
	在宅酸素療法中の COPD 患者におけるボディ・イメージの特徴とその関連要因	看護部	3
	血液透析患者のシャント自己管理行動と自己効力感の関連	透析室	2
	中脳黒質の nigrosome 1 は加齢性変化を示すか？ 磁化率マップ強調像による in vivo imaging	放射線科	4
	重症喘息と慢性閉塞性肺疾患の分子病態の類似性に関する研究	呼吸器内科	2
	シャント作製前の掌握運動がシャント血管に与える効果についての前向き多施設ランダム化臨床試験	腎臓内科	8

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	臨床分離 MRSA におけるメチシリン感性化機構の解明	消化器外科	2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌における TSST-1 産生制御機構の解明	消化器外科	2
	急性心不全により入院した患者の、入院時・退院時の社会背景・ADL、および退院後状況と予後の検討	循環器内科	2
	外来化学療法施行患者に対する認定・専門薬剤師介入効果の検討	薬剤部	8
	トルバプタンの最適な投与方法確立のための副作用および薬物血中濃度評価	薬剤部	5
	最適化治療のための全身性エリテマトーデスのサブグループ化	免疫研究部	2
	下顎埋伏智歯抜歯後の後発感染症例についての臨床的検討	歯科口腔外科	4
	声帯振動観察用高速度カメラシステムに関する研究	頭頸部・耳鼻いんこう科	1
	プラチナ系抗癌剤投与患者を対象とした下垂体性 hCG 値基礎的データ集積	泌尿器科	7
	ICU における非侵襲的換気療法 (high flow nasal cannula) の適応の評価に関する研究	救命救急科・集中治療科	8
計		25	100
こころ	精神科病院における感染症対策についての意識調査	感染対策室	1
	精神科で頻用するグリチルリチン含有漢方製剤により誘発される低カリウム血症の要因に関する調査	薬剤室	4
計		2	5
こども	医療安全の促進・医療ミス撲滅に向けた当科の新生児ケア・マニュアル活用	新生児科	8
	全国の数施設における小児に対する急性血液浄化療法の現状調査	腎臓内科	5
	日本小児心臓外科手術データベースを利用したHeterotaxy症候群に対する外科治療成績	心臓血管外科	8
	鼻咽腔ファイバースコープ検査による口蓋裂患者の鼻咽腔閉鎖機能の評価	形成外科	2
	PCRによる小児化膿性関節炎・骨髄炎の起因为菌同定	整形外科	3
	小児神経疾患リハビリテーションに対する自立支援用ロボットの活用	脳神経外科	7
	医療的ケア児が安心して療養できるための情報共有の仕方の検討	看護部	9

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
こども	手洗い習慣を身につけて、ばい菌をやっつけよう！！	成育支援室	7
	乳児期頭蓋縫合評価における頭蓋超音波検査の可能性	放射線技術室	4
	マルチパラメーターフローサイトメトリーでのB前駆細胞表面マーカーの解析	検査技術室	12
	尿細胞診検体を用いた尿中ポドサイトの検出意義及び腎糸球体病態の比較検討	検査技術室	10
	第Ⅷ因子活性測定における凝固1段法と合成基質法の比較検討～軽症血友病A診断精度向上および長期作用型第Ⅷ因子製剤の普及にむけて～	検査技術室	6
	小児に適した服薬支援方法の検討および支援ツールの作成	薬剤室	6
	計	13	87

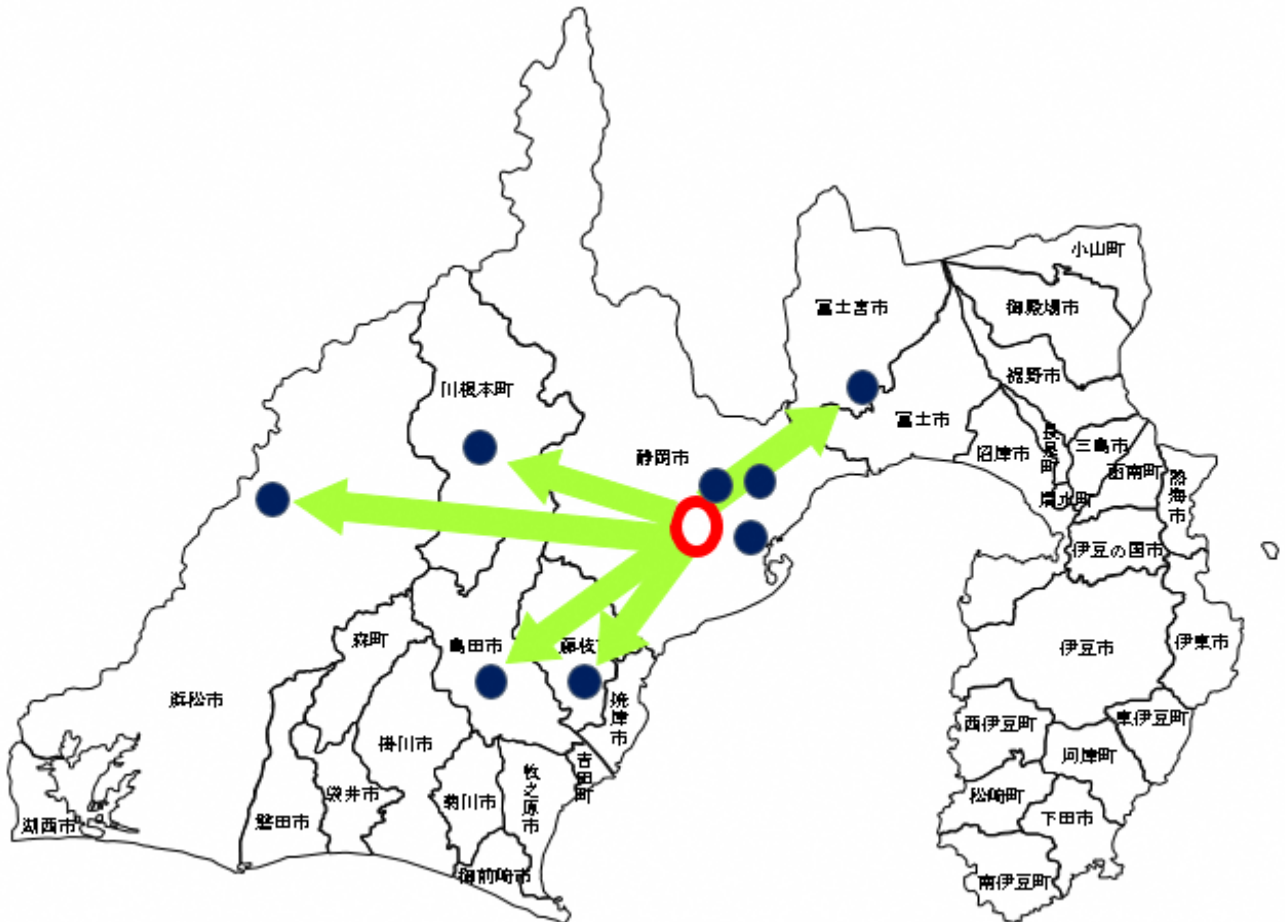
(4) 医療に関する地域への支援

ア 総合病院

地域医療の支援については、平成 30 年度は、県立病院医師交流制度等に基づき 8 医療機関に対して延 513 人の医師の派遣を行うとともに、PET や CT・MRI の高度医療機器の共同利用を推進した。

また、平成 22 年度総務省委託事業である「地域 ICT 利活用広域連携事業」により始めた「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」は順調に拡大し、平成 31 年 3 月末現在、開示施設は 17 病院、参照施設は 126 施設となっている。各地域の医師会とともに、診療情報共有のためのネットワークを推進している。

平成 30 年度 県立総合病院の医師派遣



イ こころの医療センター

地域医療の支援については、医師、看護師の講演会等への講師派遣等に取り組んだほか、医療観察法における鑑定の要請に協力する等、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしている。

ウ こども病院

- ・ 小児科の基幹施設として、新専門医制度に対応した研修を行い適切に対応した。
- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計 7 の医療機関等に対して、平成 30 年度は延 420 人の医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センターなどと定期的に症例検討会を実施している。また、県内 4 病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行うなど、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行っている。
- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童

養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めている。

- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催するなど、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携体制を強化している。
- ・ 地域の救急医療機関や消防機関を対象とした研究会を開催するなど、小児救急医療の体制強化を図っている。

(5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下 21 病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した、要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、静岡市長から「静岡県医療救護計画」に基づき、救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院は、被ばく医療について、二次被ばく医療機関に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、災害対応マニュアルの見直しを進め、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどを反映した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できるような対策を実施した。改訂したマニュアルに基づき訓練を実施した。
- ・ 総合病院における被ばく医療については、福島第一原発の事故を受けて、平成 27 年度に国が原子力災害体制の見直しを行い、県が原子力災害拠点病院の指定に向けて整備を進めている。総合病院は指定に向けて関係機関が主催する講習会等を受講するなど、施設要件を満たす取り組みを行っており、平成 30 年 10 月に原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院として静岡県から指定を受けた。
- ・ こころの医療センターは、地震や台風等による災害が発生した際、被災した病院独自では患者の身体、生命の安全確保が困難な場合に被災病院に対する人的支援を行うため、平成 26 年 8 月 28 日、宮城県立精神医療センター、千葉県精神医療センター、大阪府立精神医療センター、岡山県精神医療センター、島根県立こころの医療センター、山口県立こころの医療センター、計 6 病院と災害時における自治体精神科病院の相互支援に関する協定を締結している。また、平成 28 年 4 月に発生した熊本での地震の際には、県立こども病院との混成チームを含む計 2 チームの「心のケアチーム」を現地に派遣し、精神科医療における支援を行った。平成 30 年度においては、北海道胆振東部地震における国の DPAT 事務局に 2 人を派遣し、本部機能を担う業務に協力した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 簡素で効率的な組織づくり

理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8 月を除く毎月開催し、意思決定の迅速化に努めている。

(2) 効率的な業務運営の実現

ア 機構全体

- ・ 法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮して、人物重視の採用試験を実施し、平成 28 年度事務職員として 1 名を採用した。
- ・ 未収金の圧縮を図るため、医療費に係る相談体制の充実、未収金回収業務を弁護士法人に委託するなどし、効率的な未収金対策を講じている。
- ・ 薬品費や診療材料費については、同種同効品の絞込みや、安価な材料への切替え、価格交渉の更なる拡充

等の見直しを進め、経費節減・業務効率化に取り組んだ。

- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。

イ 総合病院

- ・ 各診療科でDPC入院期間を参考に、平均在院日数の短縮を図り、効率の良い病棟運用に努めている。
- ・ 先端医学棟の開棟により、増設された手術室の効率的な運用に努めている。
- ・ 平成28年4月に入退院センターを開設した。入退院センターでは、患者個々の社会的背景を捉え、入院前から退院後を見据え、一貫したサポート（入院前問診・オリエンテーション等）を行うことで、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図った。また、空床情報の一元管理と、適切なベッドコントロールを行い、病床の再編や病床利用率の向上を図った。
- ・ 重症系病棟の稼働率や算定率向上に向けて、医師を中心に効率的な病棟運用に努めている。
- ・ 自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替えを行った。
- ・ 平成29年9月より、共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」に加盟した。平成30年度は従来の診療材料から選定品への切替え活動や加盟分野が広がったことから、NHAからの還元金は49,566千円となり、より一層の診療材料費の低減を行った。

ウ こころの医療センター

- ・ 平成28年2月に導入した電子カルテの活用により、情報の共有によるチーム医療及び療育の推進、並びに業務の効率化・省力化を進めた。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めた。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。
- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

(3) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の増員を図った。
- ・ 業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニュアル整備・活用に向けた取組を実施し、あわせて、院内コミュニケーションシステム上に集約したマニュアルを公開し、情報の共有化を図った。

(4) 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成

業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めた。

5 項目別業務実績

<評価凡例>
 A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取り組み、一定の成果が得られている。
 B 計画に対し十分に取組んでいる。 C 計画に対する取組みは十分ではない。

中期計画					第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置																																											
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績																																											
					30年度実績 自己評価																																											
					説明																																											
<p>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 医療の提供</p> <p>医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。</p> <p>(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。</p>	<p>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置</p> <p>1 医療の提供</p> <p>県立病院機構の全職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。</p>	<p>I</p> <p>1</p> <p>(1)</p> <p>各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。</p> <p>① 患者への十分な説明と同意の徹底</p> <p>② 医療技術の向上</p> <p>③ チーム医療の推進</p> <p>④ 医療安全対策の充実</p> <p>⑤ 患者満足の向上</p>	1	<p>①・患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。</p>	<p>セカンドオピニオン数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>98</td> <td>107</td> <td>112</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>63</td> <td>39</td> <td>58</td> <td>58</td> </tr> </table> <p>セカンドオピニオン用情報提供料算定件数 (総合) (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>診療情報提供料(Ⅱ)</td> <td>125</td> <td>104</td> <td>125</td> <td>121</td> <td>145</td> <td>150</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	98	107	112	114	115	90	ところ	—	—	—	—	—	—	こども	44	45	63	39	58	58	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	診療情報提供料(Ⅱ)	125	104	125	121	145	150	<p>A-</p> <p>患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
総合	98	107	112	114	115	90																																										
ところ	—	—	—	—	—	—																																										
こども	44	45	63	39	58	58																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
診療情報提供料(Ⅱ)	125	104	125	121	145	150																																										
				<p>総合</p> <p>④⑤・運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。</p>	<p>2</p> <p>総合</p> <p>④⑤・運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行い、クリニカルパスの適用率を高める。</p>	<p>・H30年度実績 クリニカルパス管理委員会を11回開催し、新規作成及び修正の審議・承認を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30) クリニカルパス管理委員会を毎月1回開催し、新規作成及び修正の審議・承認を行った。 H28年度は、電子カルテシステムの変更に伴う、クリニカルパスの修正を実施した。</p> <p>クリニカルパスの新規作成、適用率等実績</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>新規作成(件)</td> <td>23</td> <td>34</td> <td>18</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>修正(件)</td> <td>71</td> <td>68</td> <td>51</td> <td>224</td> <td>130</td> <td>253</td> </tr> <tr> <td>適用率(%)</td> <td>68.2</td> <td>73.8</td> <td>75.8</td> <td>66.3</td> <td>62.6</td> <td>63.3</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	新規作成(件)	23	34	18	16	15	34	修正(件)	71	68	51	224	130	253	適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	62.6	63.3	<p>A</p> <p>クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 今後も引き続き新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。</p>													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
新規作成(件)	23	34	18	16	15	34																																										
修正(件)	71	68	51	224	130	253																																										
適用率(%)	68.2	73.8	75.8	66.3	62.6	63.3																																										
				<p>④⑤・看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。</p>	<p>3</p> <p>総合</p> <p>④⑤・看護提供方式見直し(固定チームナーシングの導入)により、安心を高める看護の提供に努める。</p>	<p>「患者様の声」の推移 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>ご意見</td> <td>117</td> <td>82</td> <td>72</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>60</td> <td>49</td> <td>32</td> <td>37</td> <td>28</td> <td>29</td> </tr> </table> <p>患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.2</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	ご意見	117	82	72	57	92	85	感謝	60	49	32	37	28	29	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.2	<p>A</p> <p>看護師に対するご意見が前年度から約1割減少した。感謝についてはほぼ前年度並みの件数となったが、感謝の比率は25.4%で前年を2ポイント上回り、質の高い看護が提供できている。</p>						
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
ご意見	117	82	72	57	92	85																																										
感謝	60	49	32	37	28	29																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
入院	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.2																																										

中期計画		30年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																											
中期目標	中期計画	年度計画	行動計画	業務の実績	説明																																																																																																																																																																																								
				<p>•H30実績 リニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>H29年7月以降、機器・仕器等の購入手続きや既存種からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,327</td> </tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,872</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875						6,872	<p>•H30実績 リニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>H29年7月以降、機器・仕器等の購入手続きや既存種からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,327</td> </tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,872</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875						6,872	<p>•H30実績 リニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>H29年7月以降、機器・仕器等の購入手続きや既存種からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,327</td> </tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,872</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875						6,872	<p>•H30実績 リニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>H29年7月以降、機器・仕器等の購入手続きや既存種からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,327</td> </tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,872</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875						6,872	<p>•H30実績 リニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>H29年7月以降、機器・仕器等の購入手続きや既存種からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,327</td> </tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,872</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875						6,872	<p>•H30実績 リニアアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) 建設工事は概ね順調に進み、先端医学棟は当初計画どおり、H29年6月末に建設工事が完了した。</p> <p>H29年7月以降、機器・仕器等の購入手続きや既存種からの移転作業を進めた。8月中旬以降、一部の部門で運用を開始し、9月から本格運用を開始した。</p> <p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>7,409</td> <td>7,860</td> <td>8,375</td> <td>8,536</td> <td>9,327</td> </tr> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>2,847</td> <td>2,927</td> <td>3,308</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,872</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875						6,872
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875																																																																																																																																																																																								
					6,872																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875																																																																																																																																																																																								
					6,872																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875																																																																																																																																																																																								
					6,872																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875																																																																																																																																																																																								
					6,872																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875																																																																																																																																																																																								
					6,872																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
手術件数	7,409	7,860	8,375	8,536	9,327																																																																																																																																																																																								
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																								
人数	2,847	2,927	3,308	3,872	5,875																																																																																																																																																																																								
					6,872																																																																																																																																																																																								
4	②③⑤・先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する。		<p>⑤・立体駐車場建設の工事進捗管理を徹底する。</p> <p>•完成後は、立体駐車場の円滑な運用を行い、患者の利便性の向上を図る。</p>	<p>総合</p> <p>•H30年度実績 工事が9月初旬に完了し、9月7日から供用を開始した。 今回建設した立体駐車場収容台数:336台 立体駐車場整備による院内駐車場収容台数:501台→745台(+244台) 渋滞発生状況:発生なし</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。 設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 •着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 •周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。</p>	<p>9月初旬に工事が完了し、9月7日から供用を開始した。</p> <p>•H30年度実績 工事が9月初旬に完了し、9月7日から供用を開始した。 今回建設した立体駐車場収容台数:336台 立体駐車場整備による院内駐車場収容台数:501台→745台(+244台) 渋滞発生状況:発生なし</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30) H28年度 市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続きを進め、H28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。 設計完了後に速やかに工事発注手続きを進め、3月上旬に施工業者を決定した。 H29年度 •着工前に近隣住民向け工事説明会を開催(4/6)した。 •周辺整備工事(北側退場路及び車椅子利用者用駐車場の整備)を4月から先行して実施した。</p>																																																																																																																																																																																								
5			<p>①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。</p>	<p>総合</p> <p>•H30実績 H31年3月末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) •第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	<p>9月初旬に工事が完了し、9月7日から供用を開始した。</p> <p>•H30年度実績 H31年3月末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) •第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																							
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																							
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																							
6			<p>①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。</p>	<p>こども</p> <p>•H30実績 H31年3月末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) •第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	<p>9月初旬に工事が完了し、9月7日から供用を開始した。</p> <p>•H30年度実績 H31年3月末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) •第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																							
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																							
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																							
7			<p>①②③・入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。</p>	<p>こども</p> <p>•H30実績 H31年3月末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) •第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	<p>9月初旬に工事が完了し、9月7日から供用を開始した。</p> <p>•H30年度実績 H31年3月末現在稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) •第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																							
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																							
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																																																																																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																																														
		I 1 (1)	8	<p>③・チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。</p>	<p>• H30実績 チーム医療に対する診療報酬合計 122,748千円 H30.6 抗菌薬適正使用支援チームを設置 H31.2 緩和ケアチームを設置 • 第2期中期目標期間 (H26～30) チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報が共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。 また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されている。</p> <p>チーム医療の推進（カンファレンスの開催） H30年度末時点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>院内52回/院内1回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>毎日</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・臨床工学技師・理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤師・薬剤師・社会福祉士・療養士</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・薬剤・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回/院内1回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回/院内1回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td> <p>総合においては、H30.6から新たに抗菌薬適正使用支援チームを設置し、質の高い医療を行う体制が強化された。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。 H30年6月より抗菌薬適正使用支援チームの施設基準を取得し、チーム医療に対する診療報酬が更に加算され、収益面でも貢献している。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査	感染制御チーム	院内52回/院内1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・薬剤師・社会福祉士・療養士	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・薬剤・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回/院内1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・精神保健福祉士等	感染防止対策チーム	院内52回/院内1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査						<p>総合においては、H30.6から新たに抗菌薬適正使用支援チームを設置し、質の高い医療を行う体制が強化された。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。 H30年6月より抗菌薬適正使用支援チームの施設基準を取得し、チーム医療に対する診療報酬が更に加算され、収益面でも貢献している。</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																	
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査																																																	
	感染制御チーム	院内52回/院内1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																	
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																	
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																	
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工学技師・理学療法士																																																	
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・薬剤師・社会福祉士・療養士																																																	
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・薬剤・栄養等																																																	
	感染防止対策チーム	院内52回/院内1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																	
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																	
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・精神保健福祉士等																																																	
	感染防止対策チーム	院内52回/院内1回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																	
					<p>総合においては、H30.6から新たに抗菌薬適正使用支援チームを設置し、質の高い医療を行う体制が強化された。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。 H30年6月より抗菌薬適正使用支援チームの施設基準を取得し、チーム医療に対する診療報酬が更に加算され、収益面でも貢献している。</p>																																															

中期計画		30年度実績 自己評価																																																																												
中期目標	中期計画	年度計画	行動計画																																																																											
No.	No.	業務の実績	説明																																																																											
		<p>④・医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。</p>	<p>・H30実績 3病院で、11回の院内感染対策研修、24回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） ・医療安全全国共同行動の参加登録病院としてレベルの向上を目指す。</p> <table border="1"> <caption>医療安全対策、院内感染対策研修等</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">院内感染対策研修</th> <th colspan="5">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>323</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1,365</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>3,899</td> <td>24</td> <td>4,743</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数2回</p>	区分	院内感染対策研修					医療安全対策研修					25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	4	1	0	2	0	2	2	2	2	2	2	17	ところ	0	0	0	0	0	1	6	6	6	6	3	323	子ども	0	0	3	0	3	4	3	3	3	3	3	1,365	計	4	1	3	2	3	5	11	11	11	3,899	24	4,743
区分	院内感染対策研修					医療安全対策研修																																																																								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																		
総合	4	1	0	2	0	2	2	2	2	2	2	17																																																																		
ところ	0	0	0	0	0	1	6	6	6	6	3	323																																																																		
子ども	0	0	3	0	3	4	3	3	3	3	3	1,365																																																																		
計	4	1	3	2	3	5	11	11	11	3,899	24	4,743																																																																		
			<p>⑤・患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。</p>	<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>患者満足度調査</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>91.9</td> <td>88.2</td> <td>89.6</td> <td>93.2</td> <td>94.0</td> <td>94.3</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>88.8</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> <td>94.4</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>92.5</td> <td>91.3</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> <td>97.5</td> <td>96.1</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>89.4</td> <td>91.2</td> <td>90.9</td> <td>98.1</td> <td>99.3</td> <td>98.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	(単位：%)						25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.9	ところ	91.9	88.2	89.6	93.2	94.0	94.3	子ども	88.8	88.2	89.8	88.5	94.4	91.0	計	92.5	91.3	91.9	98.4	97.5	96.1	外来	89.4	91.2	90.9	98.1	99.3	98.9																										
区分	(単位：%)																																																																													
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																								
総合	96.4	95.8	95.6	97.8	98.2	98.9																																																																								
ところ	91.9	88.2	89.6	93.2	94.0	94.3																																																																								
子ども	88.8	88.2	89.8	88.5	94.4	91.0																																																																								
計	92.5	91.3	91.9	98.4	97.5	96.1																																																																								
外来	89.4	91.2	90.9	98.1	99.3	98.9																																																																								
			<p>①・かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。</p>	<p>紹介率・逆紹介率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>82.1</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>89.0</td> <td>90.6</td> <td>92.7</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>106.7</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>161.5</td> <td>175.5</td> <td>171.3</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>49.6</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>55.0</td> <td>56.3</td> <td>51.0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29.8</td> <td>27.4</td> <td>30.8</td> <td>29.6</td> <td>28.6</td> <td>37.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	(単位：%)						25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	82.1	85.0	89.1	89.0	90.6	92.7	ところ	106.7	127.5	134.3	161.5	175.5	171.3	子ども	49.6	57.9	56.2	55.0	56.3	51.0	計	29.8	27.4	30.8	29.6	28.6	37.0																																	
区分	(単位：%)																																																																													
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																								
総合	82.1	85.0	89.1	89.0	90.6	92.7																																																																								
ところ	106.7	127.5	134.3	161.5	175.5	171.3																																																																								
子ども	49.6	57.9	56.2	55.0	56.3	51.0																																																																								
計	29.8	27.4	30.8	29.6	28.6	37.0																																																																								
			<p>①・地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。</p>	<p>紹介率・逆紹介率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>49.6</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>55.0</td> <td>56.3</td> <td>51.0</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>29.8</td> <td>27.4</td> <td>30.8</td> <td>29.6</td> <td>28.6</td> <td>37.0</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>49.9</td> <td>53.2</td> <td>52.0</td> <td>52.5</td> <td>46.5</td> <td>43.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	(単位：%)						25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	49.6	57.9	56.2	55.0	56.3	51.0	ところ	29.8	27.4	30.8	29.6	28.6	37.0	子ども	49.9	53.2	52.0	52.5	46.5	43.7																																								
区分	(単位：%)																																																																													
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																								
総合	49.6	57.9	56.2	55.0	56.3	51.0																																																																								
ところ	29.8	27.4	30.8	29.6	28.6	37.0																																																																								
子ども	49.9	53.2	52.0	52.5	46.5	43.7																																																																								
			<p>①・地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。</p>	<p>他の医療機関等と連携を図り、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進している。紹介率は、前年度実績を下回っているが、逆紹介率については、前年度実績を上回った。</p> <p>他の医療機関と連携を図ることにより、紹介・逆紹介共に目標を上回っており、紹介予約制を維持するとともに積極的に逆紹介を行った。</p>																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明																																																																																						
			14	②・心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折等の地域連携クリニックやリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	<p>地域連携クリニック</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳卒中</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>110</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>103</td> <td>82</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>94</td> <td>77</td> <td>80</td> <td>86</td> <td>81</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>135</td> <td>133</td> <td>151</td> <td>114</td> <td>109</td> <td>124</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>102</td> <td>95</td> <td>118</td> <td>131</td> <td>191</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>虚血性心疾患</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>186</td> <td>142</td> <td>92</td> </tr> <tr> <td>心房細動</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>慢性腎臓病</td> <td>40</td> <td>28</td> <td>54</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>526</td> <td>444</td> <td>632</td> <td>709</td> <td>682</td> <td>561</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	脳卒中	38	42	68	52	42	62	大腿骨頸部骨折	110	67	65	103	82	57	胃がん	94	77	80	86	81	61	大腸がん	135	133	151	114	109	124	乳がん	102	95	118	131	191	105	前立腺がん	7	2	0	0	0	10	虚血性心疾患	0	0	96	186	142	92	心房細動	-	-	-	-	-	1	慢性腎臓病	40	28	54	37	25	43	肺がん	0	0	0	0	0	0	計	526	444	632	709	682	561			A-	関係機関との連携により地域連携クリニックの適用を進め、円滑な運用に努めている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																							
脳卒中	38	42	68	52	42	62																																																																																							
大腿骨頸部骨折	110	67	65	103	82	57																																																																																							
胃がん	94	77	80	86	81	61																																																																																							
大腸がん	135	133	151	114	109	124																																																																																							
乳がん	102	95	118	131	191	105																																																																																							
前立腺がん	7	2	0	0	0	10																																																																																							
虚血性心疾患	0	0	96	186	142	92																																																																																							
心房細動	-	-	-	-	-	1																																																																																							
慢性腎臓病	40	28	54	37	25	43																																																																																							
肺がん	0	0	0	0	0	0																																																																																							
計	526	444	632	709	682	561																																																																																							
			15	③④・地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	<p>ネットワーク実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>9,848</td> <td>12,424</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> <td>23,818</td> <td>28,732</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>175</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> <td>134</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>99</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> <td>78</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>53</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> <td>31</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・H130実績 地域医療連携推進事業補助金を活用し、富士市立中央病院、焼津市立総合病院、静岡済生会総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30) 情報の開示施設を、H27年度に1診療所、H28年度に3病院増やすことができた。</p> <p>・H27年度末の理事会において利用料規程を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。</p> <p>・H28年度においては、地域医療連携推進事業補助金を活用し、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーのシステム整備を行った。</p> <p>・H29年度には、地域医療連携推進事業補助金を活用し、藤枝市立総合病院のシステム更新を実施した。</p> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	開示施設数	14	14	15	18	18	17	開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	28,732	参照施設数	175	208	194	141	134	126	病院	14	17	17	13	14	13	診療所	99	122	104	76	78	76	保険薬局	53	57	59	40	31	27	訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	8	介護福祉施設	1	1	2	2	2	2			A-	開示施設及び参照施設数は減少したが、開示件数は過去最多となった。																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																							
開示施設数	14	14	15	18	18	17																																																																																							
開示件数(累計)	9,848	12,424	15,814	19,795	23,818	28,732																																																																																							
参照施設数	175	208	194	141	134	126																																																																																							
病院	14	17	17	13	14	13																																																																																							
診療所	99	122	104	76	78	76																																																																																							
保険薬局	53	57	59	40	31	27																																																																																							
訪問看護ステーション	8	11	12	10	9	8																																																																																							
介護福祉施設	1	1	2	2	2	2																																																																																							

中期計画

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度実績 自己評価	
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		30年度実績 自己評価		
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を旨とし、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実を重点的に取り組む。	1 1 (3) ア	1 1 (3) ア	1 1 (3) イ	各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	—	—	—	説明
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を旨とし、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実を重点的に取り組む。	1 1 (3) イ	1 1 (3) ウ	16 17	周産期医療における産科合併症及び脳卒中中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に著実に取り組む。	—	—	症例の発生状況により搬送実績にはあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。	
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を旨とし、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実を重点的に取り組む。	1 1 (3) ウ	1 1 (3) エ	18	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に著実に取り組む。 先進的医療である移植医療に取り組む。	—	—	県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れ。エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。 難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。	
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を旨とし、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実を重点的に取り組む。	1 1 (3) エ			先進的医療である移植医療に取り組む。 腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取り組みを継続する。	—	—	H29年度と比較すると、腎臓移植、強角膜片は若干減少している。造血幹細胞移植については、H30年度は過去最多件数となった。造血幹細胞移植の件数増加の影響もあり、移植実績件数も過去最多となった。	
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供するほか、救命救急センターにおいては、広域的な救急医療への対応を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対する高度な救命医療を提供する高度救命救急センターの指定を旨とし、救急医療体制の充実・強化を図ること。県立総合病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる7疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実を重点的に取り組む。	1 1 (3) エ			造血幹細胞移植実績 (単位：件) 区分 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度 腎臓移植 12 13 11 14 18 14 造血幹細胞移植 10 8 8 11 8 17 強角膜片作成 9 6 7 3 4 2 計 31 27 26 28 30 33	—	—	適用患者の数に変動はあるため、実績値の増減はあるが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。	

中期計画		30年度実績 自己評価																																																									
中期目標	中期計画	行動計画	業務の実績																																																								
No.	年度計画		説明																																																								
19	<p>リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取組む。</p> <p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。</p>	<p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。</p>	<p>・H30実績 H29年度から引き続き、入院早期より退院困難な要因を有する患者を抽出し、リハビリテーション、相談援助・支援等の退院調整を積極的に支援した。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に支援している。 H29は、リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に支援した。</p> <table border="1"> <caption>地域医療ネットワークセンター退院調整件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1,377</td> <td>1,554</td> <td>1,754</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>6,810</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(田)</td> <td>603</td> <td>710</td> <td>770</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院調整加算1(新)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算1※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,816</td> </tr> <tr> <td>退院時「ペリネーション」指導料</td> <td>1,281</td> <td>1,279</td> <td>980</td> <td>601</td> <td>705</td> <td>530</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,884</td> <td>1,989</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>5,346</td> </tr> </tbody> </table> <p>※H30年改定により、入退院支援加算に名称変更</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	6,810	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	退院調整加算(田)	603	710	770	—	—	—	退院調整加算1(新)	—	—	—	1,054	1,879	—	入退院支援加算1※	—	—	—	—	—	4,816	退院時「ペリネーション」指導料	1,281	1,279	980	601	705	530	計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	5,346
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																					
件数	1,377	1,554	1,754	2,204	3,217	6,810																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																					
退院調整加算(田)	603	710	770	—	—	—																																																					
退院調整加算1(新)	—	—	—	1,054	1,879	—																																																					
入退院支援加算1※	—	—	—	—	—	4,816																																																					
退院時「ペリネーション」指導料	1,281	1,279	980	601	705	530																																																					
計	1,884	1,989	1,750	1,655	2,584	5,346																																																					
20	<p>【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。</p>	<p>【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。</p>	<p>・H30実績 リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。 また、在宅においてよりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <table border="1"> <caption>リハビリテーション活動実績 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>8,500</td> <td>8,187</td> <td>7,209</td> <td>7,649</td> <td>5,942</td> <td>5,494</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>4,555</td> <td>4,100</td> <td>4,239</td> <td>4,448</td> <td>5,455</td> <td>6,023</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13,055</td> <td>12,287</td> <td>11,448</td> <td>12,097</td> <td>11,397</td> <td>11,517</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>訪問看護実施件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>2,498</td> <td>2,751</td> <td>2,883</td> <td>3,322</td> <td>4,068</td> <td>3,996</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>389</td> <td>344</td> <td>170</td> <td>147</td> <td>76</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	精神科作業療法	8,500	8,187	7,209	7,649	5,942	5,494	デイケア	4,555	4,100	4,239	4,448	5,455	6,023	計	13,055	12,287	11,448	12,097	11,397	11,517	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	訪問看護実施件数	2,498	2,751	2,883	3,322	4,068	3,996	(うち複数訪問)	389	344	170	147	76	31							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																					
精神科作業療法	8,500	8,187	7,209	7,649	5,942	5,494																																																					
デイケア	4,555	4,100	4,239	4,448	5,455	6,023																																																					
計	13,055	12,287	11,448	12,097	11,397	11,517																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																					
訪問看護実施件数	2,498	2,751	2,883	3,322	4,068	3,996																																																					
(うち複数訪問)	389	344	170	147	76	31																																																					
21	<p>【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。</p>	<p>【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。</p>	<p>H30年4月にリハビリテーション医1名(非常勤)を採用し、リハビリ需要に対応している。今後さらなる質の向上を図っていく。</p>																																																								

中期計画		30年度実績 自己評価																													
中期目標	中期計画	行動計画	業務の実績																												
		No.																													
	年度計画																														
	I I (3) カ	22	<p>総合</p> <p>・H30 遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。がんゲノム検査のNCCオンコパネル（先進医療B）を1例実施 518,800円/回</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）H27年度に院内の関係する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。</p> <p>・H30年3月27日「がんゲノム医療中核拠点病院」である京都大学医学部附属病院内の連携病院として「がんゲノム医療連携病院」に指定された。</p> <table border="1"> <caption>遺伝診療科受診患者数 (単位:人)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>受診患者数</td> <td></td> <td></td> <td>21</td> <td>39</td> <td>86</td> <td>101</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	受診患者数			21	39	86	101														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																									
受診患者数			21	39	86	101																									
	I I (3) キ	23	<p>総合</p> <p>【総】・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にあるが、脳FDG-PETの件数は増加している。</p> <table border="1"> <caption>脳FDG-PET (単位:件)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>実施件数</td> <td>137</td> <td>144</td> <td>131</td> <td>135</td> <td>147</td> <td>161</td> </tr> </table> <p>認知症ケア加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>8,306</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	実施件数	137	144	131	135	147	161	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	算定件数	—	—	—	803	10,494	8,306
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																									
実施件数	137	144	131	135	147	161																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																									
算定件数	—	—	—	803	10,494	8,306																									
		24	<p>こころ</p> <p>【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。</p> <p>【心】・老年期特有の専門外来（老年期と物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施する。</p> <table border="1"> <caption>認知症患者数 (単位:件)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>認知症患者数</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>9</td> </tr> </table> <p>老年期と物忘れ外来受診件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>受診件数</td> <td>793</td> <td>855</td> <td>797</td> <td>573</td> <td>441</td> <td>483</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	認知症患者数	20	16	6	12	11	9	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	受診件数	793	855	797	573	441	483
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																									
認知症患者数	20	16	6	12	11	9																									
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																									
受診件数	793	855	797	573	441	483																									
		25	<p>こども</p> <p>【子】・発達障害について、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。</p> <table border="1"> <caption>発達小児科診療実績 (単位:人)</caption> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>外来症患者数</td> <td>2,755</td> <td>2,960</td> <td>3,210</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>4,014</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	外来症患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	4,014														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																									
外来症患者数	2,755	2,960	3,210	3,563	3,871	4,014																									
			<p>説明</p> <p>H30年度の遺伝診療科の受診患者数は順調に増加している。世間の関心の高さから今後とも患者数の増加が期待される。また、H29年度末に「がんゲノム医療連携病院」に指定され、がんゲノム医療の体制を整備・強化している。</p> <p>脳FDG-PETの件数が過去最高となった。</p> <p>精神科救急・急性期医療体制を確保して症状が重篤な認知症患者を受け入れるとともに、老年期特有の専門外来（老年期と物忘れ外来）により専門的な医療相談を実施している。</p> <p>ペアレント・トレーニング 新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施した。</p>																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価
	<p>ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。</p>	<p>高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、低侵襲治療や高度な治療への対応の強化(ロボット支援手術・放射線治療等の拡充)など、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設及び機器等の充実に取り組む。</p>	26	<p>・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。</p>	<p>・H30実績 ・総合病院の第1期リニューアル工事で、8月に幹部諸室及び事務部門を本館2階から6階へ移転した。 また、手術室跡地に産婦人科病棟を整備し、12月から運用開始した。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、エントランスホール天井について、H30年1月から10月にかけて改修を行った。 ・H29年3月に着工した第1立体駐車場の工事がH30年9月初旬に完了し、北立体駐車場として9月7日から供用を開始した。 ・H30年6月にリニアックを本館地階から先端医学棟1階に移設した。 ・こども病院の院内保育所の建替えは、H30年9月から着工し、H31年3月に竣工した。 ・こどもの医療センターでは南1(回復期)病棟の個室を増やすことで、従来、個室でないとして受け入れ困難である救急病棟からの患者の受け入れが円滑になった。(18室→22室) ・第2期中期期間(H26～30) ・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、防排煙設備の一部について、H28年度からH29年度にかけて改修を行った。 ・H27から進めていた先端医学棟(5階建 延床面積約20,569.6㎡)の建設工事が、H29年6月末に完了した。H29年7月に竣工式を挙行して、H29年9月に稼働した。 ・総合病院の先端医学棟の開棟に伴い、必要な機器等を整備した。 ・総合病院の第1期リニューアル工事がH29年7月より施工中である。 ・総合病院の北安東2丁目医師宿舍建設工事は、H30年10月に工事が完了し、11月から供用を開始した。 ・こどもの医療センターは、病棟の個室化改修工事に係る設計作業が完了した。 ・こどもの医療センターの院内トイレ改修工事は、実施設計を行った。</p>	<p>・H30年度はリニアックの移設も完了し、治療体制の充実を図ることができた。 ・北立体駐車場の供用開始により、病院周辺の道路で渋滞は発生しておらず、来院者の利便性向上に繋がった。 ・こども病院の院内保育所がH30年9月に着工、H31年3月に竣工され、職員の福利厚生の上上が図られる。 ・南1(回復期)病棟の個室を増やすことで、従来、個室でないとして受け入れ困難である救急病棟からの患者の受け入れが円滑になった。(18室→22室)</p>

施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
総合	16,479	31	1,141	1,863	5,136	5,783
こども	1,205	32	119	623	194	3
合計	2,260	95	525	436	494	265
合計	19,944	158	1,785	2,922	5,824	6,051

医療機器等

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
総合	10,101	1,292	899	587	566	4,322
こども	179	21	71	46	5	10
合計	2,098	289	439	314	279	506
合計	12,378	1,602	1,409	947	850	4,838

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																												
	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—																												
	(ア) 県立総合病院	<p>県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院としての、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。</p> <p>右診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取組む。</p> <p>県民に提供する医療<業務の予定量></p> <p>病床数 720床 (670床)</p> <p>一般病床 620床</p> <p>結核病床 100床 (50床)</p> <p>外来患者 440,640人</p> <p>入院患者 236,301人</p>	<p>1 県立総合病院診療事業</p> <p>1 県内医療機関の中核的病院としての、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患（心疾患、脳血管疾患、がん）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。</p> <p>右診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取組む。</p> <p>県民に提供する医療<業務の予定量></p> <p>病床数 720床 (670床)</p> <p>一般病床 620床</p> <p>結核病床 100床 (50床)</p> <p>外来患者 440,640人</p> <p>入院患者 236,301人</p>	—	—	—	—																												
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実を図る。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	<p>循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした24時間体制による高度な専門的治療を提供する体制の充実</p> <p>①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) 機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供</p> <p>②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する24時間救急受入体制の強化</p> <p>③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進</p> <p>④ハイブリッド手術室の使用によるステントグラフト治療等の高度専門医療の提供</p>	<p>27 総合</p> <p>①・冠動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。</p>	<p>・ H30実績</p> <p>H30年9月、循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して14床へ拡大した。</p> <p>・ 第2期中期期間 (H26～30)</p> <p>・ H27は、循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制 (看護配置2:1) で10床稼働した。</p> <p>心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもⅡからⅠへのランクアップを実現した (増収額480万円/年)</p> <p>・ H28は、循環器病センター3階のCCU/ICUを2床増床して12床へ拡大した。</p> <p>・ H29は、6月に特定集中治療室管理料2の施設基準を取得しランクアップを実現した。(75,790円/日→118,680円/日等) 増収額:128百万円</p>	<p>冠動脈疾患集中治療室 (CCU/ICU) を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供している。</p> <p>院内で不足気味であった重症系病棟を増加させることで、高度急性期の治療をより手厚く行える体制を整えた。病床を増加しても稼働率は前年並みを維持しており、その必要性を表している。</p>																														
				28	<p>②・脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。</p>	<p>・ 第2期中期目標期間 (H26～30)</p> <p>・ 脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。</p> <p>・ 脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科)</p> <p>・ 先端医療棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、急性期医療に対応する体制を整備された。</p> <p>・ H29 超急性期脳卒中加算は前年度比1.8倍に増加した。</p> <p>・ H30実績</p> <p>脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>38</td> <td>42</td> <td>68</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>62</td> </tr> </table> <p>超急性期脳卒中加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>16</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	算定件数	38	42	68	52	42	62	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	算定件数	11	11	15	15	27	16	<p>先端医療棟にMRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を整備し、脳卒中発症患者に対して、高度な専門的治療が最大限に提供されている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																													
算定件数	38	42	68	52	42	62																													
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																													
算定件数	11	11	15	15	27	16																													

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																																											
			29	<p>③・生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。</p>	<p>総合</p> <p>・H30実績 ・件数増加を目指し、新たに糖尿病透析予防指導を行う「そらまめ外来」の午後診療を開始した。 ・糖尿病透析予防指導の資格を有する看護師の外来配置人数を増やし、体制を強化した。 配置数 H29：2人→H30：9人（＋7人）</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）関係科の医師及びひこメデイカルによる合同検討会（下肢救済チーム）を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。 ・糖尿病透析予防指導管理料については、専門外来を開設し活動している。 ・指導に必要な検査（尿アルブミン値）の実施率が低いいため、検査実施率の向上を検討する。 ・末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p> <p>糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>算定件数</td> <td>44</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>132</td> <td>75</td> <td>145</td> </tr> </table> <p>末梢動脈疾患（PAD）検査 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>ABI</td> <td>1,123</td> <td>1,446</td> <td>1,725</td> <td>1,831</td> <td>2,096</td> <td>2,321</td> </tr> <tr> <td>SPP</td> <td>171</td> <td>143</td> <td>258</td> <td>220</td> <td>230</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td>下肢動脈超音波</td> <td>73</td> <td>111</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>268</td> <td>276</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	算定件数	44	24	37	132	75	145	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	2,321	SPP	171	143	258	220	230	258	下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	276	<p>業務の実績</p>	<p>A</p> <p>循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療を推進している。末梢動脈疾患検査は着実に件数が増加している。</p> <p>糖尿病透析予防指導管理料の算定件数については、糖尿病・内分泌内科やそらまめ外来、透析室などでも指導できようになり、前年度を大きく上回った。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
算定件数	44	24	37	132	75	145																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
ABI	1,123	1,446	1,725	1,831	2,096	2,321																																											
SPP	171	143	258	220	230	258																																											
下肢動脈超音波	73	111	188	195	268	276																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明														
			32	①・外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	<p>総合</p> <p>・H30実績 外来化学療法センターでは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。</p> <p>・H26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。</p> <p>・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。</p> <p>外来化学療法加算 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>9,733</td> <td>9,963</td> <td>10,509</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>12,159</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,680	12,159	A	外来化学療法が順調に伸びている。オプジーボ等の先進的な化学療法も順調に増加している。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度															
件数	9,733	9,963	10,509	11,171	11,680	12,159															
			33	②・地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<p>総合</p> <p>・H30年度実績 緩和ケアチーム介入件数 418件 (5E病棟がん患者254件、5E病棟非がん患者4件、5E病棟外がん患者140件、5E病棟外非がん患者20件)</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 緩和ケアチーム介入症例数 H29年度実績：389件 (5E病棟がん患者260件、5E病棟非がん患者1件、5E病棟外がん患者114件、5E病棟外非がん患者14件)</p> <p>・H31年2月より緩和ケアチームの施設基準を取得し、緩和ケア診療加算の算定が可能となった。</p> <p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> <td>389</td> <td>418</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	症例数	426	381	403	372	389	418	A-	がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入症例数を維持している。 また、H31年2月より緩和ケア診療加算の算定を開始し、収益面においても貢献することができた。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度															
症例数	426	381	403	372	389	418															
			34	③・がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<p>総合</p> <p>がん相談件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> <td>5,896</td> <td>4,374</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	5,896	4,374	A	H28年度からがん相談体制を強化し、がん関連の各種認定看護師、がん看護専門看護師が相談に当たっている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度															
がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	5,896	4,374															

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価 説明																																																																																				
	<p>・救命救急センターとして一層の充実を図るとともに、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応するため、高度救命救急センターを旨とした整備を図る。</p>	<p>重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ① 高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ② 集中治療専門医の確保 ③ 救急搬送患者の受入体制の充実</p>	<p>36</p>	<p>①②・医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。</p>	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H30実績 ・ H30年度は救急科医師9名体制で稼働 ・ 第2期中期目標期間（H26～30） ・ 医師の変則勤務の試行を継続し、当直明けに休める制度を整えた。 ・ H25年7月から、救急科医師5名体制（うち専門医2名）により、救命救急センターが稼働した。 ・ H27年3月から高度救命救急センターに指定 ・ H28年度は救急科医師8名、H29年度は救急科医師7名体制で稼働 <table border="1" data-bbox="567 831 693 1394"> <caption>医師の変則勤務状況 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,563</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> <td>1,722</td> <td>1,717</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>858</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>961</td> <td>889</td> <td>966</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>55.2</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> <td>51.6</td> <td>56.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	該当者(人)	1,563	1,547	1,444	1,634	1,722	1,717	利用者(人)	858	924	935	961	889	966	利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.6	56.3	<p>A</p> <p>救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の円滑な受入体制を維持している。</p>																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																				
該当者(人)	1,563	1,547	1,444	1,634	1,722	1,717																																																																																				
利用者(人)	858	924	935	961	889	966																																																																																				
利用率(%)	55.2	59.7	64.7	58.8	51.6	56.3																																																																																				
			<p>37</p>	<p>③・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。</p>	<p>総合</p> <p>救急車受入率 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="735 831 840 1394"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>97.4</td> <td>94.2</td> <td>97.1</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>97.1</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>91.9</td> <td>89.3</td> <td>93.0</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td>97.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>特殊疾病患者受入数 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="861 831 1029 1394"> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>249</td> <td>293</td> <td>368</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>378</td> </tr> <tr> <td>急性中風</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>127</td> <td>202</td> <td>210</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>382</td> <td>507</td> <td>610</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>608</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー出動状況 (単位：件)</p> <table border="1" data-bbox="1050 831 1113 1394"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ ドクターカー協定書締結状況 ・ H26 静岡市 富士宮市 ・ H27 富士宮市 富士宮市 ・ H28 静岡市消防局の管轄区域が3市2町に拡大 静岡市、島田市、牧之原市、吉田町 川根本町 ・ H29 志太消防本部と協議（焼津市、藤枝市） 	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	97.1	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	97.4	疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	重症熱傷	4	7	14	12	12	14	重症外傷	249	293	368	446	539	378	急性中風	2	5	18	18	18	30	病院外心停止	127	202	210	207	207	186	計	382	507	610	683	776	608	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	件数	2	4	4	4	7	10	12							<p>A</p> <p>ドクターカーの出動出動状況は、現場での救命救急措置が必要とされた場合に限り発生し、消防から要請があった場合に限られるため、年度ごとに要請が大きいのが、要請を受けた場合は、迅速に対応できている。出動可能な市町は5市2町となっており、広範囲をカバーしている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																				
当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	94.6	97.1																																																																																				
全日	91.9	89.3	93.0	93.1	94.9	97.4																																																																																				
疾病名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																				
重症熱傷	4	7	14	12	12	14																																																																																				
重症外傷	249	293	368	446	539	378																																																																																				
急性中風	2	5	18	18	18	30																																																																																				
病院外心停止	127	202	210	207	207	186																																																																																				
計	382	507	610	683	776	608																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																				
件数	2	4	4	4	7	10																																																																																				
12																																																																																										

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明																																																							
		(イ) 県立こころの医療センター	<p>県立こころの医療センター 診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。県民に提供する医療<業務の予定量> 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者 38,942人 入院患者 55,956人</p>	-	-																																																										
		<p>・24時間を通して精神科救急医療相談に応じるとともに、救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるような支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備</p>	38	<p>①②・24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるような支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載を不定期から年4回（季刊）に増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。</p> <table border="1"> <caption>精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区</td> <td>2,462</td> <td>2,605</td> <td>4,174</td> <td>3,956</td> <td>3,020</td> <td>2,718</td> </tr> <tr> <td>市</td> <td>1,967</td> <td>2,049</td> <td>3,174</td> <td>2,082</td> <td>2,365</td> <td>1,482</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	区	2,462	2,605	4,174	3,956	3,020	2,718	市	1,967	2,049	3,174	2,082	2,365	1,482	うち時間外							-																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																									
区	2,462	2,605	4,174	3,956	3,020	2,718																																																									
市	1,967	2,049	3,174	2,082	2,365	1,482																																																									
うち時間外																																																															
			<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロサザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組</p>	39	<p>①・新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。</p>	<p>精神科救急入院料の施設基準を維持するため、新規入院患者が90日以内に退院できるような早期退院を促進している。</p>																																																									
		<p>・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロサザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組</p>	40	<p>①・薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT（修正型電気けいれん療法）を積極的に実施する。</p>	<p>・H30実績 H21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。</p> <table border="1"> <caption>m-ECT実施件数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>578</td> <td>836</td> <td>596</td> <td>605</td> <td>693</td> <td>832</td> </tr> <tr> <td>実施者数</td> <td>56</td> <td>68</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>53</td> <td>61</td> <td>47</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>36</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	延件数(件)	578	836	596	605	693	832	実施者数	56	68	53	54	60	66	中部地区	53	61	47	51	54	58	(静岡市)	36	50	32	43	40	43	東部地区	1	3	4	2	3	3	西部地区	1	3	1	1	3	4	その他	1	1	1	0	0	1	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																									
延件数(件)	578	836	596	605	693	832																																																									
実施者数	56	68	53	54	60	66																																																									
中部地区	53	61	47	51	54	58																																																									
(静岡市)	36	50	32	43	40	43																																																									
東部地区	1	3	4	2	3	3																																																									
西部地区	1	3	1	1	3	4																																																									
その他	1	1	1	0	0	1																																																									

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																																			
				41	①・先端薬物療法（クロザピリンなど）を積極的に実施する。	<p>・H23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、H30年度末までには55名の患者に投与しており、現在41名に対して継続投与中である。</p> <p>・クロザピリンによる治療体制が整い、H22年4月27日、クロザピリン適正使用委員会において、CPMS（クロザピリン患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。</p> <p>・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <p>クロザピリン投与患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>患者数</td> <td>13</td> <td>25</td> <td>32</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>50</td> </tr> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	患者数	13	25	32	39	44	50	A																					
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																				
患者数	13	25	32	39	44	50																																				
				42	①・心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。	<p>・H30実績</p> <p>H22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。</p> <p>また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30）入院・外来患者心理教室37クール開催 参加者延872名（H31.3.31現在）</p> <p>心理教育参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>34</td> <td>54</td> <td>172</td> <td>206</td> <td>230</td> <td>210</td> </tr> </table> <p>心理教育研修参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>41</td> <td>162</td> <td>66</td> <td>142</td> <td>155</td> <td>136</td> </tr> </table>	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	参加者数	34	54	172	206	230	210	項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	参加者数	41	162	66	142	155	136	A							
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																				
参加者数	34	54	172	206	230	210																																				
項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																				
参加者数	41	162	66	142	155	136																																				
				43	①・在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	<p>・H21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。</p> <p>H22年2月の支援開始以来延べ24名の支援活動を実施し、うち9名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、2名は転院により支援終了、2名は死亡により終了。</p> <p>H31年3月末現在、外来患者11名の支援を継続している。</p> <p>ACT実施状況</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>対象者</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>2人</td> <td>1人</td> <td>2人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>活動状況</td> <td colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス 多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	対象者	6人	6人	5人	7人	9人	11人	入院	2人	1人	2人	0人	0人	0人	外来							活動状況	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス 多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						A
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																				
対象者	6人	6人	5人	7人	9人	11人																																				
入院	2人	1人	2人	0人	0人	0人																																				
外来																																										
活動状況	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス 多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																									
				44	①・医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。	<p>・H30実績</p> <p>・H21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、H23年3月末には12床への増床が完了した。</p> <p>・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、H23年8月以降ほぼ満床の状態が続いており、高い利用率で推移している。</p> <p>医療観察法指定の稼働状況 (単位:床・%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>94.1</td> <td>97.3</td> <td>97.4</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>96.0</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	96.0	A														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																				
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																																				
病床利用率(%)	94.1	97.3	97.4	99.1	96.9	96.0																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明																																																																																																																				
	<p>・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組</p> <p>①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受け入れなど、静岡県小児がん拠点病院としての機能強化</p> <p>②院内がん登録の推進</p> <p>③県立静岡がんセンターとの連携強化</p>	47	<p>①②・静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍科・腫帯血移植などの治療法を利用して対応する。</p> <p>①②・小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、診療の更なる充実を図る。</p> <p>③・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。</p>	<p>血液腫瘍科延患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>7,032</td> <td>6,947</td> <td>9,613</td> <td>8,301</td> <td>7,977</td> <td>8,656</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,645</td> <td>3,396</td> <td>3,533</td> <td>3,691</td> <td>3,711</td> <td>3,601</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>14</td> </tr> </table> <p>小児がん登録件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>登録件数</td> <td>12</td> <td>57</td> <td>46</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>47</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	8,656	外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	3,601	造血幹細胞移植実績							区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	骨髄移植	9	9	4	4	2	5	臍帯血	1	1	0	2	1	3	自家末梢血	2	2	8	5	7	4	同種末梢血	1	1	1	0	0	2	計	13	13	13	11	10	14	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	登録件数	12	57	46	61	58	47	<p>・概ね2ヶ月に1回県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施した。</p> <p>・H31年2月には厚生労働省から全国15施設の一つとして小児がん拠点病院の指定を受けた。</p>	A	<p>・静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもに対処している。</p> <p>・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを行い、連携を図っている。</p> <p>・H31年2月には厚生労働省から小児がん拠点病院の指定を受け、拠点病院としての更なる機能強化を図っている。</p>																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
入院	7,032	6,947	9,613	8,301	7,977	8,656																																																																																																																					
外来	3,645	3,396	3,533	3,691	3,711	3,601																																																																																																																					
造血幹細胞移植実績																																																																																																																											
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
骨髄移植	9	9	4	4	2	5																																																																																																																					
臍帯血	1	1	0	2	1	3																																																																																																																					
自家末梢血	2	2	8	5	7	4																																																																																																																					
同種末梢血	1	1	1	0	0	2																																																																																																																					
計	13	13	13	11	10	14																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
登録件数	12	57	46	61	58	47																																																																																																																					
	<p>・24時間を通して重篤な小児救命救急患者の受入体制を維持・強化するとともに、救急医療全般にわたって地域医療機関と分担して受け入れる体制を整備する。</p>	<p>24時間を通して重篤な小児救命救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補充となる体制整備</p> <p>①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充</p> <p>②小児救命救急センターとしてメデイカルコントロール体制整備への協力</p> <p>③小児救急専門スタッフの教育の充実</p>	48	<p>①・PICU (小児集中治療センター) ・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。</p> <p>①・小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実に努める。</p> <p>②・院内の小児救急専門スタッフ (医師、看護師) 育成に努める。</p>	<p>PICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>2,568</td> <td>2,502</td> <td>2,565</td> <td>2,462</td> <td>2,390</td> <td>2,539</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>84.9</td> <td>85.4</td> <td>87.6</td> <td>84.3</td> <td>81.8</td> <td>87.0</td> </tr> </table> <p>ER診療実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>入院患者数</td> <td>1,424</td> <td>1,734</td> <td>1,716</td> <td>1,338</td> <td>1,299</td> <td>1,386</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>3,995</td> <td>4,792</td> <td>4,949</td> <td>4,170</td> <td>4,110</td> <td>4,275</td> </tr> </table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>56</td> <td>70</td> <td>45</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>41</td> </tr> </table> <p>ドクターカー出動実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>369</td> <td>313</td> <td>291</td> <td>298</td> <td>268</td> <td>274</td> </tr> </table> <p>PICU配置医師・看護師 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>医師 (有期含む)</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>32</td> <td>34</td> <td>31</td> <td>30</td> <td>32</td> <td>30</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	入院患者数	2,568	2,502	2,565	2,462	2,390	2,539	病床稼働率	84.9	85.4	87.6	84.3	81.8	87.0	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,299	1,386	外来患者数	3,995	4,792	4,949	4,170	4,110	4,275	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	回数	56	70	45	35	34	41	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	回数	369	313	291	298	268	274	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医師 (有期含む)	14	14	12	9	11	8	看護師	32	34	31	30	32	30	<p>各地域の医療機関、消防機関が参加するメデイカルコントロール協議会に当院も参加した。</p> <p>救急関係研修会等開催実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医、救急医</td> <td>193</td> <td>210</td> <td>155</td> <td>150</td> <td>135</td> <td>161</td> </tr> <tr> <td>救急救急士再教育病院医署</td> <td>救急救急士</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>6</td> </tr> </table>	区分	対象	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	小児救命救急研究会	小児医、救急医	193	210	155	150	135	161	救急救急士再教育病院医署	救急救急士	12	9	2	6	10	6	A	<p>救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
入院患者数	2,568	2,502	2,565	2,462	2,390	2,539																																																																																																																					
病床稼働率	84.9	85.4	87.6	84.3	81.8	87.0																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
入院患者数	1,424	1,734	1,716	1,338	1,299	1,386																																																																																																																					
外来患者数	3,995	4,792	4,949	4,170	4,110	4,275																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
回数	56	70	45	35	34	41																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
回数	369	313	291	298	268	274																																																																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																					
医師 (有期含む)	14	14	12	9	11	8																																																																																																																					
看護師	32	34	31	30	32	30																																																																																																																					
区分	対象	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																				
小児救命救急研究会	小児医、救急医	193	210	155	150	135	161																																																																																																																				
救急救急士再教育病院医署	救急救急士	12	9	2	6	10	6																																																																																																																				

中期目標		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		30年度実績 自己評価																																																																																																																	
		<p>・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。</p>	<p>子どものこのころの診療分野の県内における中核的機能の発揮</p> <p>①子どもの精神科専門病院を有することにより、児童の強みを発揮</p> <p>②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実</p> <p>③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成</p>	50	<p>①・県内の児童精神科医療の中核機関としての治療の充実と、必要に応じ、身体疾患を有する患者に当該担当科と連携して治療する。</p>	<p>こども</p> <p>このころの診療科診療実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>10,688</td> <td>10,546</td> <td>9,455</td> <td>10,086</td> <td>10,864</td> <td>10,011</td> </tr> <tr> <td>入院新患者数</td> <td>54</td> <td>44</td> <td>54</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>12,188</td> <td>12,331</td> <td>12,532</td> <td>12,311</td> <td>12,607</td> <td>12,376</td> </tr> <tr> <td>外来初診患者数</td> <td>521</td> <td>540</td> <td>492</td> <td>477</td> <td>502</td> <td>466</td> </tr> </tbody> </table> <p>このころの診療科地域別実患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>671</td> <td>715</td> <td>732</td> <td>755</td> <td>766</td> <td>779</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>1,010</td> <td>1,034</td> <td>1,094</td> <td>1,077</td> <td>1,157</td> <td>1,190</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>52</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>59</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,744</td> <td>1,813</td> <td>1,885</td> <td>1,896</td> <td>1,997</td> <td>2,035</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	入院延患者数	10,688	10,546	9,455	10,086	10,864	10,011	入院新患者数	54	44	54	54	58	57	外来延患者数	12,188	12,331	12,532	12,311	12,607	12,376	外来初診患者数	521	540	492	477	502	466	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	東部	671	715	732	755	766	779	中部	1,010	1,034	1,094	1,077	1,157	1,190	西部	52	53	52	54	59	56	県外	11	11	7	10	15	10	合計	1,744	1,813	1,885	1,896	1,997	2,035	<p>事業を行っている全国18都府県1政令指定都市にある25の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。</p> <p>(拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、沖縄県、札幌市</p> <p>精神保健講座等開催実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>153人</td> <td>166人</td> <td>166人</td> <td>135人</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>16回</td> <td>20回</td> <td>22回</td> <td>11回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>8施設</td> <td>10施設</td> <td>11施設</td> <td>10施設</td> <td>10施設</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>139人</td> <td>196人</td> <td>166人</td> <td>135人</td> <td>159人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	精神保健講座	153人	166人	166人	135人	159人	児童養護施設巡回講座	5回	5回	5回	5回	5回	児童養護施設巡回講座	16回	20回	22回	11回	10回	児童養護施設巡回講座	8施設	10施設	11施設	10施設	10施設	児童養護施設巡回講座	139人	196人	166人	135人	159人	<p>A</p> <p>中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																			
入院延患者数	10,688	10,546	9,455	10,086	10,864	10,011																																																																																																																			
入院新患者数	54	44	54	54	58	57																																																																																																																			
外来延患者数	12,188	12,331	12,532	12,311	12,607	12,376																																																																																																																			
外来初診患者数	521	540	492	477	502	466																																																																																																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																			
東部	671	715	732	755	766	779																																																																																																																			
中部	1,010	1,034	1,094	1,077	1,157	1,190																																																																																																																			
西部	52	53	52	54	59	56																																																																																																																			
県外	11	11	7	10	15	10																																																																																																																			
合計	1,744	1,813	1,885	1,896	1,997	2,035																																																																																																																			
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																				
精神保健講座	153人	166人	166人	135人	159人																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	5回	5回	5回	5回	5回																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	16回	20回	22回	11回	10回																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	8施設	10施設	11施設	10施設	10施設																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	139人	196人	166人	135人	159人																																																																																																																				
				51	<p>②・厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県拠点病院として参加する。</p>	<p>こども</p> <p>事業を行っている全国18都府県1政令指定都市にある25の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。</p> <p>(拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、沖縄県、札幌市</p> <p>精神保健講座等開催実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>153人</td> <td>166人</td> <td>166人</td> <td>135人</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>16回</td> <td>20回</td> <td>22回</td> <td>11回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>8施設</td> <td>10施設</td> <td>11施設</td> <td>10施設</td> <td>10施設</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回講座</td> <td>139人</td> <td>196人</td> <td>166人</td> <td>135人</td> <td>159人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	精神保健講座	153人	166人	166人	135人	159人	児童養護施設巡回講座	5回	5回	5回	5回	5回	児童養護施設巡回講座	16回	20回	22回	11回	10回	児童養護施設巡回講座	8施設	10施設	11施設	10施設	10施設	児童養護施設巡回講座	139人	196人	166人	135人	159人	<p>A</p> <p>急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。</p>																																																																														
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																				
精神保健講座	153人	166人	166人	135人	159人																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	5回	5回	5回	5回	5回																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	16回	20回	22回	11回	10回																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	8施設	10施設	11施設	10施設	10施設																																																																																																																				
児童養護施設巡回講座	139人	196人	166人	135人	159人																																																																																																																				
				52	<p>③・児童精神科医の育成に努める。</p>	<p>こども</p> <p>有期職員医師を1名採用し(H25年度から延べ5名)、専門的な児童精神科医を育成している。</p> <p>有期職員医師採用実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	採用人数	1	1	1	1	1	1	<p>A</p> <p>児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。</p>																																																																																																				
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																			
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																																																																			

中期計画		中期計画		年度計画		No.	行動計画	業務の実績		30年度実績 自己評価	
第2	2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	第2	2 医療に関する技術者(医師、看護師及びその他の医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	I 2	医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	53	総合 ・業務運営に必要な人材の確保に努める。	総合病院正規職員数(医師除く) 各年度4月1日時点(単位:人)	A	人材確保対策本部を設置し、キャリアアップ隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学金貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、30年度は79名の看護師を確保した。	
	優秀な医師、看護師等医療従事者を確保し、育成するため、魅力ある病院として、これら医療従事者から評価され選ばれるよう、研修機能の充実・強化を図ること。また、国内外との交流による研修の充実に努めること。		県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制の整備や就業環境の向上などを図ることにより、優秀な人材の確保に努めるとともに、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。					初期臨床研修医数 (単位:人)	A-	H30年度は初期臨床研修医1年生24名、2年生20名の合計44名を確保した。 H31年度に向けては、初期臨床研修医1年生20名、2年生23名の合計43名を確保した。 後期研修医は10月より専門研修プログラムへの登録開始となり、動向を随時確認している。	
						54	こころ ・研修医の確保に努める。	後期臨床研修医数 (単位:人)	A	後期研修医については、計画どおり受け入れている。 新専門医制度の研修プログラムによる研修を行っている。	
							こども	後期研修医数 (単位:人)	A-	後期研修医は定員15名から1名減の14名を受け入れている。 新専門医制度へも対応し、後期研修医のうち11名を小児科専攻医として新プログラムで研修を行っている。	

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																									
			55	<ul style="list-style-type: none"> ・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。 	<p>•H30実績 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコマディカル及び事務においてアソシエイトの公募試験を開始した。</p> <p>•第2期中期目標期間（H26～30） 看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じて採用も合わせて行った。さらに優秀な人材確保のためコマディカルにおいてアソシエイト及び事務の公募試験を開始した。</p> <p>正規職員の確保状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>226</td> <td>230</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>269</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,179</td> <td>1,221</td> <td>1,251</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,370</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>289</td> <td>304</td> <td>327</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>319</td> </tr> <tr> <td>研究員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>105</td> <td>109</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,801</td> <td>1,869</td> <td>1,941</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,088</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>123</td> <td>127</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>646</td> <td>654</td> <td>678</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>806</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>184</td> <td>196</td> <td>215</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>214</td> </tr> <tr> <td>研究員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>38</td> <td>41</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>992</td> <td>1,021</td> <td>1,080</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,242</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>113</td> <td>114</td> <td>110</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>162</td> <td>167</td> <td>161</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>医師</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>419</td> <td>452</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>444</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>81</td> <td>85</td> <td>83</td> <td>81</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>619</td> <td>652</td> <td>669</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>642</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医師	226	230	241	245	260	269	歯科医師	2	5	4	5	4	4	看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,370	医療技術	289	304	327	320	315	319	研究員							事務	105	109	118	119	118	126	計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,088	看護師	1	1	1	2	2	2	医療技術	1	1	1	1	1	1	事務	26	27	28	27	25	32	計	28	29	31	29	27	34	医師	123	127	135	144	157	165	歯科医師	1	3	3	4	3	3	看護師	646	654	678	748	804	806	医療技術	184	196	215	211	208	214	研究員							事務	38	41	49	51	52	54	計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	1,242	医師	12	13	12	12	12	14	歯科医師		1					看護師	113	114	110	114	115	118	医療技術	24	26	26	26	26	25	事務	13	13	13	13	13	13	計	162	167	161	165	166	170	医師	91	90	94	89	91	90	歯科医師	1	1	1	1	1	1	看護師	419	452	461	453	449	444	医療技術	80	81	85	83	81	80	事務	28	28	28	28	28	27	計	619	652	669	654	650	642	<p>看護師試験については、年4回の定時募集に加えて、経験者随時募集を年9回実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報（公共交通機関への広告掲載）、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。</p> <p>コマディカルについては、必要な職種について適時、募集を実施しており、精神保健福祉士、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、遺伝カウンセラーについて公募試験を開始し優秀な人材の確保に努めた。</p> <p>事務については、アソシエイトの公募試験を開始し優秀な人材の確保に努めた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																																																																																																									
医師	226	230	241	245	260	269																																																																																																																																																																																																																									
歯科医師	2	5	4	5	4	4																																																																																																																																																																																																																									
看護師	1,179	1,221	1,251	1,317	1,370	1,370																																																																																																																																																																																																																									
医療技術	289	304	327	320	315	319																																																																																																																																																																																																																									
研究員																																																																																																																																																																																																																															
事務	105	109	118	119	118	126																																																																																																																																																																																																																									
計	1,801	1,869	1,941	2,006	2,067	2,088																																																																																																																																																																																																																									
看護師	1	1	1	2	2	2																																																																																																																																																																																																																									
医療技術	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																									
事務	26	27	28	27	25	32																																																																																																																																																																																																																									
計	28	29	31	29	27	34																																																																																																																																																																																																																									
医師	123	127	135	144	157	165																																																																																																																																																																																																																									
歯科医師	1	3	3	4	3	3																																																																																																																																																																																																																									
看護師	646	654	678	748	804	806																																																																																																																																																																																																																									
医療技術	184	196	215	211	208	214																																																																																																																																																																																																																									
研究員																																																																																																																																																																																																																															
事務	38	41	49	51	52	54																																																																																																																																																																																																																									
計	992	1,021	1,080	1,158	1,224	1,242																																																																																																																																																																																																																									
医師	12	13	12	12	12	14																																																																																																																																																																																																																									
歯科医師		1																																																																																																																																																																																																																													
看護師	113	114	110	114	115	118																																																																																																																																																																																																																									
医療技術	24	26	26	26	26	25																																																																																																																																																																																																																									
事務	13	13	13	13	13	13																																																																																																																																																																																																																									
計	162	167	161	165	166	170																																																																																																																																																																																																																									
医師	91	90	94	89	91	90																																																																																																																																																																																																																									
歯科医師	1	1	1	1	1	1																																																																																																																																																																																																																									
看護師	419	452	461	453	449	444																																																																																																																																																																																																																									
医療技術	80	81	85	83	81	80																																																																																																																																																																																																																									
事務	28	28	28	28	28	27																																																																																																																																																																																																																									
計	619	652	669	654	650	642																																																																																																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																																																																																																															
					<p>•H130実績</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>ナース専科 (静岡)</td><td>133</td><td>105</td><td>17</td></tr> <tr><td>ナースナビ (浜松)</td><td>218</td><td>88</td><td>2</td></tr> <tr><td>キャリアタスク看護 (名古屋)</td><td>125</td><td>13</td><td>1</td></tr> <tr><td>マイナビ (静岡)</td><td>224</td><td>224</td><td>28</td></tr> <tr><td>マイナビ (浜松)</td><td>53</td><td>53</td><td>3</td></tr> <tr><td>ナースセンター (沼津)</td><td>124</td><td>124</td><td>1</td></tr> <tr><td>業者計</td><td>10</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>静岡県立大学</td><td>887</td><td>608</td><td>53</td></tr> <tr><td>常葉大学</td><td>124</td><td>79</td><td>24</td></tr> <tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>250</td><td>78</td><td>18</td></tr> <tr><td>順天堂大学</td><td>158</td><td>53</td><td>6</td></tr> <tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>120</td><td>18</td><td>8</td></tr> <tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>85</td><td>26</td><td>7</td></tr> <tr><td>養成校計</td><td>240</td><td>103</td><td>1</td></tr> <tr><td>計</td><td>977</td><td>357</td><td>64</td></tr> <tr><td>計</td><td>1,864</td><td>965</td><td>117</td></tr> </tbody> </table> <p>•第2期中期目標期間(H126～30)</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>来場者数</td><td>970</td><td>810</td><td>949</td><td>1,012</td><td>1,378</td><td>887</td></tr> <tr><td>養成校</td><td>590</td><td>569</td><td>639</td><td>764</td><td>842</td><td>997</td></tr> <tr><td>訪問者数</td><td>236</td><td>257</td><td>254</td><td>200</td><td>360</td><td>608</td></tr> <tr><td>受験者数</td><td>198</td><td>198</td><td>293</td><td>286</td><td>366</td><td>357</td></tr> <tr><td>採用</td><td>16</td><td>17</td><td>17</td><td>48</td><td>86</td><td>64</td></tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科 (静岡)	133	105	17	ナースナビ (浜松)	218	88	2	キャリアタスク看護 (名古屋)	125	13	1	マイナビ (静岡)	224	224	28	マイナビ (浜松)	53	53	3	ナースセンター (沼津)	124	124	1	業者計	10	1	1	静岡県立大学	887	608	53	常葉大学	124	79	24	聖隷クリストファー大学	250	78	18	順天堂大学	158	53	6	静岡市立看護専門学校	120	18	8	静岡県立看護専門学校	85	26	7	養成校計	240	103	1	計	977	357	64	計	1,864	965	117	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	来場者数	970	810	949	1,012	1,378	887	養成校	590	569	639	764	842	997	訪問者数	236	257	254	200	360	608	受験者数	198	198	293	286	366	357	採用	16	17	17	48	86	64	<p>企業主催の説明会については、県内・県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面談し、病院機構をPRすることができた。</p> <p>また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、現在の学生の動向等をつかむことができた。</p>	<p>30年度実績 自己評価</p> <p>説明</p>
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																		
ナース専科 (静岡)	133	105	17																																																																																																																		
ナースナビ (浜松)	218	88	2																																																																																																																		
キャリアタスク看護 (名古屋)	125	13	1																																																																																																																		
マイナビ (静岡)	224	224	28																																																																																																																		
マイナビ (浜松)	53	53	3																																																																																																																		
ナースセンター (沼津)	124	124	1																																																																																																																		
業者計	10	1	1																																																																																																																		
静岡県立大学	887	608	53																																																																																																																		
常葉大学	124	79	24																																																																																																																		
聖隷クリストファー大学	250	78	18																																																																																																																		
順天堂大学	158	53	6																																																																																																																		
静岡市立看護専門学校	120	18	8																																																																																																																		
静岡県立看護専門学校	85	26	7																																																																																																																		
養成校計	240	103	1																																																																																																																		
計	977	357	64																																																																																																																		
計	1,864	965	117																																																																																																																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																															
来場者数	970	810	949	1,012	1,378	887																																																																																																															
養成校	590	569	639	764	842	997																																																																																																															
訪問者数	236	257	254	200	360	608																																																																																																															
受験者数	198	198	293	286	366	357																																																																																																															
採用	16	17	17	48	86	64																																																																																																															
			56	<p>•就職説明会への参加や多角的な広報の実施などにより、必要な職員の確保を目指す。</p>																																																																																																																	
			57	<p>•看護師修学資金制度の積極的広報をし、活用推進により、更なる看護師確保を目指す。</p>	<p>看護師修学資金の状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>決定</td><td>73</td><td>74</td><td>123</td><td>88</td><td>114</td><td>55</td><td>527</td></tr> <tr><td>継続</td><td>52</td><td>80</td><td>99</td><td>126</td><td>163</td><td>182</td><td>702</td></tr> <tr><td>取消</td><td>▲6</td><td>▲12</td><td>▲11</td><td>▲5</td><td>▲9</td><td>▲8</td><td>▲51</td></tr> <tr><td>貸与計</td><td>119</td><td>142</td><td>211</td><td>209</td><td>268</td><td>229</td><td>1,178</td></tr> <tr><td>採用</td><td>38</td><td>33</td><td>76</td><td>40</td><td>63</td><td>62</td><td>312</td></tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計	決定	73	74	123	88	114	55	527	継続	52	80	99	126	163	182	702	取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲8	▲51	貸与計	119	142	211	209	268	229	1,178	採用	38	33	76	40	63	62	312	<p>一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。効果的・効率的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p>	<p>A</p>																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計																																																																																																														
決定	73	74	123	88	114	55	527																																																																																																														
継続	52	80	99	126	163	182	702																																																																																																														
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲8	▲51																																																																																																														
貸与計	119	142	211	209	268	229	1,178																																																																																																														
採用	38	33	76	40	63	62	312																																																																																																														

中期計画		30年度実績 自己評価																																																																																																						
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	説明																																																																																																		
			58	<ul style="list-style-type: none"> 看護部幹部や事務部幹部による養成校の訪問を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> H30実績 看護師確保キヤラバン隊が県外養成校6件を訪問した。看護師が充足したため、平成31年度は実施しない予定である。 第2期中期目標期間（H26～H30） 看護師確保担当を本部事務部に設置し、H26年度県内19校、県外93校、27年度県内21校、県外220校の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">看護師確保キヤラバン隊の状況</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> <th>計</th> </tr> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>山形県</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>新潟県</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td></tr> <tr><td>石川県</td><td>11</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td><td>0</td><td>19</td></tr> <tr><td>山梨県</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>長野県</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>岐阜県</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>3</td><td>3</td><td>29</td></tr> <tr><td>三重県</td><td>10</td><td>5</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>22</td></tr> <tr><td>徳島県</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td></tr> <tr><td>沖縄県</td><td>5</td><td>8</td><td>7</td><td>7</td><td>0</td><td>20</td></tr> <tr><td>計</td><td>63</td><td>47</td><td>41</td><td>6</td><td>6</td><td>157</td></tr> </tbody> </table> <p>H27年度からは、看護師人材確保会議において、看護師確保キヤラバンを創設し、機構幹部（院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等）が、県外養成校を訪問した看護師確保キヤラバン隊の状況（単位：校）</p>	看護師確保キヤラバン隊の状況		29年度		30年度		計	27年度	28年度	29年度	30年度	27年度	28年度	計	山形県	10	0	0	0	0	10	新潟県	0	10	0	0	0	10	石川県	11	0	8	0	0	19	山梨県	4	2	5	0	0	11	長野県	6	4	1	0	0	11	岐阜県	10	7	9	3	3	29	三重県	10	5	4	3	3	22	徳島県	0	0	7	0	0	7	佐賀県	7	0	0	0	0	7	鹿児島県	0	11	0	0	0	11	沖縄県	5	8	7	7	0	20	計	63	47	41	6	6	157	<p>看護師確保キヤラバン隊が県内外の看護師養成校を訪問し、県立3病院等の特色や強み等をPRするとともに、各養成校の学生の就職状況等について情報を収集し、採用活動に活かすことができた。</p> <p>A</p>
看護師確保キヤラバン隊の状況		29年度		30年度		計																																																																																																		
27年度	28年度	29年度	30年度	27年度	28年度	計																																																																																																		
山形県	10	0	0	0	0	10																																																																																																		
新潟県	0	10	0	0	0	10																																																																																																		
石川県	11	0	8	0	0	19																																																																																																		
山梨県	4	2	5	0	0	11																																																																																																		
長野県	6	4	1	0	0	11																																																																																																		
岐阜県	10	7	9	3	3	29																																																																																																		
三重県	10	5	4	3	3	22																																																																																																		
徳島県	0	0	7	0	0	7																																																																																																		
佐賀県	7	0	0	0	0	7																																																																																																		
鹿児島県	0	11	0	0	0	11																																																																																																		
沖縄県	5	8	7	7	0	20																																																																																																		
計	63	47	41	6	6	157																																																																																																		
			59	<ul style="list-style-type: none"> 看護師・その他医療従事者等の実習・アルバイト研修等の受入れを推進する。 	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ（30年度末）（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>総合</td><td>30</td><td>230</td><td>10</td><td>236</td><td>254</td><td>760</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>236</td><td>12</td><td>259</td></tr> <tr><td>こども</td><td>32</td><td>27</td><td>1</td><td>273</td><td>14</td><td>347</td></tr> <tr><td>計</td><td>71</td><td>258</td><td>12</td><td>745</td><td>280</td><td>1,366</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 第2期中期目標期間（H26～30） 総合では、学生用電子カルテ、デスク等実習環境を整備し、「急性期だからこそ」の看護、実習を通して、学生が魅力を感じる医療現場となるよう対応した。 こころでは、多くの実習生を受け入れ、精神科病院における看護のやりがい等を伝えた。 こども病院では、H29年度に看護師確保用DVDをリニューアルし県内看護学校へ配付するなど、実習生の受入増進に活用している。 <p>A</p> <p>研修の受入に関しては、実習生の要請に応じた魅力的な研修体制を構築した。</p>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	30	230	10	236	254	760	こころ	9	1	1	236	12	259	こども	32	27	1	273	14	347	計	71	258	12	745	280	1,366																																																																
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																																																																		
総合	30	230	10	236	254	760																																																																																																		
こころ	9	1	1	236	12	259																																																																																																		
こども	32	27	1	273	14	347																																																																																																		
計	71	258	12	745	280	1,366																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価
<p>(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>医師の卒後臨床研修や専門研修の受入れ体制の充実・強化を図り、優秀な医師の確保及び育成に努めること。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。</p>	<p>(1)医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>県立病院が核となり、特色のある研修プログラムの開発とその推進体制を強化し、研修医にוות魅力あるプログラムを提供する。また、県立総合病院のメデイカルスキルアップセンターの活用や、県立子ども病院のワーキングセンター整備を行い、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努めるとともに、実習生の受入れや職員のパイプラインの医療機関との交流を進める。</p>	<p>I 2 (1)</p> <p>医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の向上</p> <p>②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実</p> <p>③県立総合病院メデイカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数救病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施</p> <p>④県立子ども病院ラーニングセンターの運用</p> <p>⑤国際交流の推進</p> <p>⑥認定看護師等の資格取得への支援</p> <p>⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供</p> <p>⑧コメディカル・事務職員の研修</p>	<p>60</p> <p>○医師</p> <p>①②・医師の技術力の向上を目指すし、海外研修等を奨励する。</p> <p>①②・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。</p>	<p>③・メデイカルの活用を促す。</p> <p>③・メデイカルの活用を促す。</p>	<p>医師の卒後臨床研修の充実・強化等</p> <p>①研修医に選ばれた良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の向上</p> <p>②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実</p> <p>③県立総合病院メデイカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数救病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施</p> <p>④県立子ども病院ラーニングセンターの運用</p> <p>⑤国際交流の推進</p> <p>⑥認定看護師等の資格取得への支援</p> <p>⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供</p> <p>⑧コメディカル・事務職員の研修</p>	<p>30年度実績 自己評価</p> <p>説明</p>
			<p>61</p>	<p>総合</p>	<p>③・メデイカルの活用を促す。</p> <p>③・メデイカルの活用を促す。</p>	<p>医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。</p> <p>A-</p> <p>H29年度の先端医学棟の開棟に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転した。設備や機器の更なる充実を行い、医療スタッフや学生の高度なトレーニングや講習が可能となった。</p> <p>A</p>

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明																																												
			62	④ラーニングセンターの運用手順を定め、活用を促進を図る。	<p>後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確立の実習等を利用している。</p> <p>H30年度にラーニングセンター運営検討部会を5度開催し、利用実態の詳細な把握や今後の有効な活用方法について検討した。</p>	A-	医師や看護師を対象とした研修で活用している。 <p>より効果的な運用のため、H30年度からラーニングセンター運営検討部会を立ち上げ、検討を進めた。</p>																																												
			63	⑤・海外との視察等への受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="5">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>65</td> <td>36</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>58</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <p>・友好協力協定を締結している中国浙江省の4医院から研修生13人（うち医師12人）を受け入れている。</p> <p>・浙江大学医学院附属邵逸夫医院5人、浙江省人民医院2人、浙江大学医学院附属第一医院、第二、第四医院、浙江省同德医院、浙江中医药大学附属第一医院 それぞれ1人</p> <p>・浙江省からの研修受入れをH23年度から実施しており、延べ78人（うち医師54人）の研修生を受入れている。</p> <p>・H30年11月に下記の締結を行った。</p> <p>研究友好協力に係る協定：浙江省衛生健康委員会 研究友好協力に係る覚書：浙江大学医学院附属邵逸夫医院、浙江大学医学院附属第四医院</p>			(単位：人)							25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	視察・講演等派遣	16	9	13	53	54	60	視察・研修等受入	65	36	39	44	58	51	A	先端医学棟の開棟に伴い、海外からの視察等の受け入れ体制を強化し、中国を始めとした海外との国際交流を積極的に実施し、国際交流の推進を図った。															
		(単位：人)																																																	
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																												
視察・講演等派遣	16	9	13	53	54	60																																													
視察・研修等受入	65	36	39	44	58	51																																													
				⑥・看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。	<p>・H22年度に開始したシドニー・ウエズメッド小児病院での研修に今年度も当院の医師1人を派遣した。</p> <p>・H29年11月に友好協定を締結した浙江大学医学院附属兒童医院からH30年10月に研修医3名の受入れを行った。また、11月には当院からも2名の医師を派遣し、研修を行った。</p> <p>・H30年5月に院長を始めとした当院訪問団が中国の深セン市兒童医院进行訪問し、交流のための覚書を締結した。H30年11月～12月に看護師1名を受入れた。</p>	A	ウエズメッド小児病院との交流は、海外における最先端の医療技術を学ぶ良い機会となっている。 <p>浙江大学医学院附属兒童医院等と互いに医師・看護師の研修派遣を行うなど積極的な交流を行っている。</p>																																												
			64	⑥・認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することと、資格取得者の増員を図る。	<p>主な医療職種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">職種</th> <th rowspan="2">人数</th> <th colspan="2">専門・認定領域</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>3</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護</td> <td>緩和ケア、集中ケア、透析看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>16</td> <td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護</td> <td>がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>41</td> <td>指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門抗腫瘍学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定</td> <td>がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導</td> </tr> <tr> <td>理学療法士</td> <td>7</td> <td>専門理学療法士（運動器、呼吸器、内臓障害）、日本リハビリテーション指導士</td> <td></td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>18</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10</td> <td>糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">人数</th> <th colspan="2">専門・認定領域</th> </tr> <tr> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定看護師</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域		人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護	緩和ケア、集中ケア、透析看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護	がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護	薬剤師	41	指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門抗腫瘍学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定	がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導	理学療法士	7	専門理学療法士（運動器、呼吸器、内臓障害）、日本リハビリテーション指導士		放射線技師	18	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影		その他	10	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師		区分	人数	専門・認定領域		人数	専門・認定領域	認定看護師	7	7	精神科	認定看護師	1	1	感染管理	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織を構造的に活動することができた。また、認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することと、資格取得者の増員を図った。
職種	人数	専門・認定領域																																																	
		人数	専門・認定領域																																																
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護、慢性期疾患看護	緩和ケア、集中ケア、透析看護																																																
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、透析看護	がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、精神看護、慢性期呼吸器疾患、認知症看護																																																
薬剤師	41	指導薬剤師、日本医療学会認定、がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門認定実務実習指導、認定CRC、妊婦・授乳婦薬剤療法、栄養サポートチーム専門抗腫瘍学療法認定、禁煙認定専門、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定	がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導																																																
理学療法士	7	専門理学療法士（運動器、呼吸器、内臓障害）、日本リハビリテーション指導士																																																	
放射線技師	18	放射線治療専門、放射線治療品質管理、PET認定、救急撮影																																																	
その他	10	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師																																																	
区分	人数	専門・認定領域																																																	
		人数	専門・認定領域																																																
認定看護師	7	7	精神科																																																
認定看護師	1	1	感染管理																																																
				認定看護師	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">専門・認定領域</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名</td> </tr> </tbody> </table>			専門・認定領域		区分	人数	人数	専門・認定領域	専門看護師	1	1	小児看護	認定看護師	12	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名																														
		専門・認定領域																																																	
区分	人数	人数	専門・認定領域																																																
専門看護師	1	1	小児看護																																																
認定看護師	12	12	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護2名、手術室看護1名、精神看護1名																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明																																																																																																																						
			68	②・医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	<p>補助職員の配置状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>31</td> <td>50</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>73</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>71</td> <td>88</td> <td>81</td> <td>80</td> <td>74</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>118</td> <td>156</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>165</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>42</td> <td>41</td> <td>44</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>医師事務補助</td> <td>50</td> <td>69</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>93</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>100</td> <td>117</td> <td>110</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>コフ/加助手</td> <td>22</td> <td>24</td> <td>24</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>172</td> <td>210</td> <td>209</td> <td>221</td> <td>222</td> <td>223</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医師事務補助	31	50	55	66	73	73	看護助手	71	88	81	80	74	73	コフ/加助手	16	18	17	18	18	19	小計	118	156	153	164	165	165	医師事務補助	1	1	2	2	2	2	看護助手	9	10	8	8	9	8	コフ/加助手	2	2	2	2	2	2	小計	12	13	12	12	13	12	医師事務補助	18	18	18	18	18	19	看護助手	20	19	21	22	21	21	コフ/加助手	4	4	5	5	5	5	小計	42	41	44	45	44	45	医師事務補助	50	69	75	86	93	94	看護助手	100	117	110	110	104	103	コフ/加助手	22	24	24	25	25	26	小計	172	210	209	221	222	223	<p>医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。</p> <p>総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増やし、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。</p> <p>また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																							
医師事務補助	31	50	55	66	73	73																																																																																																																							
看護助手	71	88	81	80	74	73																																																																																																																							
コフ/加助手	16	18	17	18	18	19																																																																																																																							
小計	118	156	153	164	165	165																																																																																																																							
医師事務補助	1	1	2	2	2	2																																																																																																																							
看護助手	9	10	8	8	9	8																																																																																																																							
コフ/加助手	2	2	2	2	2	2																																																																																																																							
小計	12	13	12	12	13	12																																																																																																																							
医師事務補助	18	18	18	18	18	19																																																																																																																							
看護助手	20	19	21	22	21	21																																																																																																																							
コフ/加助手	4	4	5	5	5	5																																																																																																																							
小計	42	41	44	45	44	45																																																																																																																							
医師事務補助	50	69	75	86	93	94																																																																																																																							
看護助手	100	117	110	110	104	103																																																																																																																							
コフ/加助手	22	24	24	25	25	26																																																																																																																							
小計	172	210	209	221	222	223																																																																																																																							
			69	③・全職員を対象とした人事評価制度の試行を円滑に実施する。	<p>・H30実績</p> <p>・県に準拠した人事評価制度を導入することを職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>・H26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。</p> <p>・試行対象職員 看護師監督者層 (看護部長、副看護部長、看護部長、副看護部長)</p> <p>・H27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。</p> <p>・H28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。</p>	<p>勤務評価制度の試行については、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。</p> <p>県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。</p>																																																																																																																							
			70	④・就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	<p>・H30</p> <p>総合病院では、医師の就労環境の改善のため、ドクターズクラブをH30年8月にオープンした。H29年～30年には、医師確保対策を更に推進するため医師宿舎新規建設工事が着工され、H30年12月から運用を開始した。院内保育所では、保育所運営協議会にて、事務局、委託先、利用者間で意見交換を行った。</p> <p>子ども病院院内保育所の建設工事については、H31年3月に竣工した。</p> <p>総合・子ども病院ともに、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を11、12月に実施した。</p> <p>・第2期中期目標期間(H26～30)</p> <p>総合病院では宿舎の大規模修繕(H26.27)、新看護師宿舎の建設(H27)を行い、院内保育所では、土曜日の保育時間延長(H26.10～)や、入所者へのインフルエンザ予防接種(H26～)を行った。</p> <p>こころの医療センターでは、H29年度から看護師宿舎の有効活用のため、総合病院看護師の同居希望者受入を開始している。</p> <p>子ども病院では、研修医宿舎(F棟)の改修(H28)、院内保育所の建設工事(H30)を行った。</p>	<p>総合病院では、平成30年12月から医師宿舎(東大岩荘)の運用を開始した。子ども病院院内保育所建設工事を竣工し、院内施設の充実を図っている。こころでは、資産の有効活用への取り組みを開始した。</p> <p>引き続き、就労環境の向上に取り組みしていく。</p>																																																																																																																							
			71	⑤・院内保育所建替え工事を実施し運営方針を策定する。	<p>H30年9月に建設に着工し、H30年度3月に竣工した。</p> <p>また、保育所運営協議会において、事務局と利用者による意見交換を行い運営方針を決定した。</p>	<p>運営方針を決定し、計画を着実に進め、新保育所を竣工し、医師等職員がより働きやすい環境を整備した。</p>																																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価 説明																																																																																												
<p>(3)知識や技術の普及 県内の医療従事者の質の向上を図るため、県立病院が培った知識や技術を積極的に普及させること。また、医療従事者の養成に協力すること。</p>	<p>(3)知識や技術の普及 医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制を維持するとともに、院内研修等教育研修機能を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。</p>	<p>I 2 (3)</p> <p>知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放</p>	<p>72</p>	<p>①・研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。</p>	<p>•H30実績 医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。 •第2期中期目標期間(H26～30) •研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。 •医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会へ参加した。</p> <table border="1" data-bbox="493 816 913 1394"> <tr> <td colspan="2">(総合) 海外研修の実績 (H30年度末)</td> <td>(単位:人)</td> </tr> <tr> <td>内 容</td> <td></td> <td>人数</td> </tr> <tr> <td>日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>欧州スポンジ外科・膝外科</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際超音波内視鏡手術大会</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Cochlear Japan Surgeons' Workshop</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>欧州腎臓学会・透析移植学会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>米国胸部疾患学会</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>中国透析血管通路経江フオーラム</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>アジアンスパイナル</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際磁気共鳴医学会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際肝胆膵外科学会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>欧州皮膚科学・性病学会学術大会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>欧州呼吸器科学会国際会議</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>心臓血管カテーテル学会議</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>欧州糖尿病学会</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>31th EACTS Annual Meeting</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>ASN Kindney Week 2018</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋呼吸器学会国際大会2018</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>AHS-RESS</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>2018 SNA Annual Meeting</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際内分泌学会</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>アジア心臓血管胸部外科学会</td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>臨床研修医 UCLA 研修</td> <td></td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>47</td> </tr> </table> <p>学会発表実績 (国内外) (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="924 816 997 1394"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>発表数</td> <td>412</td> <td>460</td> <td>472</td> <td>578</td> <td>600</td> <td>596</td> </tr> </table>	(総合) 海外研修の実績 (H30年度末)		(単位:人)	内 容		人数	日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議		1	欧州スポンジ外科・膝外科		1	国際超音波内視鏡手術大会		2	Cochlear Japan Surgeons' Workshop		1	欧州腎臓学会・透析移植学会		1	米国胸部疾患学会		3	中国透析血管通路経江フオーラム		2	アジアンスパイナル		1	国際磁気共鳴医学会		1	オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会		1	国際肝胆膵外科学会		1	欧州皮膚科学・性病学会学術大会		1	欧州呼吸器科学会国際会議		2	心臓血管カテーテル学会議		1	欧州糖尿病学会		1	31th EACTS Annual Meeting		2	ASN Kindney Week 2018		1	アジア太平洋呼吸器学会国際大会2018		3	AHS-RESS		2	2018 SNA Annual Meeting		1	国際内分泌学会		2	アジア心臓血管胸部外科学会		2	臨床研修医 UCLA 研修		14	計		47	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	発表数	412	460	472	578	600	596	<p>A 医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加し、研究発表を行った。</p>
(総合) 海外研修の実績 (H30年度末)		(単位:人)																																																																																																
内 容		人数																																																																																																
日韓耳鼻咽喉科頭頸部外科合同会議		1																																																																																																
欧州スポンジ外科・膝外科		1																																																																																																
国際超音波内視鏡手術大会		2																																																																																																
Cochlear Japan Surgeons' Workshop		1																																																																																																
欧州腎臓学会・透析移植学会		1																																																																																																
米国胸部疾患学会		3																																																																																																
中国透析血管通路経江フオーラム		2																																																																																																
アジアンスパイナル		1																																																																																																
国際磁気共鳴医学会		1																																																																																																
オーストラリア・ニュージーランド集中治療学会		1																																																																																																
国際肝胆膵外科学会		1																																																																																																
欧州皮膚科学・性病学会学術大会		1																																																																																																
欧州呼吸器科学会国際会議		2																																																																																																
心臓血管カテーテル学会議		1																																																																																																
欧州糖尿病学会		1																																																																																																
31th EACTS Annual Meeting		2																																																																																																
ASN Kindney Week 2018		1																																																																																																
アジア太平洋呼吸器学会国際大会2018		3																																																																																																
AHS-RESS		2																																																																																																
2018 SNA Annual Meeting		1																																																																																																
国際内分泌学会		2																																																																																																
アジア心臓血管胸部外科学会		2																																																																																																
臨床研修医 UCLA 研修		14																																																																																																
計		47																																																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																												
発表数	412	460	472	578	600	596																																																																																												
				<p>こころ</p>	<p>学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1039 816 1113 1394"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>学会発表件数</td> <td>22</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	学会発表件数	22	3	8	10	10	10	<p>A 学会や研修会等へ積極的に参加し、研究発表を行っている。</p>																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																												
学会発表件数	22	3	8	10	10	10																																																																																												
				<p>こども</p>	<p>研究研修費を活用し、職員が積極的に学会や研修会等に参加した。</p> <p>学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1" data-bbox="1218 816 1291 1394"> <tr> <td>区分</td> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>30年度</td> </tr> <tr> <td>事業件数</td> <td>451</td> <td>466</td> <td>468</td> <td>496</td> <td>396</td> <td>455</td> </tr> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	事業件数	451	466	468	496	396	455	<p>A 各職員が学会や研修会等に参加して知識や技術を習得することで、病院全体のレベルアップに寄与した。</p>																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																												
事業件数	451	466	468	496	396	455																																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価																																																																																																																																												
			73	②・院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	<p>•H30実績</p> <p>•第2期中期目標期間(H26～30)看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のリベラルアップを図る。</p> <table border="1"> <caption>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>4</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>29</td> <td>37</td> <td>16</td> <td>57</td> <td>11</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>6</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>54</td> <td>21</td> <td>68</td> <td>24</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	10	10	7	27	8	0	看護師	4	13	4	11	12	0	コメディカル	0	1	0	0	0	0	事務	14	24	11	38	20	0	計	0	0	0	0	0	0	看護師	1	0	0	0	0	0	コメディカル	0	0	0	0	0	0	事務	1	0	1	0	0	0	計	1	0	1	0	0	0	看護師	19	27	9	30	3	6	コメディカル	1	3	0	0	0	1	事務	0	0	0	0	0	0	計	20	30	9	30	4	7	本部	2	0	0	0	0	0	事務	29	37	16	57	11	6	看護師	6	16	4	11	12	1	コメディカル	2	1	0	0	0	0	事務	2	1	1	0	1	0	計	37	54	21	68	24	7	<p>A</p> <p>資格等取得助成制度は、H24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、資格取得者は増加している。</p>
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																												
総合	10	10	7	27	8	0																																																																																																																																												
看護師	4	13	4	11	12	0																																																																																																																																												
コメディカル	0	1	0	0	0	0																																																																																																																																												
事務	14	24	11	38	20	0																																																																																																																																												
計	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
看護師	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
コメディカル	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
事務	1	0	1	0	0	0																																																																																																																																												
計	1	0	1	0	0	0																																																																																																																																												
看護師	19	27	9	30	3	6																																																																																																																																												
コメディカル	1	3	0	0	0	1																																																																																																																																												
事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
計	20	30	9	30	4	7																																																																																																																																												
本部	2	0	0	0	0	0																																																																																																																																												
事務	29	37	16	57	11	6																																																																																																																																												
看護師	6	16	4	11	12	1																																																																																																																																												
コメディカル	2	1	0	0	0	0																																																																																																																																												
事務	2	1	1	0	1	0																																																																																																																																												
計	37	54	21	68	24	7																																																																																																																																												
			74	③・地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	<p>実習研修受入れ実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入数</td> <td>304</td> <td>309</td> <td>391</td> <td>434</td> <td>499</td> <td>468</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	受入数	304	309	391	434	499	468	<p>A</p> <p>看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対し、実習研修を行った。</p>																																																																																																																														
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																												
受入数	304	309	391	434	499	468																																																																																																																																												
			75	③・講演会やセミナーなどを開催する。	<p>公開講演会開催実績(医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>公開講演会開催実績(医療機関向け) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	開催件数	20	26	13	29	27	21	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	開催件数	17	19	23	15	17	13	<p>A-</p> <p>講演会、症例検討会を定期的に開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。</p> <p>A-</p> <p>実施回数は減少したが、オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応した。</p>																																																																																																																
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																												
開催件数	20	26	13	29	27	21																																																																																																																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																																																																												
開催件数	17	19	23	15	17	13																																																																																																																																												

第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画		30年度実績 自己評価																																																	
中期目標	中期計画	年度計画	行動計画																																																
第2 3 医療に関する調査及び研究 医療に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上を図ること。	第2 3 医療に関する調査及び研究 県内医療水準の向上に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に努める。また、診療録の電子化等の医療情報基盤の整備・充実強化に努める。	1 3	-																																																
(1)研究機能の強化 臨床研究機能の強化に取り組むこと。また、富士山麓先端健康産業集積(フアルマハレーブ)プロジェクトなど、治験や産学官との連携による研究開発に取り組むこと。	(1)研究機能の強化 生活習慣病や遺伝子診療、脳科学等の臨床研究を行うことのできる環境の整備及び研究支援体制の充実を図る。また、治験や調査研究事業に積極的に参画できるよう引き続き体制を整備する。さらに、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	1 3 (1)	①・臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②・研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体系的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ③・研究資金となる奨学寄付金を受入れる。 ④・臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 ⑤・県立大学との共同研究を行う。																																																
			<p>①・H30実績 県が平成30年3月に策定した社会健康医学研究推進基本計画に基づき、リサーチサポートセンターを拠点に、医療ビッグデータの活用に関する研究、効果的な健康増進施策・疾病予防対策のための疫学研究、ゲノムコホート研究を3本の柱とする社会健康医学研究に着手した。また、県民の健康寿命延伸のため、研究の推進、人材の育成、成果の還元となる社会健康医学大学院大学構想における研究実施部門としての役割を担うべく、研究員の確保や機器整備等、研究体制の強化に取り組んだ。</p> <p>・第2期中期期間(H26～30) ・総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬理学教室、臨床薬効解析学教室、医薬品情報解析学教室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を整えた。 ・北館6階に、臨床医学研究センターを設置。 ・H27年度から外部委託研究員の受入を開始し、臨床研究のサポートを実施。 ・H29年度から先端医学棟5階にリサーチサポートセンターを設置。遺伝子解析、統計解析、検体の収集・保存・解析、県民の疾病分析などを行う体制を整備した。 ・リサーチサポートセンター内にきこえことばのセンター（静岡県乳幼児難聴支援センター）を設置。新生児聴覚スクリーニングのデータ収集や難聴児の言語発達の研究などを行う体制を整備した。 ・県立大学薬学部の研究室（4部屋）を循環器病センター6階から同センターに移転し、共同研究の体制を強化した。</p> <p>(単位：件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>195</td> <td>213</td> <td>233</td> <td>266</td> <td>332</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>36</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>18.5</td> <td>24.9</td> <td>19.7</td> <td>17.3</td> <td>11.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>客員研究員受入状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	研究数	195	213	233	266	332	支援研究数	36	53	46	46	38	支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	11.4	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	静岡県立大学	8	7	14	14	14	外部	-	-	4	7	9	合計	8	7	18	21	23
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																														
研究数	195	213	233	266	332																																														
支援研究数	36	53	46	46	38																																														
支援率	18.5	24.9	19.7	17.3	11.4																																														
区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																														
静岡県立大学	8	7	14	14	14																																														
外部	-	-	4	7	9																																														
合計	8	7	18	21	23																																														
				総合	A																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度実績 自己評価	説明																																																																			
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>受託者</th> <th>金額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">25年度</td> <td>アストロセラピー</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>第一三共衛東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>ロシュ・ダイアグノスティクス(株)</td> <td>3,000</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬(株)東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>大日本住友製薬(株)</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>キッセイ薬品工業(株)静岡営業所</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>5,800</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">26年度</td> <td>協和発酵キリン(株)</td> <td>1,900</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン(株)</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業(株)</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>第一三共衛東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>アストロセラピー</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,600</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">27年度</td> <td>大正高山医薬品(株)</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>協和発酵キリン(株)</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>第一三共衛東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>田辺三菱製薬(株)東海支店</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">28年度</td> <td>興和製薬(株)東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業(株)東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>小野薬品工業(株)東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>千正(株)</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">29年度</td> <td>日本ペーパードクター(株)東海支店</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>日本ペーパードクター(株)東海支店</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">30年度</td> <td>日本ペーパードクター(株)東海支店</td> <td>800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>150</td> </tr> </tbody> </table>	区分	受託者	金額 (千円)	25年度	アストロセラピー	100	第一三共衛東海支店	500	ロシュ・ダイアグノスティクス(株)	3,000	田辺三菱製薬(株)東海支店	500	大日本住友製薬(株)	300	キッセイ薬品工業(株)静岡営業所	500	合計	5,800	26年度	協和発酵キリン(株)	1,900	協和発酵キリン(株)	200	小野薬品工業(株)	1,000	第一三共衛東海支店	500	アストロセラピー	1,000	合計	4,600	27年度	大正高山医薬品(株)	500	協和発酵キリン(株)	200	第一三共衛東海支店	500	田辺三菱製薬(株)東海支店	200	合計	1,400	28年度	興和製薬(株)東海支店	500	小野薬品工業(株)東海支店	500	小野薬品工業(株)東海支店	500	千正(株)	1,000	合計	2,500	29年度	日本ペーパードクター(株)東海支店	300	日本ペーパードクター(株)東海支店	500	30年度	日本ペーパードクター(株)東海支店	800	合計	150						
区分	受託者	金額 (千円)																																																																								
25年度	アストロセラピー	100																																																																								
	第一三共衛東海支店	500																																																																								
	ロシュ・ダイアグノスティクス(株)	3,000																																																																								
	田辺三菱製薬(株)東海支店	500																																																																								
	大日本住友製薬(株)	300																																																																								
	キッセイ薬品工業(株)静岡営業所	500																																																																								
	合計	5,800																																																																								
	26年度	協和発酵キリン(株)	1,900																																																																							
		協和発酵キリン(株)	200																																																																							
		小野薬品工業(株)	1,000																																																																							
第一三共衛東海支店		500																																																																								
アストロセラピー		1,000																																																																								
合計		4,600																																																																								
27年度		大正高山医薬品(株)	500																																																																							
		協和発酵キリン(株)	200																																																																							
		第一三共衛東海支店	500																																																																							
		田辺三菱製薬(株)東海支店	200																																																																							
	合計	1,400																																																																								
28年度	興和製薬(株)東海支店	500																																																																								
	小野薬品工業(株)東海支店	500																																																																								
	小野薬品工業(株)東海支店	500																																																																								
	千正(株)	1,000																																																																								
	合計	2,500																																																																								
29年度	日本ペーパードクター(株)東海支店	300																																																																								
	日本ペーパードクター(株)東海支店	500																																																																								
30年度	日本ペーパードクター(株)東海支店	800																																																																								
	合計	150																																																																								
			77	<p>③・医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。</p>	<p>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総計</td> <td>71,394</td> <td>86,805</td> <td>90,549</td> <td>78,259</td> <td>64,062</td> <td>101,428</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>こところ</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ことども</td> <td>537</td> <td>185</td> <td>1,139</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>14</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>8,539</td> <td>7,610</td> <td>10,858</td> <td>19,656</td> <td>5,087</td> <td>14,018</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総計	71,394	86,805	90,549	78,259	64,062	101,428	件数	29	29	30	29	29	24	こところ	2	1	5	0	0	0	ことども	537	185	1,139	0	0	0	契約額	14	22	29	26	15	26	契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	14,018	A-	<ul style="list-style-type: none"> 製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行って市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。 																		
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																				
総計	71,394	86,805	90,549	78,259	64,062	101,428																																																																				
件数	29	29	30	29	29	24																																																																				
こところ	2	1	5	0	0	0																																																																				
ことども	537	185	1,139	0	0	0																																																																				
契約額	14	22	29	26	15	26																																																																				
契約額	8,539	7,610	10,858	19,656	5,087	14,018																																																																				

中期計画		30年度実績 自己評価																					
中期目標	中期計画	行動計画	業務の実績																				
<p>(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供し、医療の質の向上のために活用すること、他の医療機関へ情報提供すること。</p>	<p>診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図るなど、エビデンスを集積し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。</p>	<p>診療等の情報の活用 ① 診療情報等の分析 ② 収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用</p>	<p>30年度実績 自己評価</p> <p>説明</p>																				
	<p>1 3 (2)</p>	<p>78</p> <p>①・DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30実績 DPC部会兼コード検討委員会を4回開催した。 ・第2期中期目標期間(H26～30) ・DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が86.6% (H27年度) から92.3% (H28年度)、90.4% (H29年度) となった。 ・アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 ・H30年3月からDPC分析ソフトを変更しベンチマークデータの活用を行えるよう環境整備を行った。 <table border="1"> <caption>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>22</td> <td>26</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	開催回数	2	2	2	4	6	4	出席者数	22	26	17	32	55
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																	
開催回数	2	2	2	4	6	4																	
出席者数	22	26	17	32	55	37																	
<p>79</p> <p>①・DPCの診療情報を分析し、診療ヘフィードバックを行う。また、職員への分析にかかるとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。</p>	<p>こども</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。 <table border="1"> <caption>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位:回、人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	開催回数	2	2	2	4	4	4	出席者数	37	19	23	54	53	49
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																	
開催回数	2	2	2	4	4	4																	
出席者数	37	19	23	54	53	49																	
<p>80</p> <p>②・公立病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算)</p> <p>・【総】部門別、診療科別原価計算に取り組む。</p> <p>・【子】診療科別に経年変化を明らかにする原価計算に取り組む。</p>	<p>こども</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H26年度に導入検討を始め、H27年度には原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、H28年度から本格的な運用を開始した。運用開始後は、DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。 ・H30年度はH29年度までのデータ入力を完了し、各診療科別、年度別の経年比較のための作業を開始した。 																					
		<p>総合</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部門のデータ入力範囲を調整し、経年比較分析を行うためのデータ入力を開始した。令和元年度に平成29年度と平成30年度のデータ入力を完了させ、診療科別、年度別の経年比較を行う予定である。 																				
		<p>総合</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年1月に原価計算システムを導入し、H30年10月にシステム事業者との最終調整を行った。 ・各部門のデータ入力範囲を調整し、経年比較分析を行うためのデータ入力を開始した。 																				
		<p>こども</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原価計算システムの導入により、診療科別の損益を計算することが可能となった。 ・経年比較により収支状況を把握し、内容の検討を開始した。 																				

中期計画		30年度実績 自己評価																																																																																																	
中期目標	中期計画	行動計画	業務の実績																																																																																																
No.	年度計画		説明																																																																																																
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談などを 通じて調査及び研究の成果を県 民へ情報発信し、県民の健康意 識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相 談会等を開催するとともに、ホ ムページ等で健康管理・増進な どについての情報を提供するな ど、様々な方法で県民への情報 提供を進める。	<p>81</p> <p>①・県民向け・医療機関向け の公開講座等を開催する。</p>	<p>各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>実施件数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>県民向け 参加者</td> <td>494</td> <td>416</td> <td>682</td> <td>495</td> <td>712</td> <td>524</td> </tr> <tr> <td>医療機 関</td> <td>20</td> <td>26</td> <td>13</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>実施件数</td> <td>1,075</td> <td>626</td> <td>755</td> <td>1,765</td> <td>1,691</td> <td>1,193</td> </tr> <tr> <td>県民向け 参加者</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療機 関</td> <td>357</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>実施件数</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>県民向け 参加者</td> <td>0</td> <td>96</td> <td>104</td> <td>81</td> <td>485</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>医療機 関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>実施件数</td> <td>52</td> <td>131</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>149</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>県民向け 参加者</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>医療機 関</td> <td>738</td> <td>1,111</td> <td>1,228</td> <td>906</td> <td>799</td> <td>698</td> </tr> </tbody> </table> <p>A-</p> <p>公開講座の開催を通じて、県民・県内 医療機関に対して、最新医療に関する情 報提供を行うことができた。また、同時 に、機構の取組みについてもPRするこ とができた。</p>	病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	総合	実施件数	6	6	6	4	10	6	県民向け 参加者	494	416	682	495	712	524	医療機 関	20	26	13	29	27	21	こころ	実施件数	1,075	626	755	1,765	1,691	1,193	県民向け 参加者	3	1	1	2	2	2	医療機 関	357	15	9	6	8	28	こども	実施件数	0	4	2	3	5	3	県民向け 参加者	0	96	104	81	485	88	医療機 関	2	2	2	2	3	3	こども	実施件数	52	131	124	116	149	195	県民向け 参加者	17	19	23	15	17	13	医療機 関	738	1,111	1,228	906	799	698
病院	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																												
総合	実施件数	6	6	6	4	10	6																																																																																												
	県民向け 参加者	494	416	682	495	712	524																																																																																												
	医療機 関	20	26	13	29	27	21																																																																																												
こころ	実施件数	1,075	626	755	1,765	1,691	1,193																																																																																												
	県民向け 参加者	3	1	1	2	2	2																																																																																												
	医療機 関	357	15	9	6	8	28																																																																																												
こども	実施件数	0	4	2	3	5	3																																																																																												
	県民向け 参加者	0	96	104	81	485	88																																																																																												
	医療機 関	2	2	2	2	3	3																																																																																												
こども	実施件数	52	131	124	116	149	195																																																																																												
	県民向け 参加者	17	19	23	15	17	13																																																																																												
	医療機 関	738	1,111	1,228	906	799	698																																																																																												
(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相 談会等を開催するとともに、ホ ムページ等で健康管理・増進な どについての情報を提供するな ど、様々な方法で県民への情報 提供を進める。	<p>82</p> <p>①【総/子】・県民向けイベン トの開催や参加に努める。</p>	<p>総合</p> <p>①・H30 10月13日(土)にオープンホスピタルを開催した。 来場者約1,200人</p> <p>②第2期中期目標期間(H26~30) ・静岡県立総合病院の機能、設備、職員の姿を知ってもらおうことにより、県民に開かれた 病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらおうことを目的として、県民 向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 H29年8月5日 来場者約1,400名 ・県民の日に合わせ、「県民の日講演会」を8/20に開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">オープンホスピタル来場者数</th> <th colspan="4">(単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>900</td> <td>-</td> <td>1,000</td> <td>1,200</td> <td>1,400</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり in ツインメッ セ」に2日間参加し、健康相談及びこどもの医師・ナース服の着用体験のブースを出展 した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">こどもみらいプロジェクト来場者数</th> <th colspan="4">(単位：組、人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康相談</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>写真撮影</td> <td>1,052</td> <td>875</td> <td>859</td> <td>1,288</td> <td>957</td> <td>1,064</td> </tr> </tbody> </table> <p>A</p> <p>県民向けイベントへ参加し、多くの来 場者に当院をPRすることができた。ま た、情報提供も着実に推進している。</p>	オープンホスピタル来場者数		(単位：人)				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,200	こどもみらいプロジェクト来場者数		(単位：組、人)				区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	健康相談	28	6	10	17	22	10	写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	1,064																																																		
オープンホスピタル来場者数		(単位：人)																																																																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																													
来場者数	900	-	1,000	1,200	1,400	1,200																																																																																													
こどもみらいプロジェクト来場者数		(単位：組、人)																																																																																																	
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																																													
健康相談	28	6	10	17	22	10																																																																																													
写真撮影	1,052	875	859	1,288	957	1,064																																																																																													

中期計画		30年度実績 自己評価																																														
中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	説明																																										
			83	<p>②・県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。</p>	<p>・H30実績 機構全体のトピックスやプレスリリース、総合病院北立体駐車場の最新情報等を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 各病院の医療情報やトピックス、入札情報や採用情報等を適時更新するなど、ホームページの活用を図った。</p> <p>H27年1月には、機構及び3病院のホームページをリニューアルした結果アクセス数も伸び、機構のホームページに繋がった。（H28からの実績は、アクセス数を管理するサイトの仕様変更があった。）H29年には、先端医学棟についての最新情報を適時更新するなど、積極的に情報発信を行った。</p> <table border="1"> <caption>セクション別アクセス件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>291,958</td> <td>316,047</td> <td>271,467</td> <td>214,412</td> <td>218,435</td> <td>226,519</td> </tr> <tr> <td>総合病院</td> <td>1,582,445</td> <td>1,742,978</td> <td>1,935,315</td> <td>1,864,780</td> <td>2,017,729</td> <td>2,322,348</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>275,237</td> <td>285,800</td> <td>279,546</td> <td>269,084</td> <td>275,298</td> <td>376,258</td> </tr> <tr> <td>ども</td> <td>1,518,204</td> <td>1,510,609</td> <td>1,519,362</td> <td>1,452,729</td> <td>1,551,263</td> <td>1,690,943</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,667,844</td> <td>3,855,434</td> <td>4,005,690</td> <td>3,801,005</td> <td>4,062,725</td> <td>4,616,068</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	226,519	総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,322,348	ところ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	376,258	ども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,690,943	合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,616,068	<p>総合病院北立体駐車場の最新情報やトピックスの更新など、積極的にホームページの活用を図ることが出来た。その結果アクセス数も増加しているのので、引き続き積極的に情報発信に努める。</p> <p>このころの医療センターでは、医師採用募集の動向を掲載したり、定期的な情報更新を推進したこと、H29年度275,298件からH30年度376,258件に延びた。</p>
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
本部	291,958	316,047	271,467	214,412	218,435	226,519																																										
総合病院	1,582,445	1,742,978	1,935,315	1,864,780	2,017,729	2,322,348																																										
ところ	275,237	285,800	279,546	269,084	275,298	376,258																																										
ども	1,518,204	1,510,609	1,519,362	1,452,729	1,551,263	1,690,943																																										
合計	3,667,844	3,855,434	4,005,690	3,801,005	4,062,725	4,616,068																																										
			84	<p>③・県民に病院の運営にかかわる情報を戦略的に広報するたため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。</p>	<p>最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。</p> <p>H28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。</p> <table border="1"> <caption>記者情報提供件数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>46</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	提供件数	46	40	41	48	47	43	掲載件数	27	25	27	31	36	30	<p>県政記者クラブへの情報提供について、各病院の実績を共有ファイル管理するとともに標準化を行い、記者提供が正確に行われるようになった。</p> <p>提供件数は高い水準を保っており、情報提供についての意識向上に繋がっている。</p>																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																										
提供件数	46	40	41	48	47	43																																										
掲載件数	27	25	27	31	36	30																																										

第1 県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画		30年度実績 自己評価																															
中期計画	中期計画	行動計画	業務の実績																														
第2	第2	No.																															
4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院となるよう努めること。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心となるため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	-	-																														
(1)本県の医師確保対策における役割 県立病院として、より多くの医師を確保し、医師不足の公的医療機関への派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。	(1)本県の医師確保対策への取組 県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。	85	<p>総合</p> <p>①・地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。</p> <p>※H29までは後期研修医の派遣も含まれている。H30からは小児科専攻医制度の制度変更に伴い、退職扱いの派遣となった。(H29まではH30実績は932人となる)</p> <p>静岡県立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区</th> <th>分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">医療機関等</td> <td>医療機関</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td>662</td> <td>958</td> <td>1078</td> <td>803</td> <td>202</td> </tr> </tbody> </table>	区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医療機関等	医療機関	6	4	7	6	7	5	診療科	2	1	2	2	2	2	延人員数	662	662	958	1078	803	202
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																										
医療機関等	医療機関	6	4	7	6	7	5																										
	診療科	2	1	2	2	2	2																										
	延人員数	662	662	958	1078	803	202																										
4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心となるため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心となるため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	86	<p>小児科</p> <p>①・小児1次救急医療への応援を行う。</p> <p>静岡県立静岡病院、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、松ヶ丘病院、川根本町いやしの里診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区</th> <th>分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">医療機関等</td> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>304</td> <td>313</td> <td>292</td> <td>295</td> <td>294</td> <td>218</td> </tr> </tbody> </table>	区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医療機関等	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	304	313	292	295	294	218
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																										
医療機関等	医療機関	2	2	2	2	2	2																										
	診療科	2	2	2	2	2	2																										
	延人員数	304	313	292	295	294	218																										
4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心となるため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心となるため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	87	<p>総合</p> <p>②・各科医師定数を見直し、静岡県内の地域医療を支援していただくために必要な医師数の検討を進める。</p> <p>他院や各医局と連携し、地域医療に必要となる医師の確保に努めた。富士宮市立、静岡市立清水病院、佐久間病院、JA厚生連清水厚生病院、志太榛原地域救急医療センター、松ヶ丘病院、川根本町いやしの里診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。</p> <table border="1"> <caption>医師派遣実績 (単位:機関、科、人)</caption> <thead> <tr> <th>区</th> <th>分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">医療機関等</td> <td>医療機関</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>616</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> <td>577</td> <td>513</td> </tr> </tbody> </table>	区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医療機関等	医療機関	10	11	10	10	9	8	診療科	11	12	9	6	9	9	延人員数	616	701	775	570	577	513
区	分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																										
医療機関等	医療機関	10	11	10	10	9	8																										
	診療科	11	12	9	6	9	9																										
	延人員数	616	701	775	570	577	513																										

中期計画		30年度実績 自己評価																						
中期目標	中期計画	年度計画	行動計画																					
No.	No.	業務の実績	説明																					
88	<p>③・ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。</p>	<p>・H30実績 『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学研修修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30） 主な業務である静岡県医学研修修資金貸与者の配置調整においては、H25年の受託開始からこれまで、当機構が配置調整を担当する医師数は着実に増加しており、うち県内に勤務を開始する医師数も年々増加している。</p> <table border="1"> <caption>配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）（単位：名）</caption> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>34</td> <td>64</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>22</td> <td>41</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	配置調整医師数	6	12	14	34	64	64	うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39	<p>A</p> <p>業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。</p>
勤務開始年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																		
配置調整医師数	6	12	14	34	64	64																		
うち県内勤務医師数	4	6	10	22	41	39																		
89	<p>④・専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。</p>	<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30実績 ・修正を含め、9領域においてプログラムの申請を行い、全領域において「日本専門医機構」の審査を受け、合格した。 ・院内外研修医、学生に向けて、プログラム説明会を4回開催し、専門研修プログラムの魅力を発信した。 ・ホームページの広報など、積極的に募集に向けて準備を行っている。 ・H31年度プログラム説明会開催に向けて準備を行った。 <p>こころ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度開始の新専門医制度による専攻医1人を受け入れた。 ・医師確保のための動画を作成しホームページに掲載した。又、説明会では希望者にDVDを配布するなど周知を図った。 ・H31年度プログラムを日本専門医機構に提出した。 <p>こども</p> <p>H29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹施設として、新制度に則った研修を実施している。 H30年度は、当院プログラムの積極的な周知を行い、小児科プログラム説明会への参加者がH29年度の12名から15名に増加するなど専攻医の確保に努めた。</p>	<p>A</p> <p>救急科、耳鼻咽喉科領域において、プログラムの新規申請を行い、専攻医の受け入れ枠を増やした。専攻医確保に向けて、プログラム説明会を実施、自作のPR動画を発信するなど、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。</p> <p>A</p> <p>H30年度開始の新専門医制度プログラムの運用するための体制を整え、専攻医の募集及び受け入れを行った。 新制度による研修医受入体制により1名採用した。</p> <p>A-</p> <p>新制度による研修受入体制は整備しているが、H30年度は定員8名のところ、3名の採用に留まった。 H31年度に向けた専攻医確保のため、当院プログラムの内容の再検討と周知を継続する。</p>																					

中期計画		30年度実績 自己評価																																				
中期目標	中期計画	業務の実績	説明																																			
(2) 地域医療への支援 高度医療機器の共同利用の促進、他の医療機関等との医療情報ネットワーク化など、地域医療との連携を進め、地域医療の確保への支援を行うこと。	(2) 地域医療への支援 情報通信技術を活用した医療連携や遠隔診断のネットワークづくりを進める。また、高度医療機器などの共同利用など、県立病院の施設や設備について地域への開放を進める。	地域医療への支援 ① PETイメージング・センター、CT、MRI等の共同利用の推進 ② IT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援を図る。	PETイメージングセンター共同利用 (単位：件・%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,235</td> <td>3,758</td> <td>3,823</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>1,429</td> <td>905</td> <td>884</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>40</td> <td>39.7</td> <td>38.5</td> <td>33.7</td> <td>24.1</td> <td>21.8</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>10</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>168</td> <td>139</td> <td>161</td> </tr> </tbody> </table> H30 新規健診契約施設：1 H29 新規健診契約施設：18 (静岡済生会病院など) H22年度から従来の紹介・逆紹介の方法に加えて、撮影のみ総合病院で行う共同利用方法をスタートさせている。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	3,758	3,823	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	905	884	共同利用率	40	39.7	38.5	33.7	24.1	21.8	健診件数	10	165	155	168	139	161
	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																															
	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	3,758	3,823																															
共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	905	884																																
共同利用率	40	39.7	38.5	33.7	24.1	21.8																																
健診件数	10	165	155	168	139	161																																
I 4 (2)	① 地域医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	総合 ①・地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>833</td> <td>762</td> <td>815</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>896</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>626</td> <td>591</td> <td>645</td> <td>621</td> <td>543</td> <td>586</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>107</td> <td>133</td> <td>132</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> H30実績 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、富士市立中央病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	CT	833	762	815	919	847	896	MRI	626	591	645	621	543	586	CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	1	MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	24	H30年5月から共同利用件数が最も多いてんかんセンターにおいて、3テスラのMRI機器が新設されたが、共同利用件数はCT・MRIともに前年度より微増となった。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																
CT	833	762	815	919	847	896																																
MRI	626	591	645	621	543	586																																
CT(撮影のみ)	8	7	1	6	2	1																																
MRI(撮影のみ)	107	133	132	129	131	24																																
		総合 ②・ふじのくにねつとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバルチャール・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続けている。 補助金を活用し、富士市立中央病院、焼津市立総合病院、静岡済生会総合病院、市立御前崎総合病院のシステム更新を実施した。																																			
		90	A-																																			
		91	A-																																			
		92	A																																			
		93	A																																			

30年度実績 自己評価		業務の実績		30年度実績 自己評価																																																																							
説明																																																																											
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>(3)社会的な要請への協力 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していく。</p>	<p>中期計画</p>	<p>年度計画</p>	<p>No.</p>	<p>行動計画</p>																																																																						
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>94</p>	<p>①・院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。</p>	<p>総合</p>	<p>拡大キャンペーン実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>院内</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>153</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>261</td> <td>172</td> <td>138</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>237</td> <td>228</td> <td>422</td> <td>332</td> <td>281</td> <td>356</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	回数	5回	5回	6回	6回	6回	6回	院内	-	-	161	160	153	194	院外	-	-	261	172	138	162	参加人数	237	228	422	332	281	356																																			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
回数	5回	5回	6回	6回	6回	6回																																																																					
院内	-	-	161	160	153	194																																																																					
院外	-	-	261	172	138	162																																																																					
参加人数	237	228	422	332	281	356																																																																					
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>95</p>	<p>①・他団体の講師派遣依頼に協力する。</p>	<p>総合</p>	<p>講師派遣実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>51</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>62</td> <td>72</td> <td>36</td> <td>4</td> <td>31</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>145</td> <td>94</td> <td>66</td> <td>82</td> <td>107</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	医師	68	73	58	62	51	67	その他	62	72	36	4	31	40	計	130	145	94	66	82	107																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
医師	68	73	58	62	51	67																																																																					
その他	62	72	36	4	31	40																																																																					
計	130	145	94	66	82	107																																																																					
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>96</p>	<p>①・他団体が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。</p>	<p>こころ</p>	<p>院外講演会講師派遣状況(医師)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>院外講演会講師派遣状況(看護師)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	派遣回数	17	25	30	18	18	21	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	派遣回数	24	30	22	32	28	26																																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
派遣回数	17	25	30	18	18	21																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
派遣回数	24	30	22	32	28	26																																																																					
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>97</p>	<p>①・医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。</p>	<p>こころ</p>	<p>・H30実績 医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。</p> <p>医療観察法による鑑定院受入実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	こころ	6	10	7	9	12	4																																																								
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
こころ	6	10	7	9	12	4																																																																					
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>98</p>	<p>①・特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。</p>	<p>こども</p>	<p>精神科連携等実施実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科連携</td> <td>153人</td> <td>196人</td> <td>160人</td> <td>135人</td> <td>156人</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>児童相談所</td> <td>5回</td> <td>16回</td> <td>5回</td> <td>27回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>小児慢性特定疾病</td> <td>135人</td> <td>100人</td> <td>172人</td> <td>181人</td> <td>176人</td> <td>182人</td> </tr> <tr> <td>児童福祉法</td> <td>110人</td> <td>117人</td> <td>96人</td> <td>102人</td> <td>83人</td> <td>89人</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>123人</td> <td>112人</td> <td>97人</td> <td>111人</td> <td>119人</td> <td>143人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172人</td> <td>3,490人</td> <td>3,409人</td> <td>3,391人</td> <td>2,975人</td> <td>2,645人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	精神科連携	153人	196人	160人	135人	156人	159人	児童相談所	5回	16回	5回	27回	5回	11回	小児慢性特定疾病	135人	100人	172人	181人	176人	182人	児童福祉法	110人	117人	96人	102人	83人	89人	精神保健	123人	112人	97人	111人	119人	143人	計	3,172人	3,490人	3,409人	3,391人	2,975人	2,645人																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
精神科連携	153人	196人	160人	135人	156人	159人																																																																					
児童相談所	5回	16回	5回	27回	5回	11回																																																																					
小児慢性特定疾病	135人	100人	172人	181人	176人	182人																																																																					
児童福祉法	110人	117人	96人	102人	83人	89人																																																																					
精神保健	123人	112人	97人	111人	119人	143人																																																																					
計	3,172人	3,490人	3,409人	3,391人	2,975人	2,645人																																																																					
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>99</p>	<p>①・小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。</p>	<p>こども</p>	<p>公費負担患者状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,621</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> <td>1,842</td> <td>1,837</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>831</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> <td>471</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>224</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> <td>164</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>128</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>138</td> <td>115</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>生涯保護</td> <td>135</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> <td>176</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>110</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>123</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> <td>119</td> <td>143</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,172</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> <td>2,975</td> <td>2,645</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,837	育成医療	831	657	721	722	471	114	養育医療	224	179	258	240	164	189	特定疾患	128	134	7	6	5	3	特定疾病	-	33	157	138	115	88	生涯保護	135	100	172	181	176	182	精神保健	110	117	96	102	83	89	その他	123	112	97	111	119	143	計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,645
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																																																					
小児慢性	1,621	2,158	1,901	1,891	1,842	1,837																																																																					
育成医療	831	657	721	722	471	114																																																																					
養育医療	224	179	258	240	164	189																																																																					
特定疾患	128	134	7	6	5	3																																																																					
特定疾病	-	33	157	138	115	88																																																																					
生涯保護	135	100	172	181	176	182																																																																					
精神保健	110	117	96	102	83	89																																																																					
その他	123	112	97	111	119	143																																																																					
計	3,172	3,490	3,409	3,391	2,975	2,645																																																																					
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>	<p>説明</p>	<p>A</p>	<p>地域の医療従事者も参加できるカンファレンス等(拡大キャンペーン)を定期的に開催し、地域医療機関等との情報共有の場として積極的な意見交換を行った。</p>																																																																						
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>	<p>説明</p>	<p>A</p>	<p>他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。</p>																																																																						
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>	<p>説明</p>	<p>A</p>	<p>他団体等が主催する講演会の講師として医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。</p>																																																																						
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>	<p>説明</p>	<p>A</p>	<p>県内精神医療の中核病院として、医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応している。</p>																																																																						
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>	<p>説明</p>	<p>A</p>	<p>教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図った。</p>																																																																						
<p>(3)社会的な要請への協力 県立病院が有する人材や知見を提供し、鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に積極的に協力すること。</p>	<p>I 4 (3)</p>	<p>30年度実績 自己評価</p>	<p>説明</p>	<p>A</p>	<p>公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応した。</p>																																																																						

第1 県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上に関する目標を達成するための措置

中期計画		30年度実績 自己評価	
中期計画	年度計画	行動計画	業務の実績
No.			
第2 5 災害等における医療救護	第2 5 災害等における医療救護 地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県内の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時においては静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	-	-
第2 5 災害等における医療救護 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担うとともに、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組みこと。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実践的な災害医療訓練を定期的に関催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上していくとともに、災害等の発生時には重篤患者の受け入れ、県内外DMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は、災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	100 ①・災害医療訓練を実施する。 ②・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようになる。	30年度実績 H30.7.12 静岡県健康福祉部防災訓練に参加 H30.9.3~27 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。(新規採用職員を中心に約100人参加) ・第2期中期期間 (H26~30) 毎年度12月第1日曜日(静岡県地域防災の日)に全職種を対象としたトリアージ訓練(200名程度参加)を行っている。 H26 防災マニュアルの改訂を行った。 H28 県から静岡DMAT体制強化推進事業を受託した。 H29 先端医学棟2階に災害対策本部を整備した。 H30 原子力災害拠点病院に指定された。
第2 5 災害等における医療救護 県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担うとともに、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組みこと。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実践的な災害医療訓練を定期的に関催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上していくとともに、災害等の発生時には重篤患者の受け入れ、県内外DMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は、災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	101 こころ ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	災害時に対する日頃の備えに努めるため、EMISによる情報伝達・避難訓練や規模に応じた災害の発生を想定し、各種訓練を実施した。 H30.9北海道胆振東部地震におけるDPAT事務局災害対策本部へ職員を派遣するなど、院外の精神保健医療活動に積極的に関わった。
第2 5 災害等における医療救護 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	102 こども ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。	小児医療の拠点病院として、各種防災訓練を企画・実施した。
第2 5 災害等における医療救護 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT（災害派遣医療チーム）・DPAT（災害派遣精神医療チーム）の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103 総合 災害医療救護応援班の訓練を実施する。	30年度実績 H30.8.4 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員2人が参加した。 H30.8.30 静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員6人が参加した。 H30.9.2 静岡市・静岡県総合防災訓練(実働)にDMAT隊員等23人が参加した。 ・第2期中期期間 (H26~30) 災害医療救護応援班の訓練を実施した。

DMAT訓練回数 (単位:回)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
訓練	-	7	6	8	8	8

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画

中期計画		中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度 自己評価
<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</p> <p>医療の質の向上を目指し、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、業務運営の改善及び効率化に努め、生産性の向上を図ること。</p>	<p>第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置</p> <p>業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努め、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。</p>	<p>II</p>	<p>業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためのとるべき措置</p> <p>業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努め、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。</p>				<p>説明</p>
<p>1 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、簡素で効率的な組織体制を確立すること。</p>	<p>1 簡素で効率的な組織づくり</p> <p>医療環境の変化や県民の医療ニーズに的確に対応されるよう簡素で効率的な組織づくりを進めるとともに、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。</p>	<p>II</p> <p>1</p>	<p>簡素で効率的な組織づくり</p> <p>①意思決定の迅速化・情報の共有化</p> <p>②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映</p> <p>③人事評価の制度化に向けた取組み</p>	104	<p>①②・組織の効率化、各種権限の病院長への委任により事務のスピード化を図る。</p> <p>①②・理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を毎月開催（8月を除く）し、法人の運営情報の共有化を図るとともに、予算の補正等の緊急な課題に対する即時的な対応を行う。</p> <p>③・全職員を対象とした人事評価制度の試行を円滑に実施する。</p>	<p>A</p> <p>毎月、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われた。</p> <p>勤務成績評価制度の試行については、本部と各病院が連携し円滑に実施することができ、職員のモチベーション向上への寄与が図られたものと考えている。県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と合意し、H30年4月から試行を開始した。</p>	
<p>2 効率的な業務運営の実現</p> <p>各職員が専門性を十分に発揮できるように体制を整備するとともに、業務量に応じた柔軟な職員配置に努める。</p>	<p>2 効率的な業務運営の実現</p> <p>各職員が専門性を十分に発揮できるように体制を整備するとともに、業務量に応じた柔軟な職員配置に努める。</p>	<p>II</p> <p>2</p>	<p>①・効果的な職員採用</p> <p>②・柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用</p> <p>③・看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な多角的な確保対策の実施</p>	105	<p>①・優秀な職員を確保する仕組みを設け、効果的な採用を実施する。</p> <p>②・職員の採用に対し、広報等様々な取組みを行うことで、必要な職員数の確保に努める。</p> <p>③・柔軟な採用試験の実施により、必要な人材の確保に努める。</p> <p>④・パンフレット作成、ホームページへの情報掲載、就職セミナー等での周知を行う。</p> <p>⑤・看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。</p>	<p>・H30実績</p> <p>H30年度には、事務職員2人、コメデイカル4人を採用している。</p> <p>・第2期中期期間（H26～30）法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮した採用を実施した。</p> <p>H28年度からアソシエイトの制度を導入した。</p> <p>H29年度には、経営等に精通した事務職員1人を採用した。また、診療放射線技師（医学物理士）1人を採用した。初めてアソシエイトの公募を医療技術職で実施し、栄養アソシエイト1人、言語聴覚アソシエイト1人の採用を決定した。</p> <p>H30年度には、事務職員2人、コメデイカル4人を採用している。</p>	<p>A</p> <p>事務職員・看護師・コメデイカルのうち、優秀な有期職員について、アソシエイトの登用を進めている。事務のアソシエイトについては公募試験を開始した。</p> <p>ホームページへの掲載や就職セミナーへの参加など積極的に広報を行い、人材の確保につながっている。</p> <p>看護師修学資金については、一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。</p> <p>効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につながった。</p>

看護師修学資金の状況 (単位：人)

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	計
決定	73	74	123	88	114	55	527
継続	52	80	99	126	163	182	702
取消	▲6	▲12	▲11	▲5	▲9	▲8	▲51
貸与計	119	142	211	209	268	229	1,178
採用	38	33	76	40	63	62	312

アソシエイト採用実績 (単位：人)

区分	28年度	29年度	30年度
看護師	5	1	-
事務	2	2	2
コメデイカル	-	3	4
計	7	6	6

採用関係ホームページアクセス数

区分	27年度	28年度	29年度	30年度
アクセス数	年間 88,062	69,555	69,291	46,974

※H27に現システムを使用開始
H27は事務、コメデイカル採用試験分を含む

中期目標	中期計画	年度計画	行動計画	業務の実績	30年度 自己評価																																												
	<p>・診療報酬など収入の適正な確保の内容に多様な契約手法の活用や事務の効率化に努める。</p>	<p>④・診療報酬など収入の適正な確保 ⑤・業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減</p>	<p>④・未収金の圧縮を図るため、未収金の取納勧奨等について外部の専門会社を活用する。 ④・医療費に係る相談体制の充実 ④・未収金回収のアウトソーシングの促進等、効率的な未収金対策を講じる。</p>	<p>24年度から弁護士法人へ委託先を変更した結果、回収率の改善が図られている。</p> <table border="1" data-bbox="346 1023 609 1439"> <caption>30年度未収金回収実績(弁護士事務所委託分) (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>29年度 未回収額</th> <th>新規委託額</th> <th>回収額</th> <th>中止額</th> <th>30年度 未回収額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>25,038</td> <td>19,016</td> <td>12,204</td> <td>18,035</td> <td>13,815</td> </tr> <tr> <td>ところ</td> <td>10,888</td> <td>2,271</td> <td>2,494</td> <td>235</td> <td>10,429</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3,948</td> <td>1,654</td> <td>1,736</td> <td>2,329</td> <td>1,538</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>39,874</td> <td>22,941</td> <td>16,434</td> <td>20,599</td> <td>25,782</td> </tr> </tbody> </table> <p>未収金回収率の推移 (単位：%)</p> <table border="1" data-bbox="514 934 609 1439"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回収率</td> <td>45.4%</td> <td>59.0%</td> <td>65.2%</td> <td>72.0%</td> <td>72.6%</td> <td>82.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。</p>	区分	29年度 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	30年度 未回収額	総合	25,038	19,016	12,204	18,035	13,815	ところ	10,888	2,271	2,494	235	10,429	こども	3,948	1,654	1,736	2,329	1,538	計	39,874	22,941	16,434	20,599	25,782	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	回収率	45.4%	59.0%	65.2%	72.0%	72.6%	82.5%	<p>A 未収金回収業務の外部委託により回収率が改善しており、収入の適正な確保を図られている。</p>
区分	29年度 未回収額	新規委託額	回収額	中止額	30年度 未回収額																																												
総合	25,038	19,016	12,204	18,035	13,815																																												
ところ	10,888	2,271	2,494	235	10,429																																												
こども	3,948	1,654	1,736	2,329	1,538																																												
計	39,874	22,941	16,434	20,599	25,782																																												
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
回収率	45.4%	59.0%	65.2%	72.0%	72.6%	82.5%																																											
			<p>⑤SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。</p>	<p>・第2期中期期間(H26～30) 診材期限切れによる減耗額は、H30年度969千円で、SPD導入前と比較して24%減である。これはSPDを導入し物流倉庫で一元管理したことにより、不要なものの発注が少なくなったこと、適正在庫を先入れ先出しで運用できていること、不動態在庫の使用促進の効果が出ているためと言えらる。診材在庫は手術件数の増加や高額な材料を使用する手技が新たに開始される等で、手術室や血管造影室は増えているが、病棟や外来は横ばいである。</p> <p>・H30年度薬品、診療材料在庫額 薬品については、年2回の棚卸に薬品担当者が介入することで、精度の高い棚卸を実施。診療材料は、パッキングする品目を増やし最小単位で定数を設定することや、SPDがこまめに病棟の棚をチェックして棚差を減らすことに努めた。また年2回の定数変更時に、定数在庫へ美在庫を合わせることで、過剰在庫の抑制を図った。</p> <table border="1" data-bbox="934 771 997 1409"> <caption>薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>162,822</td> <td>179,830</td> <td>114,860</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> <td>92,244</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>180,834</td> <td>169,947</td> <td>179,513</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> <td>224,292</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	102,777	92,244	診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	216,079	224,292	<p>A SPD協力の下、期限切れについては切迫品の可視化を行い部署へ啓蒙、他部署の使用状況をみて移管するなどの取り組みを行っている。また不動態在庫をリスト化し、使用促進の効果が出ている。 在庫額については、手術件数の増加や高額な材料を使用する手技が新たに開始される等で増えているものの、その他の部署では定数設定の見直しや最小単位での管理項目を増加したことによって適正在庫での管理ができるようになってきた。</p>																							
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度																																											
薬品	162,822	179,830	114,860	101,066	102,777	92,244																																											
診療材料	180,834	169,947	179,513	191,861	216,079	224,292																																											
	<p>④・積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。</p>		<p>(総合) ・施設基準取得状況 入院基本料については前年度から医療・看護必要度の精度向上対応の成果もあり、最も高い点数で継続して届出を行なった。 ・抗菌薬適正使用支援チームについて6月より届け出た。 ・新規医療技術について適切な評価を受けるために、基準を満たした項目について新規届出を行った。(ダ・ヴィンチ手術、胸腔鏡下弁手術など) ・精神科医師の採用により、緩和ケアチームについて2月より届け出た。 ・診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ。 H30.4月開催：診療報酬改定説明会 H31.2月開催：適時調査の概要と主な留意点(こども) ・医療観察法における通院対象者社会復帰体制強化加算の新規届出を行った。 ・診療報酬に係る研修を開催し、適正な収入確保に取り組んだ H30.1月開催：特定共同指導の結果について H30.3月開催：診療報酬改定について</p>	<p>請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。 A 新規やランクアップの届出が可能な項目について積極的に届出を行うよう努めた。</p>	<p>請求精度の向上を目指して、研修会等を確実に開催した。 A 新規やランクアップの届出が可能な項目について積極的に届出を行うよう努めた。</p>																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度 自己評価																																																																																																																																																																																																																											
			109	<p>⑤・材料費等の削減のための対策を実施する。 ・診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。</p>	<p>診療材料コスト削減実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2,159</td> <td>4,314</td> <td>68,499</td> <td>34,307</td> <td>27,923</td> <td>85,869</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>641</td> <td>107</td> <td>446</td> <td>95</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,622</td> <td>19,581</td> <td>6,707</td> <td>8,320</td> <td>6,182</td> <td>15,458</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,811</td> <td>23,895</td> <td>75,847</td> <td>42,734</td> <td>34,551</td> <td>101,422</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>30年度 新規購入・廃止した診療材料・薬品、品目数の実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>発注数</th> <th>廃止数</th> <th>発注数</th> <th>廃止数</th> <th>発注数</th> <th>廃止数</th> <th>発注数</th> <th>廃止数</th> <th>発注数</th> <th>廃止数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>15,715</td> <td>1,597</td> <td>1,283</td> <td>16,029</td> <td>1,646</td> <td>63</td> <td>87</td> <td>1,622</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>422</td> <td>10</td> <td>40</td> <td>392</td> <td>676</td> <td>114</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>755</td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,076</td> <td>175</td> <td>271</td> <td>3,980</td> <td>1,282</td> <td>57</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>1,294</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>20,213</td> <td>1,782</td> <td>1,594</td> <td>20,401</td> <td>3,604</td> <td>234</td> <td>167</td> <td>167</td> <td>3,671</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>30年度 破棄・破損額 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">診療材料費</th> <th colspan="2">薬品費</th> <th colspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>5,625</td> <td>6,150</td> <td>11,775</td> <td>24.7</td> <td>24.3</td> <td>24.7</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>58</td> <td>210</td> <td>268</td> <td>27.2</td> <td>27.2</td> <td>31.3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3,039</td> <td>1,961</td> <td>5,000</td> <td>17.0</td> <td>20.5</td> <td>21.6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,722</td> <td>8,321</td> <td>17,043</td> <td>20.5</td> <td>20.5</td> <td>22.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>30年度 薬品・後発品採用率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">27年度</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> </tr> <tr> <th>採用率</th> <th>採用率</th> <th>採用率</th> <th>採用率</th> <th>採用率</th> <th>採用率</th> <th>採用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16.9</td> <td>24.3</td> <td>24.3</td> <td>24.3</td> <td>24.7</td> <td>26.0</td> <td>26.0</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>23.5</td> <td>27.2</td> <td>27.2</td> <td>27.2</td> <td>31.3</td> <td>34.4</td> <td>34.4</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>17.0</td> <td>20.5</td> <td>20.5</td> <td>20.5</td> <td>21.6</td> <td>22.3</td> <td>22.3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度		実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	総合	2,159	4,314	68,499	34,307	27,923	85,869						こども	30	0	641	107	446	95						こども	2,622	19,581	6,707	8,320	6,182	15,458						合計	4,811	23,895	75,847	42,734	34,551	101,422						区分	30年度		29年度		28年度		27年度		26年度		発注数	廃止数	発注数	廃止数	発注数	廃止数	発注数	廃止数	発注数	廃止数	総合	15,715	1,597	1,283	16,029	1,646	63	87	1,622			こども	422	10	40	392	676	114	35	35	755		こども	4,076	175	271	3,980	1,282	57	45	45	1,294		合計	20,213	1,782	1,594	20,401	3,604	234	167	167	3,671		区分	診療材料費		薬品費		合計		27年度	28年度	29年度	30年度	27年度	28年度	総合	5,625	6,150	11,775	24.7	24.3	24.7	こども	58	210	268	27.2	27.2	31.3	こども	3,039	1,961	5,000	17.0	20.5	21.6	合計	8,722	8,321	17,043	20.5	20.5	22.3	区分	27年度		28年度		29年度		30年度		採用率	採用率	採用率	採用率	採用率	採用率	採用率	総合	16.9	24.3	24.3	24.3	24.7	26.0	26.0	こども	23.5	27.2	27.2	27.2	31.3	34.4	34.4	こども	17.0	20.5	20.5	20.5	21.6	22.3	22.3	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度実績 <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度は交渉により約36百万円削減した。また共同購入成果により約50百万円還元となった。 ・第2期中期期間(H26～30) <ul style="list-style-type: none"> ・各病院において、診療材料委員会を中心に関係職員を意識を徹底し、適正な調達に努めている。 ・診療材料単価低減を図るため、医療従事者と協働した購入材料の選定や価格交渉を推進した。 ・薬品費の削減と薬剤部門職員の業務軽減を図るため、一薬品メーカー・一卸業者制度を継続するとともに、機械に薬品を納入する卸業者の数を5社で競争を行い、ベンチマーク調査等を活用して周辺の値引率を把握しつつ、値引率向上を図っている。 ・破損など原因ごとに対策を講じて、診療材料の廃棄量の削減に努めている。 	<p>30年度 自己評価</p> <p>(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体共済会MRPベンチマークシステムを用いて、卸・メーカーに対して診療材料の価格交渉や品目の切替を医療従事者の協力を得ながら行った。また、H29年9月より共同購入組織である「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス(略称:NHA)」に加盟し、診療材料費の削減を行っている。なお、共同購入の導入分野は、H29年度に循環器虚血、整形、事務管理が追加、さらにH30年度は循環器不整脈、PTA、眼科が新たに追加され、より一層の削減を行っている。 <p>A</p> <p>診療材料費については、共同購入に加盟したことにより既存メーカーへより強い交渉が出来るようになり、H30年度は約36百万円削減した。</p> <p>薬品費については、MRPベンチマークなどを用いて具体的な目標価格を設定し価格交渉を実施した。また、一部の高額医薬品について、院内処方に切り替えて収益の増加を図った。</p>
区分	25年度		26年度		27年度		28年度		29年度		30年度																																																																																																																																																																																																																						
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績																																																																																																																																																																																																																						
総合	2,159	4,314	68,499	34,307	27,923	85,869																																																																																																																																																																																																																											
こども	30	0	641	107	446	95																																																																																																																																																																																																																											
こども	2,622	19,581	6,707	8,320	6,182	15,458																																																																																																																																																																																																																											
合計	4,811	23,895	75,847	42,734	34,551	101,422																																																																																																																																																																																																																											
区分	30年度		29年度		28年度		27年度		26年度																																																																																																																																																																																																																								
	発注数	廃止数	発注数	廃止数	発注数	廃止数	発注数	廃止数	発注数	廃止数																																																																																																																																																																																																																							
総合	15,715	1,597	1,283	16,029	1,646	63	87	1,622																																																																																																																																																																																																																									
こども	422	10	40	392	676	114	35	35	755																																																																																																																																																																																																																								
こども	4,076	175	271	3,980	1,282	57	45	45	1,294																																																																																																																																																																																																																								
合計	20,213	1,782	1,594	20,401	3,604	234	167	167	3,671																																																																																																																																																																																																																								
区分	診療材料費		薬品費		合計																																																																																																																																																																																																																												
	27年度	28年度	29年度	30年度	27年度	28年度																																																																																																																																																																																																																											
総合	5,625	6,150	11,775	24.7	24.3	24.7																																																																																																																																																																																																																											
こども	58	210	268	27.2	27.2	31.3																																																																																																																																																																																																																											
こども	3,039	1,961	5,000	17.0	20.5	21.6																																																																																																																																																																																																																											
合計	8,722	8,321	17,043	20.5	20.5	22.3																																																																																																																																																																																																																											
区分	27年度		28年度		29年度		30年度																																																																																																																																																																																																																										
	採用率	採用率	採用率	採用率	採用率	採用率	採用率																																																																																																																																																																																																																										
総合	16.9	24.3	24.3	24.3	24.7	26.0	26.0																																																																																																																																																																																																																										
こども	23.5	27.2	27.2	27.2	31.3	34.4	34.4																																																																																																																																																																																																																										
こども	17.0	20.5	20.5	20.5	21.6	22.3	22.3																																																																																																																																																																																																																										
			110	<p>⑤・効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。</p>	<p>業務の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各病院において、病院一体となって徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等の徹底により競争性を確保することとなり、効率的な購入及び管理に努めた。 ・価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 ・機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。 ・価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 ・保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や保守内容の見直しを行いコスト低減を図っている。 	<p>30年度 自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徹底した価格交渉や競争性確保に努めた結果、適正価格での購入が行えた。 ・案件に応じ「購入+保守管理」一括評価で調達を行い、トータルコストを削減した。 ・保守委託については3病院一括化契約等により、法人化や規模のメリットを生かしたコスト削減を図った。 <p>A</p>																																																																																																																																																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度 自己評価																																																																																																			
					<p>・委託費の削減を図るため、複数病院一括化、複数年契約化を行った。また、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。(H30年度の契約更新においては、エアージェンター設備等保守点検業務委託が、こども病院的単独となったため、本一括契約の対象から外した。)</p> <p>・委託の仕様の徹底した見直しを行った。</p> <p>・コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図った。</p>	<p>30年度 委託報告等の見直し状況（単年度ベース） （単位：千円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種類</th> <th>種類</th> <th>総額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>単価</td> <td>単価</td> <td>6,649</td> </tr> <tr> <td>感染管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>単価</td> <td>単価</td> <td>40,029</td> </tr> <tr> <td>産後ケア業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>単価</td> <td>単価</td> <td>5,888</td> </tr> <tr> <td>清掃業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.10～H31.9</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>93,137</td> </tr> <tr> <td>洗濯業務委託</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>H30.9～H31.8</td> <td>単価</td> <td>単価</td> <td>67,820</td> </tr> <tr> <td>医師用植木賃借料</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>R1施設管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>14,234</td> </tr> <tr> <td>医療機器保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>170,001</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>263,707</td> </tr> <tr> <td>シーメンス社救急通報器保守業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.4～H31.3</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>126,907</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>H30.7～H31.3</td> <td>定額</td> <td>定額</td> <td>10,260</td> </tr> <tr> <td colspan="7">合計</td> </tr> <tr> <td colspan="7">799,381</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	種類	総額	一般業務委託	3病院	3年	H30.4～H31.3	単価	単価	6,649	感染管理業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	単価	単価	40,029	産後ケア業務委託	3病院	3年	H30.4～H31.3	単価	単価	5,888	清掃業務委託	3病院	3年	H30.10～H31.9	定額	定額	93,137	洗濯業務委託	3病院	5年	H30.9～H31.8	単価	単価	67,820	医師用植木賃借料	心・子	3年	H30.4～H31.3	定額	定額	235	R1施設管理業務委託	3病院	3年	H30.4～H31.3	定額	定額	14,234	医療機器保守点検業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	定額	定額	170,001	放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	定額	定額	263,707	シーメンス社救急通報器保守業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	定額	定額	126,907	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H30.7～H31.3	定額	定額	10,260	合計							799,381							<p>・月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。</p> <p>・また、会議や職員報を通して経営分析を職員に周知し、理事長、副理事長ら研修等を行うことで、職員の経営に対する意識啓発が図られている。</p>
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	種類	総額																																																																																																			
一般業務委託	3病院	3年	H30.4～H31.3	単価	単価	6,649																																																																																																			
感染管理業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	単価	単価	40,029																																																																																																			
産後ケア業務委託	3病院	3年	H30.4～H31.3	単価	単価	5,888																																																																																																			
清掃業務委託	3病院	3年	H30.10～H31.9	定額	定額	93,137																																																																																																			
洗濯業務委託	3病院	5年	H30.9～H31.8	単価	単価	67,820																																																																																																			
医師用植木賃借料	心・子	3年	H30.4～H31.3	定額	定額	235																																																																																																			
R1施設管理業務委託	3病院	3年	H30.4～H31.3	定額	定額	14,234																																																																																																			
医療機器保守点検業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	定額	定額	170,001																																																																																																			
放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	定額	定額	263,707																																																																																																			
シーメンス社救急通報器保守業務委託	3病院	1年	H30.4～H31.3	定額	定額	126,907																																																																																																			
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	H30.7～H31.3	定額	定額	10,260																																																																																																			
合計																																																																																																									
799,381																																																																																																									
			111	<p>⑤・複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。</p>	<p>・理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行うっている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。</p> <p>・月次決算において、費用計上を発生主義から年間平準化計上へ手法を改めることにより、適切な経営状況の把握に努めている。</p> <p>・職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>・院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。</p> <p>・主にH27年度から、上記取り組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。</p>	A																																																																																																			
			112	<p>⑥・経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備</p> <p>⑦・経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上</p>	<p>⑥・毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。</p> <p>⑦・より効率的で安定的な経営を維持するため原価計算への取組を推進する。</p> <p>⑧・機構の直近の経営状況を職員（特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員）に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。</p>	A																																																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度 自己評価																																	
<p>3 事務部門の専門性の向上 事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。</p>	<p>3 事務部門の専門性の向上 経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用するとともに、専門性の向上に計画的に取り組む。併せて、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるよう病院運営や医療事務等に精通した人材の確保に努める。</p>	<p>II 3 事務部門の専門性の向上の実施、学会発表等への参加など ①・階層や職務に応じた効果的な研修の追加 ②・異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT (on-the-job training) をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③・診療情報管理機能の強化</p>	<p>113</p>	<p>①・階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ②・職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。</p>	<p>・H30実績 事務職員に対する研修状況</p> <table border="1" data-bbox="325 926 562 1439"> <thead> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>5、6月 2日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>5月 1日間</td> </tr> <tr> <td>カクシ長昇任時</td> <td>新任監督者研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td>管理者（毎年度）</td> <td>コーチャング研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>フアンリテーション研修</td> <td>11月 1日間</td> </tr> <tr> <td>希望により任意参加</td> <td>カクシ研修</td> <td>12月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計基礎研修</td> <td>4月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>会計中級研修</td> <td>10月 半日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未収金回収研修</td> <td>11月 半日</td> </tr> </tbody> </table> <p>・第2期中期目標期間（H26～30） 28年度、29年度は事務職員が学会に参加し、事務職員の能力向上を図った。 また、病院職員としての自覚を促し、病院経営を学ぶため、県派遣職員及び管理・監督職員に、理事長・副理事長から直接講義をする機会を設けた。 人事異動については、職員の人材育成に主眼を置いた人事異動等を実施した。 30年度は、採用内定者研修、会計研修等を実施し、業務関連知識を高めた。職員の適正等を考慮し、適宜人事異動を行った。</p>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間	係長級昇任時	新任監督者研修	5月 1日間	カクシ長昇任時	新任監督者研修	7月 1日間	管理者（毎年度）	コーチャング研修	9月 1日間		コミュニケーション研修	7月 1日間		フアンリテーション研修	11月 1日間	希望により任意参加	カクシ研修	12月 半日		会計基礎研修	4月 半日		会計中級研修	10月 半日		未収金回収研修	11月 半日	<p>A 業務の基礎部分に対する研修体系は出来た。 事務職員の更なるレベルアップが必要である。</p>
受講時期	研修名	開催状況																																					
新採年度	新規採用職員研修	5、6月 2日間																																					
係長級昇任時	新任監督者研修	5月 1日間																																					
カクシ長昇任時	新任監督者研修	7月 1日間																																					
管理者（毎年度）	コーチャング研修	9月 1日間																																					
	コミュニケーション研修	7月 1日間																																					
	フアンリテーション研修	11月 1日間																																					
希望により任意参加	カクシ研修	12月 半日																																					
	会計基礎研修	4月 半日																																					
	会計中級研修	10月 半日																																					
	未収金回収研修	11月 半日																																					
			<p>114</p>	<p>③・診療情報管理業務に専門的に携わることができざる知識・技能を有する職員を育成する。</p>	<p>・H30実績 ・第2期中期目標期間（H26～30） 診療情報管理士資格の取得支援制度を設け、資格者の確保を図っている。 がん登録業務を担当する職員に国立がん研究センター主催院内がん登録実務研修を受講させるなど、専門性の向上を図っている。</p>	<p>A 診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者を確保している。</p>																																	

診療情報管理士研修状況

区分	28年度		29年度		30年度		31年度		32年度		33年度	
	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	研修	
総合	3	11	6	13	6	13	5	11	6	10	7	
がん	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	
その他	5	2	4	2	4	3	4	3	4	3	4	
本部	2	1	1	1	2	2	1	2	1	2	1	
計	4	18	10	18	10	18	11	17	17	12	17	

※ 研修科目別研修者数

中期目標	中期計画	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	30年度 自己評価																																																																																																																					
4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 業務改善に向けて、職員の意欲を高め、積極的な参画を促すなど、継続的に業務改善へ取り組む組織風土を醸成すること。	4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価するとともに、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	115	<ul style="list-style-type: none"> ・事務部門の業務マニユアルの作成等、業務の平準化や効率化のための取組を継続する。 	<p>業務の実績</p> <p>・ H30実績 ・業務の標準化を図るため、事務部門の業務マニユアル整備・活用に向けた取組を実施している。 ・院内コミュニケーションシステム上に整備したマニユアルを公開し、共有化している。 ・第2期中期目標期間（H26～30） ・事務部門における業務項目数に対して、マニユアル整備率を上げている。</p> <table border="1"> <caption>マニユアル整備状況 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">25年度</th> <th colspan="3">26年度</th> <th colspan="3">27年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>259</td> <td>97%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>163</td> <td>151</td> <td>93%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>252</td> <td>221</td> <td>88%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>827</td> <td>94%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">所属別</th> <th colspan="3">29年度</th> <th colspan="3">30年度</th> </tr> <tr> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>整備率</th> <th>業務項目数</th> <th>マニユアル整備数</th> <th>整備率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> <td>268</td> <td>268</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> <td>163</td> <td>163</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> <td>252</td> <td>252</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> <td>196</td> <td>196</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> <td>879</td> <td>879</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	所属別	25年度			26年度			27年度			業務項目数	マニユアル整備数	整備率	業務項目数	マニユアル整備数	整備率	業務項目数	マニユアル整備数	整備率	総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%	こども	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%	本部	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%	所属別	29年度			30年度			業務項目数	マニユアル整備数	整備率	業務項目数	マニユアル整備数	整備率	総合	268	268	100%	268	268	100%	こども	163	163	100%	163	163	100%	本部	252	252	100%	252	252	100%	本部	196	196	100%	196	196	100%	合計	879	879	100%	879	879	100%	<p>30年度 自己評価</p> <p>説明</p> <p>作成されたマニユアルを公開していることとで、マニユアルの共有化が図られている。 A</p>
所属別	25年度			26年度			27年度																																																																																																																				
	業務項目数	マニユアル整備数	整備率	業務項目数	マニユアル整備数	整備率	業務項目数	マニユアル整備数	整備率																																																																																																																		
総合	268	259	97%	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																		
こども	163	151	93%	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																		
本部	252	221	88%	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																		
本部	196	196	100%	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																		
合計	879	827	94%	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																		
所属別	29年度			30年度																																																																																																																							
	業務項目数	マニユアル整備数	整備率	業務項目数	マニユアル整備数	整備率																																																																																																																					
総合	268	268	100%	268	268	100%																																																																																																																					
こども	163	163	100%	163	163	100%																																																																																																																					
本部	252	252	100%	252	252	100%																																																																																																																					
本部	196	196	100%	196	196	100%																																																																																																																					
合計	879	879	100%	879	879	100%																																																																																																																					
4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 業務改善に向けて、職員が積極的に業務改善へ取り組むこと。	II 4 業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	業務改善に不断に取り組む組織風土の醸成 ・業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	116	<ul style="list-style-type: none"> ・院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。 	<p>業務の実績</p> <p>・ H30実績 業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備を図った。 ・第2期中期目標期間（H26～30） 法人化後構築した「改革・改善推進制度」を、26年度から「改善運動推進制度」、28年度から「業務改善運動推進制度」と名称を改め、引き続き職員が改善運動に進んで取り組めるよう促した。</p> <table border="1"> <caption>業務改善運動推進制度率績件数 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>前年増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>39</td> <td>49</td> <td>46</td> <td>43</td> <td>80</td> <td>72</td> <td>90%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>30</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>46</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>71</td> <td>50</td> <td>34</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>10</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>127</td> <td>144</td> <td>166</td> <td>178</td> <td>140</td> <td>79%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年増減率	総合	39	49	46	43	80	72	90%	こども	30	12	34	36	29	24	83%	こども	46	54	53	71	50	34	68%	本部	15	12	11	16	19	10	53%	計	130	127	144	166	178	140	79%	<p>業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備を図った。 H30年度は、昨年度と比較して減少したため、取り組みを強化していく必要がある。 A</p>																																																																					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	前年増減率																																																																																																																				
総合	39	49	46	43	80	72	90%																																																																																																																				
こども	30	12	34	36	29	24	83%																																																																																																																				
こども	46	54	53	71	50	34	68%																																																																																																																				
本部	15	12	11	16	19	10	53%																																																																																																																				
計	130	127	144	166	178	140	79%																																																																																																																				

(参考) 用語解説

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと位置付けている。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(DMAT:ディーマツト)
DPAT	DPATとは、disaster psychiatric assistance teamの略で、大規模災害発生後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(DPAT:ディーパット)
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFIU	MFIUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
NICU	NICUとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
PCI	血管に刺入する管(カテーテルという)を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して(経皮的)冠動脈インターベンション(PCI)と呼ぶ。 風船療法(カテーテルの先端の風船(バルーン)で狭窄した冠動脈を拡げる)や経皮的冠動脈ステント留置術(拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ)やDCA(カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法)やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。

用語 (50音順)	解 説
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography (ポジトロン・エミッション・トモグラフィ)の略で、PET検査とは、陽電子 (ポジトロン) を放出する放射性核種 (ポジトロン核種) で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V Iとは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁留置術」と訳されます。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
葵カード	連携安心カードともいい、病院から診療所に紹介する際に、病状悪化等で入院が必要になった場合に、葵カードを提示すれば県立総合病院が必ず対応するので安心してください、という意味で患者に渡すカードのこと。静岡市では、医師会と各病院が、病院の医師と診療所の医師の両方が役割分担して連携して患者を診る仕組みを運用している。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書 (東海北陸厚生局長指定、第0004号) により指定入院医療機関として指定された。
医療秘書 (医師事務作業補助者)	クラークとも言われ、病院勤務医の負担軽減を図るため、医師の事務作業を補助する職員のこと。 医師の指示の下、診断書の文章作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業 (診療に関するデータ整理、院内がん登録等の統計・調査、医師の教育や臨床研修のカンファレンスのための準備作業等) 並びに行政上の業務 (救急医療情報システムへの入力等) への対応を行う。
看護師修学資金制度	当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金 (月5万円) を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。 また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金 (返還資金) を貸与するメニューも用意している。
緩和ケア	主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。
がんセンターボード	がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者 (医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等) にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。

用語（50音順）	解 説
クリニカルパス	<p>クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。</p> <p>クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。</p>
クロザピン	<p>クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。</p>
固定チームナーシング	<p>入院患者への看護は、24時間体制で求められている。しかし、看護師ひとりでは、対応しきれないため、「看護提供方式」を活用して24時間の看護を提供している。「固定チームナーシング」は、いくつかある看護提供方式の内のひとつの方式のこと。</p> <p>1年間固定したチームメンバーで活動することを原則に、チームで患者の看護を行う方式である。固定チームの受け持ち患者を分担して受け持ち、入院から退院まで24時間チームメンバーにより看護が展開される。看護師メンバーが固定されることで、継続的な看護が提供される。</p>
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）</p>
コメディカル	<p>薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。</p>
ジェネリック医薬品（後発医薬品）	<p>特許権が消滅した医薬品について、特許権者ではなかった医薬品製造メーカーがその特許権の内容を利用して製造した医薬品のこと。</p>
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。</p> $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。</p> $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）= 研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目）+ 後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>
新専門医制度	<p>新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。</p> <p>ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）</p>

用語（50音順）	解 説
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）および医療研修推進財団が資格付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>
ダ・ヴィンチ	<p>3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。</p>
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。 ・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。 ・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。 ・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。 ・救急医療を提供する能力を有すること。
地域連携クリニカルパス	<p>病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。</p>
ドクターカー	<p>平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。</p>
認知行動療法	<p>認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。</p>
認定看護師	<p>認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。</p>

用語（50音順）	解 説
ハイブリッド手術室	<p>据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
マイトラクリップ	<p>マイトラクリップとは、手術リスクの高い僧帽弁閉鎖不全症患者に対して行う経カテーテル僧帽弁クリップ術である。</p> <p>2003年にヨーロッパで始まり、欧米を中心に6万人以上の治療実績を有する。日本では2017年10月に認可があり、全国12施設で約300症例に対して治療が行われている。</p>
リニアック	<p>リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。</p> <p>多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。</p>
レジデント	<p>初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。</p>